

夕張岳 大いなる自然

～その魅力を訪ねて～

夕張岳 大いなる自然 その魅力を訪ねて

ユウパリコザクラの会

ユウパリコザクラの会

ISBN978-4-99105-930-8

C3040 ￥1500E

定価（本体1500円＋税）



9784991059308



1923040015003

夕張岳山頂から熊が峰越しに前岳・滝ノ沢岳を望む

夕張岳 大いなる自然

～その魅力を訪ねて～

ユウパニコザクラの会

夕張岳の位置

【直線距離】

JR札幌駅から 73 km

新千歳空港から 58 km

林道入口
→林道ゲート
約 5 km
(舗装)

林道ゲート
→駐車場
約 8.7 km
(未舗装)

JR 清水沢駅
→林道入口
約 12 km

- 駐車場から冷水コース
登山口までは約 400m
- 馬の背コース登山口
(夕張岳ヒュッテ前)
までは約 600mです。

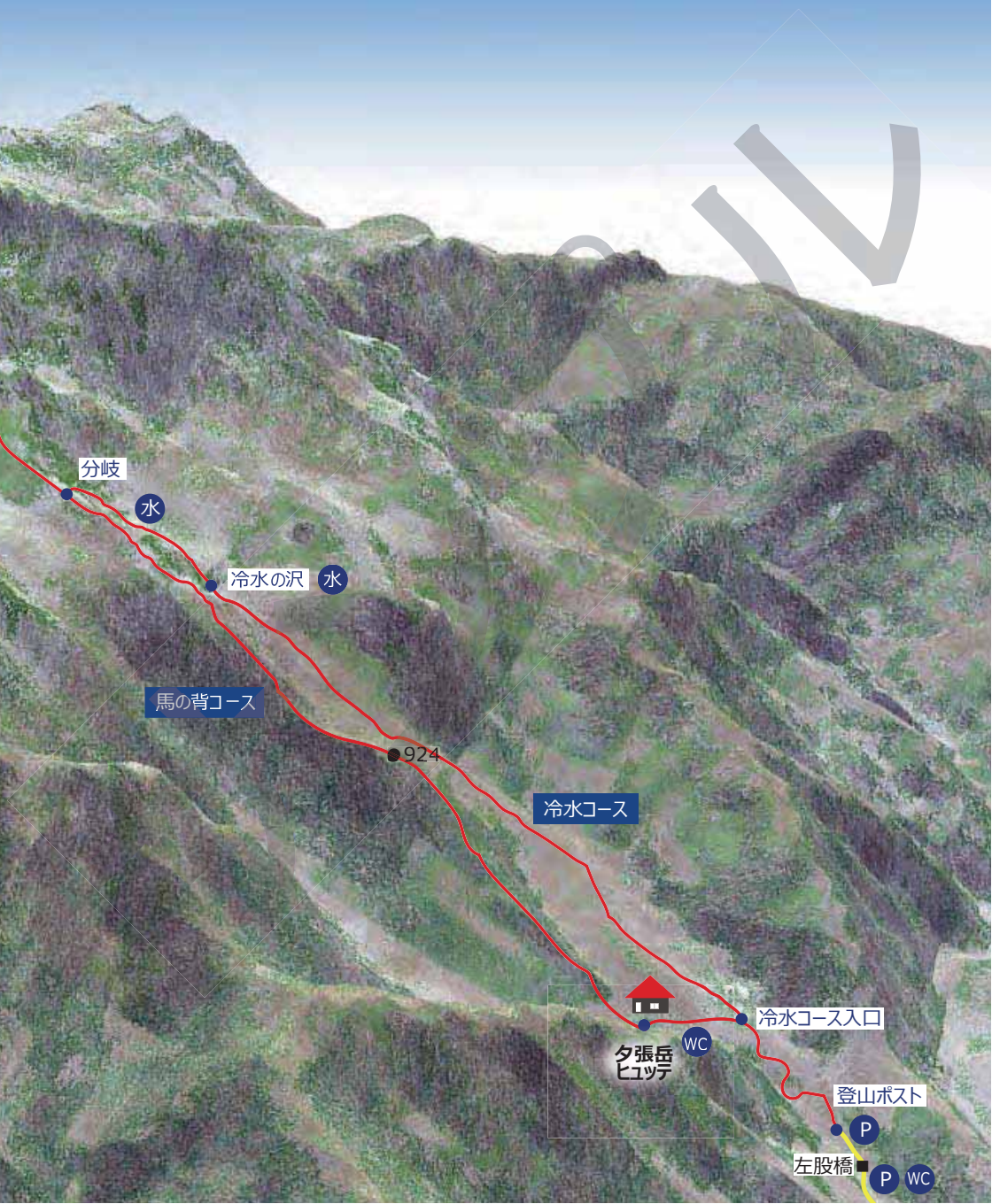


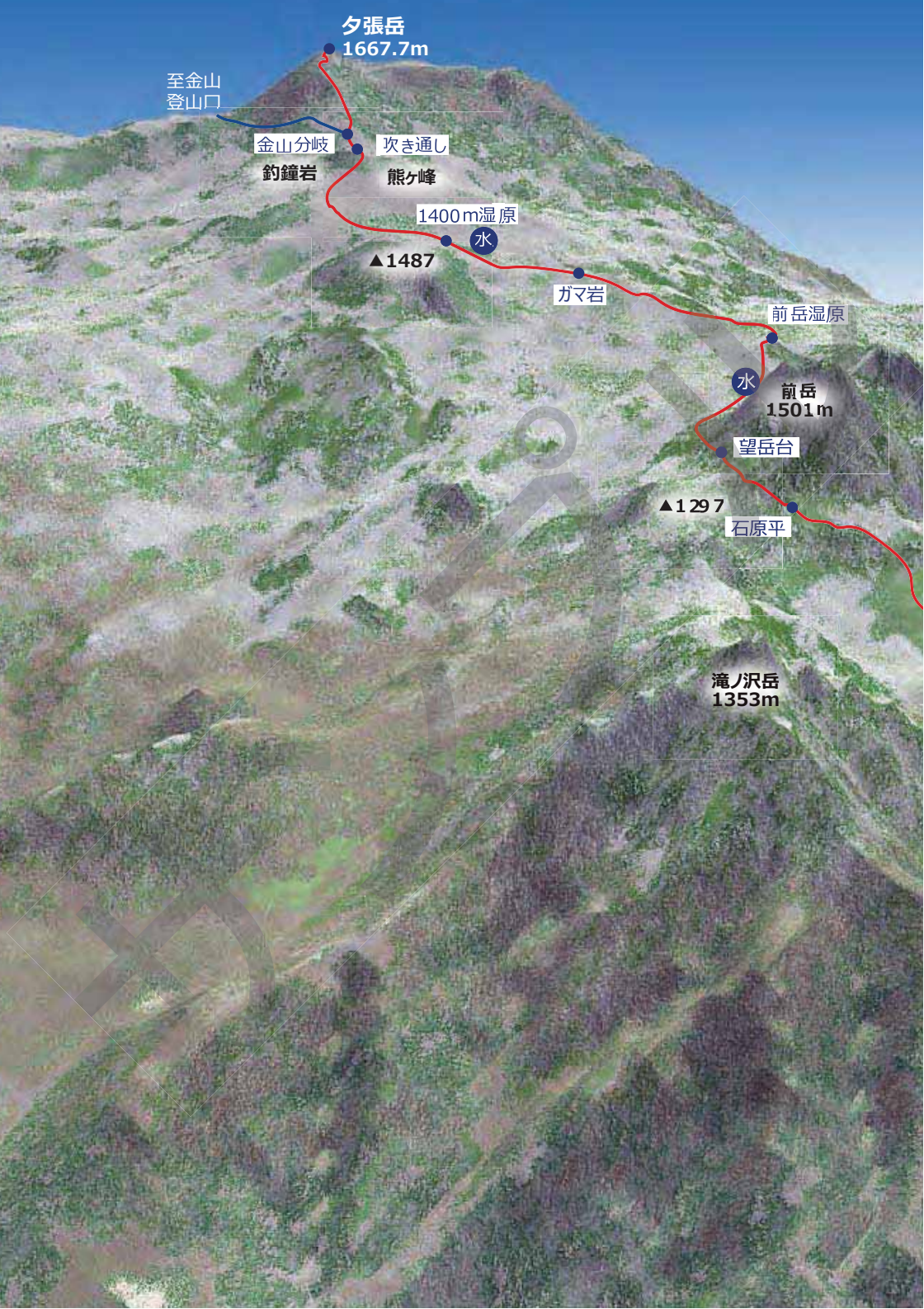
夕張岳 (1667. 8m)

夕張山地の南端に位置 (夕張市 南富良野町)

- ・富良野芦別道立自然公園 1955 年 (昭和 30 年)
- ・国指定 天然記念物 1996 年 (平成 8 年)
「夕張岳の高山植物群落及び蛇紋岩メランジュ帯」
- ・日本山岳遺産認定 2012 年 (日本山岳遺産基金)
- ・夕張岳生物群集保護林 2018 年 (北海道森林管理局)
- ・花の百名山 (1980 年 田中澄江)
- ・新・花の百名山 (1995 年 田中澄江)
- ・日本二百名山 (1984 年 深田久弥ファンクラブ)
- ・北海道百名山 (1993 年 山と溪谷社)
- ・北海道百名山 (2000 年 北海道新聞社)
- ・一等三角点百名山

夕張岳 大夕張コース登山道鳥瞰図





夕張岳
1667.7m

至金山
登山口

金山分岐
釣鐘岩

次き通し
熊ヶ峰

1400m湿原

水

▲1487

ガマ岩

前岳湿原

水

前岳
1501m

望岳台

▲1297

石原平

滝ノ沢岳
1353m

目次

はじめに

水尾 君尾（ユウパリコザクラの会 前事務局長）

1

夕張岳のおいたちと蛇紋岩メランジュ

中川 充（産総研北海道産学官連携センター）

2

夕張岳の森

鯨島 惇一郎（自然環境研究室）

12

夕張岳の植物

堀江 健二（旭川市北邦野草園園長）

34

夕張岳の高山植生とその保護について

佐藤 謙（北海学園大学名誉教授）

52

夕張岳の鳥類

富川 徹（野生生物総合研究所）

72

夕張岳高山帯の昆虫

福本 昭男（夕張自然科学研究会）

100

七十年前の鳥瞰図から振り返る炭都夕張

菊地 宏治（ユウパリコザクラの会 事務局長）

110

夕張岳登山情報

ユウパリコザクラの会

127

文化施設の夕張岳ヒュッテ

藤井 純一（ユウパリコザクラの会 代表）

144

夕張に咲く花々

阿部 博子（ユウパリコザクラの会 観察員）

150

夕張岳ヒュッテ建替えの歩み

三十周年記念誌編集委員会

195

編集後記

197

はじめに

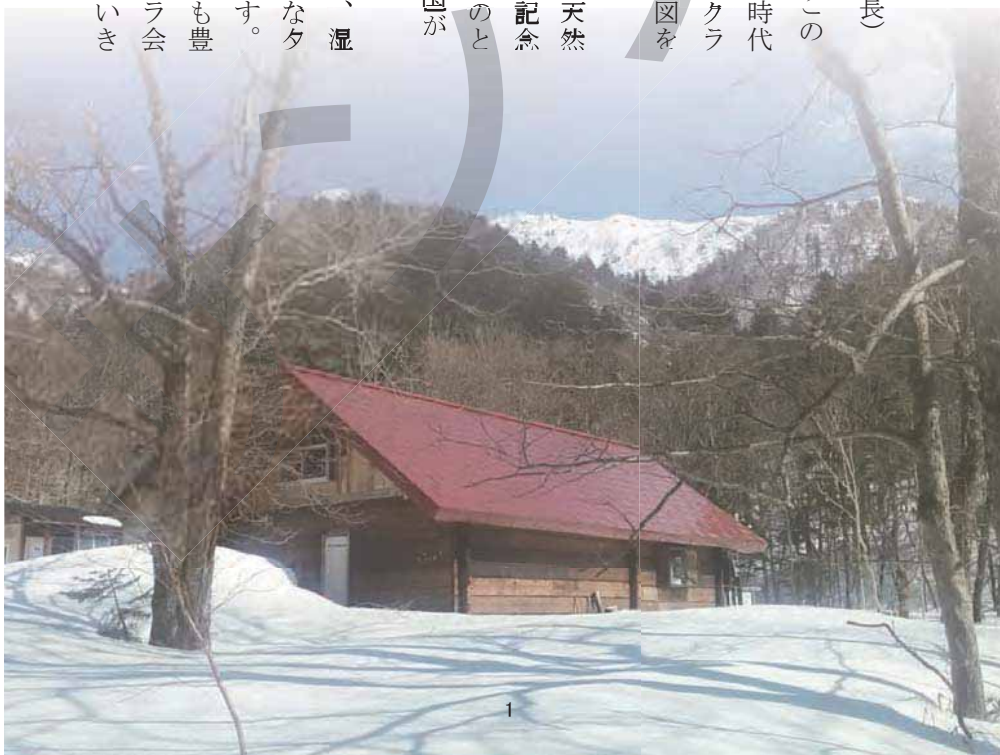
水尾 君尾（ユパリコザクラの会 前事務局長）

「夕張岳にスキー場ができるって本当ですか？」この重い問いかけにより、当時夕張から炭鉱が消滅する時代の申し子のように、1989年4月にユウパリコザクラの会が誕生しました。そして「明日の夕張岳の未来図を描いて」旗幟鮮明な市民運動が緒に就きました。

全国の自然保護団体とも連携をし、夕張岳が国の天然記念物指定を受けたのは1996年6月です。天然記念物は、日本の成り立ちを知る上で学術的価値なるものとして、「高山植物群落及び蛇紋岩メランジュ帯」を国が天然保護区域を定めました。

各方位から眺める蛇紋岩のノッカー地形の山容に、湿原を抱き、山裾にシューパロ湖をしたがえる神秘的な夕張岳の佇まいは、私たちの心の原風景となっています。

夕張のふるさととの山を次世代に残し、子供たちにも豊かな大自然に親しみ、楽しんで貰えるよう、コザクラ会では自然環境の保護保全に、これからも取り組んでいきます。



夕張岳のおいたちと蛇紋岩メランジュ

中川 充

(産総研北海道産学官連携センター)



夕張岳のおいたちと蛇紋岩メランジュ

中川 充

(産総研北海道産学官連携センター)

山と花

山がなければ高山植物はありません。この当たり前のことを皆さんは忘れていませんか。今まで沢山の高山植物が天然記念物に指定されてきました。しかし、高山植物を育んだ山も一緒に天然記念物の指定を受けることになったのは、夕張岳が初めてです。それは、山そのものが大変珍しく、そしてそのせいで珍しい高山植物が育ったからなのです。

夕張岳は、大雪山などの火山とは違い、噴火でできたわけではありません。私達の生きている地表はまんじゅうお饅頭を地球にたとえると表面を覆う薄皮の上



①西側から眺めた夕張岳の代表的な山容
左の尖鋒が前岳（M）、奥に夕張岳本峰（Y）、間に釣鐘岩（T）を見ることができる。

当たります。地球の薄皮を地殻（ちかく）と呼び、夕張岳は地殻の大規模な運動によって盛り上がり、できました。こうした大きな地球の動きと可憐な高山植物の関係をこれから探っていきましょう。

夕張岳のおいたち

夕張市のシューパロ湖や丁未風致公園など西側から見る夕張岳は、手前に前岳（一五〇一）のところが峰があり、その奥に夕張岳本峰が肩を張ったよう



にどつしりとそびえています（写真①）。夕張側から登山道を一時間ほど登ると道がだんだん急になってきます。これは、手前に見えた鋭い前岳の中腹にさしかかったから

です。この急な地形は枕状溶岩と呼ばれる岩石からできています。この岩石は、恐竜のいた大昔（一億数千万年前の中生代）に深い海の底で噴き出した溶岩だったのです（Ⅰ）。

海中で流れ出した高温の溶岩は柔らかなチューブ状になって広がって行き、それがいくつも重なりあって西洋枕を積み重ねたような岩石ができます。これが枕状溶岩です（写真②）。冷水の沢から憩沢までの途中で、岩肌が出ている所（露頭）はこの石です。丸い溶岩のしっぽが見られることでしょう。それでは、どうして海底の岩石が立派な山脈とな

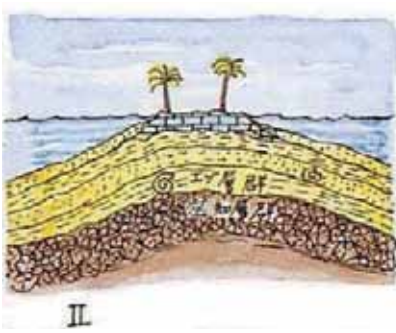


②枕状溶岩の産状

ったのでしよう。それは、まずこの溶岩の上に砂や泥が固まった堆積岩層（アンモナイト化石で有名な蝦夷層群）が重なります（Ⅱ）。

その後に、簡単にいえば地球規模の運動によって地殻が左右から押され、上向きにたわんで（摺曲）

一筋のシワのように上昇したのです（Ⅲ）。ですから、枕状溶岩の上に溜まったより新しい時代の堆積岩が夕張山脈の東西両側にあるのです。こうした構造を背斜構造とよびます。背斜構造の芯（軸）に当



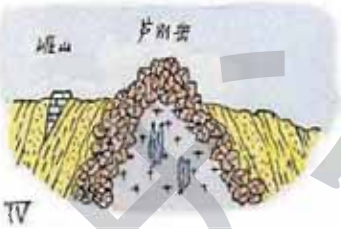
たる枕状溶岩は両側の堆積岩より堅いので、長い間の雨や雪や風による風化・浸食作用に耐えて残り（差別浸食）、ついには山脈となりました（Ⅳ）。こうしてできたのが、夕張山脈

の最高峰である芦別岳（二七二七呎）です（写真③）。

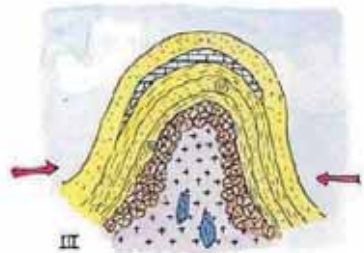
夕張岳の岩と地形

前岳から夕張岳にかけては、なだらかな平原の上にガマ岩などの岩が乗っかつ

ている独特の地形（ノッカー地形）を作っています（写真④）。これが夕張岳を中心



（写真④）。これが夕張岳を中心に広がる「蛇紋岩メランジユ」という珍しい地質現象で、高山植物とともに天然記念物の指定を受けることになりました。蛇紋岩メランジユとは、蛇紋岩中に様々な種類や大きさ・形の岩塊（岩石ブロック）が点在する

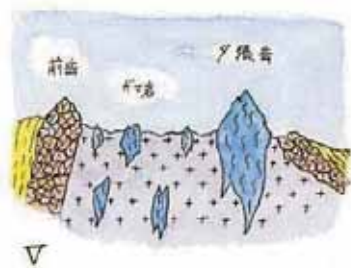




③夕張岳山頂 北には芦別岳 (A) が望まれる

ものをいいます。柔らかい蛇紋岩は浸食作用によってなだらかな平原を作ります。しかし、ガマ岩や釣鐘岩、そして夕張岳本峰をつくる岩塊は硬いのであまり浸食されず、平原上に飛び出して残ったのです。

これも差別浸食の結果です。蛇紋岩は、元々地殻の下のマントルにあつた重くて固いカンラン岩でした。それに壮大な地球の運動によって水が加わると、柔らかく軽い蛇紋岩に変わります。蛇紋岩はマントルから地殻に上がる途中の岩塊（変成岩や枕状溶岩が多い）を取り込んで一緒に持ち上げてきました。そして、お鰻頭の薄皮に一筋の盛り上がったしわを作るような地殻の摺曲運動と一緒にになり、ついには筋状の裂け目を作つて蛇紋岩のアンコがはみ





④典型的なノッカー地形の前岳～夕張岳本峰間
右上に前岳（M）、中央にガマ岩（G）、手前に蛇紋岩崩壊地、矢印は点
在する岩塊を示す

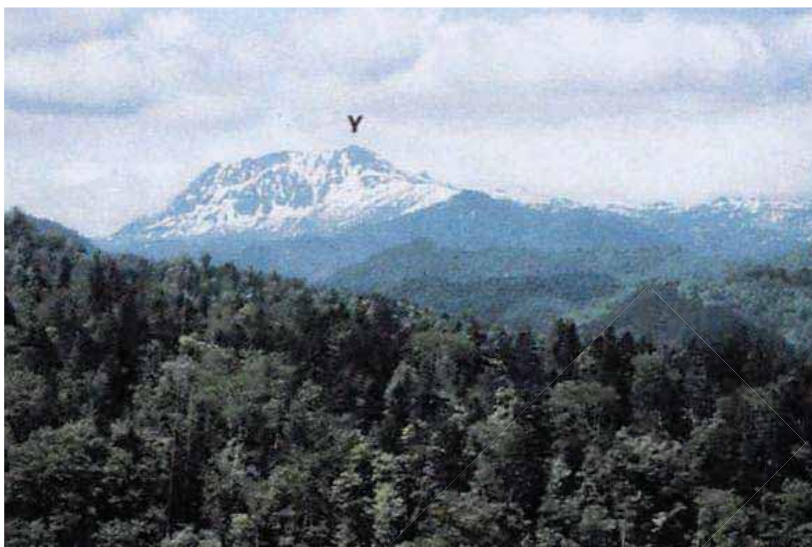
出して地表に顔をだしたのです（V）。

夕張岳の勇姿

南富良野町の金山ダムからは、荒々しい夕張岳本峰の東斜面を見ることができます（写真⑤）。

実は、この大きな夕張岳山頂ブロックは高山植物にとつて重要な役割を果たしているのです。蛇紋岩は柔らかいので崩れやすく、普通なら長い年月の間に山ではなくなってしまう。ところが夕張岳の場合、東側を巨大な夕張岳山頂ブロックに守られ、西側は前岳の硬い枕状溶岩層で城壁のようににはさまれたおかげで、蛇紋岩メランジュが標高の高い所に広く保たれているのです。

蛇紋岩は、ちようくわんしつ苦土（マグネシウム）や鉄の成分が多いので超苦鉄質（ちようえんきせい超塩基性）岩と呼ばれ、植物にとつて栄養分の乏しい土にしかありません。さらに、



⑤金山ダムより見た夕張岳（Y）

山岳地帯の厳しい気候条件も加わって氷河時代からの生き残りである高山植物しか生息できない環境となっているのです。でももし、山が低くなつて暖かくなったり、土に、栄養分が増えたりすると、より強い平地の植物が侵入してきて高山植物はやられてしまうでしょう。つまり、珍しい高山植物を守り育ててきたのは、気の遠くなるような長い間かかって作られてきた大地そのもの、夕張岳の生いたちの絶妙さだったのです。大自然が東西で協力しあつて作り上げてきた夕張岳の蛇紋岩メランジュと高山植物は、夕張岳の東西に住む方々の努力と協力で天然記念物に指定されたことに似ています。

自然に学ぶことはまだまだたくさんあります。ですから、できるだけ自然は自然のままにしておきましょう。そして、人目に付かない地味な石や土にも立派な役割があることを知っていただければ幸いです。



南より眺めた夕張岳全景（イラスト：八木健三氏）

1. 前岳 2. 滝ノ沢岳（姫岳） 3. ガマ岩 4. 釣鐘岩 5. 夕張岳
6. 芦別岳

この説明は一九九三年に北海道自然保護協会が発行した「夕張・芦別の自然」に八木健三先生と書いた文章を基礎にし、イラストを再使用させていただきました。



春の夕張岳

3月末は夕張岳の春山パトロール。まだ雪に覆われた冷水コース登山口からスキーを履いて登っていきます。尾根に上がると樹氷が見られるほど冷え込み、足元はウィンドクラストしているから気が抜けません。

暦の上ではもう春なのに、夕張岳はまだ冬の様相。低気圧の影響が残っているのか、天気はやや荒れ気味。視界も良くないので途中撤退はやむを得ません。

その時、ほんの一瞬、凍てついた滝ノ沢岳が姿を現しました。

夕張岳の森

鮫島 惇一郎

(自然環境研究室)



夕張の森

鮫島惇一郎

(自然環境研究室)

はじめに

古い絵地図を目にいたしました。札幌市史にある「宝歴年間 石狩山伐木地図」(図1)です。宝歴といえは江戸時代中期(十八世紀後半)の頃に描かれた図面です。記録では飛騨の国出身の、飛騨屋こと武田久兵衛が石狩山(石狩川、漁川、夕張川などの流域)の伐木を松前藩より請け負ったのだといいます。当時エゾヒノキと呼んだエゾマツが狙いで、これを石狩河口から船で江戸や大阪まで運んで売り捌いたといいました。

その絵図にはイシヤリ川やトイシカリ川の上流に、勇張潟が描かれ、奥まったところに勇張山がありま

す。勇張潟はもう姿を消した鶴沼だったのでしょうか？そしてその奥に勇張山(夕張岳)がありました。もうすでにその頃から夕張岳周辺の森が意識されていたのですね。

時代は勝手に進みます。一八八九(明治二二)年になると、官有地であった夕張の豊かな山林が御料林に指定されます。御料林は皇室の費用などを賄っていたといえます。これら御料林制度は戦後まもなく一般国有林に移管され消滅いたしますが、いまでも道内のあちらこちらに〇〇御料の名がありますが、かつての日々の名残です。

北海道林業技士会から出された「写真で見る北海道の森林と人々の歴史(二〇〇七)」を見ながら気が付いた所があります。道内の森林鉄道一覧の部分です。原表や原図から夕張地区を取り出して、描き直してみたのが表1と図2です。

なんと図1に描かれている地名と川筋を比べると

御料林となっていた所がぴったりと合っているではありませんか！夕張川（勇張山から発するトイシカリ川）、千歳川（シコツ川）、漁川（イシヤリ川）、豊平川（サツホロ川など）。夕張の優れた森林は御料林となってもその価値は認められていたのです。

図3はかつて夕張地区で活躍した森林鉄道の活躍ぶりです。

しかし愛すべき森林鉄道でありましたが、林道の普及、拡張にもなつて夕張地区の森林鉄道は一九六六（昭和四一）年までに姿を消してまいります。最後まで活躍していた定山溪森林鉄道も一九六八年に廃止となりました。

戦前の御料林の頃の森林の取り扱い、皇室の費用をまかなうほか、伐採と植込みを上手に釣り合わせ（均衡）て、長く優良な用材の生産を目指した

といえます。聞けば一番古い人工林は一九三八（昭和一三）年といいました。しかしあの太平洋戦争だったでしょう、軍需用にどれほど多くの良材が使われたか解りません。

戦後一九四六（昭和二一）年になると、皇室財産



図1 宝暦年間 石狩山伐木地図(札幌市史より)

森林鉄道一覧

路線名	接続駅	所管	開業年	廃止年	最長駅間数	最年長	図番号
金山森林鉄道	金山	御料林(旭川)	1928	1958	12.3	1951	30
芦別森林鉄道	上芦別	御料林(札幌)	1932	1962	63.7	1953	32
幾春別森林鉄道	幾春別	御料林(札幌)	1935	1955	22.3	1948	33
主夕張森林鉄道	大夕張炭山	御料林(札幌)	1934	1961	19.8	1939	34
下夕張森林鉄道	南部	御料林(札幌)	1939	1966	46.7	1961	35
浦幌加別川森林鉄道	浦幌	御料林(札幌)	1940	1944	8.5	1942	36
定山溪森林鉄道	定山溪	御料林(札幌)	1938	1968	19.2	1954	37
漁森林鉄道	恵庭	御料林(札幌)	1931	1955	21.3	1944	38
王子製紙苫小牧工場専用鉄道(山線)	苫小牧	王子製紙	1908	1951	39.4	1941	39

資料:北海道の文化74 北海道の森林鉄道
右端の数字は図と対応する
その成立と発展(河野賢也)

表1 森林鉄道一覧 (写真で見る北海道の森林と人々の歴史 2007)

この表は「写真で見る北海道の森林と人々の歴史」の森林鉄道一覧をもとに夕張、定山溪、恵庭、苫小牧地区の御料林関係のみを抜粋、並べ直したものです。

しかし、この表を見ていてどうも腑に落ちないところがあります。この表の右端「図番号36」となっている行の左側を見ると、「浦幌加別川森林鉄道」、接続駅は浦幌とありますが、地形図などを当たってみても浦幌の地名はありません。

図2の森林鉄道No.36の位置から判断すると、夕張地区の遠幌加別川に一致し、接続駅はかつての大夕張鉄道の「遠幌」の位置になるようです。どうして「遠」が「浦」になったのかよくわかりません。



図2 御料林と森林鉄道(写真で見る北海道の森林と人々の歴史 2007)

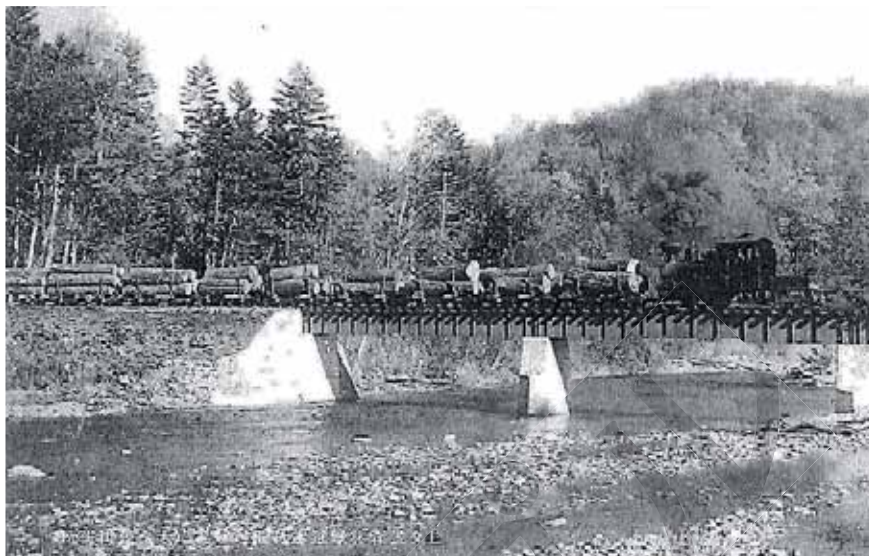


図3 御料林・主夕張森林鉄道木材輸送状況（塩田英明氏提供絵はがき）

は国に属することになり、御料林はすべて一般の国有林に移管されます。荒廃した国土の復興にも寄与したことでしょう。

御料林時代の森林の取り扱いが資料によれば、伐採と植栽面積がうまく釣り合い、永久に優れた用材が生産できる森林の育成に努めたといいましたが、一般国有林に移管されてからはどうだったのでしょうか。

夕張岳の植物は大変特徴があつて、古くから多くの人々の興味の対象となっていたのですが、何故か山系全体の姿が把握されたことはありませんでした。森林鉄道が姿を消しても林道は奥地へ、より奥地へと延び原生的森林が失われつつありました。したがって今のうちに夕張地区のより原生的自然環境を調べておくことになったのです。一九八〇～一九八三（昭和五五～五八）年でした。その結果は北海道の「自然公園総合調査（富良野芦別道立自然公園）報

告書」にまとめられております。そのいくつかを紹介いたしましょう。

森林を調べる

森林植物の組成、構造を調べるには色々な方法がありますが、標準になるような林分を探しだし、帯状にあるいは方形状に試験区を設定するところからはじまります。多くの人が理解しやすい方法は、帯状区法で、各樹種の胸高直径と樹高を測定するとともに、その位置、樹冠の拡がり、それぞれの樹形をシルエットとして付け加えるようにしたのです。もちろん林床植物もしつかりと調べておかななくてはなりません。

夕張の山だから原生林的森林は簡単に見付けられるだろうと思っていたのですが、かなり難しいことがわかりました。森の中に入ってみると大きな伐根

が随所にあるんです。大戦の所為もありましょう。しかしこれは戦後の御料林から一般の国有林への移行、拡大造林の余波なんていうものがあるのでないでしょうか。

調査地の幅は五^{メートル}×五〇^{メートル}にこだわるのは無理でありました。止むを得ません、幅は五^{メートル}にして長さ

は柔軟に対応することになりました。

図4は冷水山頂から眺めた夕張の山です。手前の山地の標高の低いあたりの森はかなり伐採が進んでいるように見えます。皆伐ではなく気を使った択伐（立ち木の配置や、形質を考えて抜き伐りして、その跡地には後継の自然な種子の落下を待つか、優良な苗木を植え付けて森の回復を待つ方法）のように見えます。

森林帯は一般に高いほうから高山帯、ダケカンバ帯、上部針広混林、針葉樹林、針広混林、（落葉）広葉樹林と区分されておりますが、夕張地域でも特

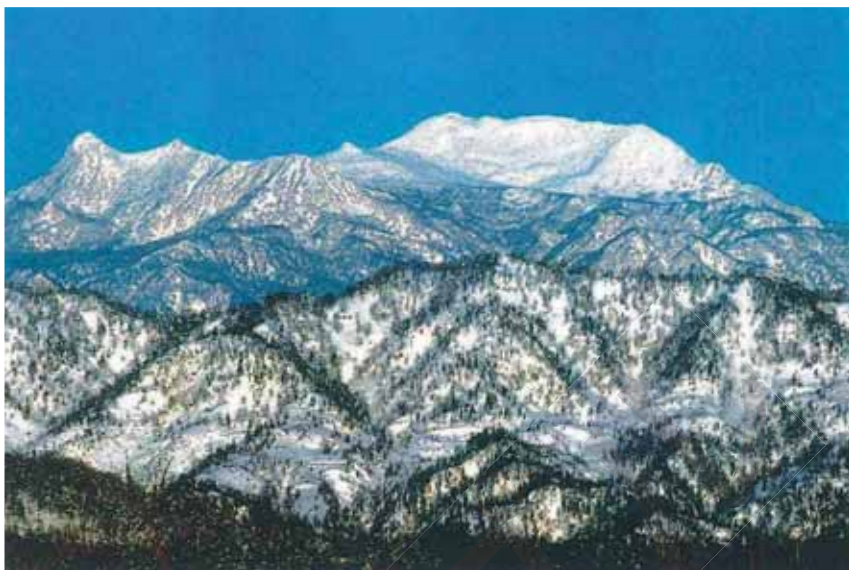


図4 3月の夕張市冷水山山頂より夕張岳(札幌から見える山 1981)

に変わっているわけではありません。

山に登るにはいきなり頂上というわけにはまいません。まずじっくりと川沿いの平坦地とか、山麓などの広葉樹林から眺めてまいりましょうか。

(落葉) 広葉樹林

夕張岳を訪れるには東西二本のルートがあります
が、最近では圧倒的に西側ルートに人気があります。
しかし、東のJR根室本線金山から十梨別（となし
べつ）川沿いの林道から入るルートもまだ元気です。
かつて森林鉄道が十梨別川沿いで活躍したとありま
すから、期待してこの地域の森林も調査することに
いたしました。

かつて目にした古い案内書のイメージが深く頭の中
に残っているものですからどうしても深い林相を
期待してしまいます。しかし時の流れは非情であり

ます。明るい十梨別川の姿でありました。将来に夢を託した造林地が増えていたのです。

古い案内書がありました。「日本地理大系 北海道・樺太篇 一九三〇」といいます。その中に夕張

岳、芦別岳が紹介されており、執筆者が伊藤秀五郎さんだったのです。伊藤さんは北大山岳部設立のときの立役者の一人でありましたから、大々先輩なんです。掲げられた写真(図5)と共にその一端を紹介いたしました。大系誌では「夕張岳中腹の岳樺帯」から紹介されておりますが(後述)、ここではトナシベツ川から話をすすめます。

(註 大系誌では岳樺帯の表現がありますので、そのままにいたしました)

夕張岳トナシベツ川・・・はその西側から夕張川の源をおこし、東面にトナシベツ川を發している。トナシベツ川は空知川の一支流で、富良野

盆地の南端に位置する金山市街地付近に於いてその本流に合してゐる。夕張岳に登るには普通この川を遡行する。岩と水の美しい澤である。・・・・

加えて、トナシベツ川と夕張川では往時砂金の採掘も行なわれていたとも付け加えられております。現況はどうでしょうか？とにかく十梨別川を訪れ

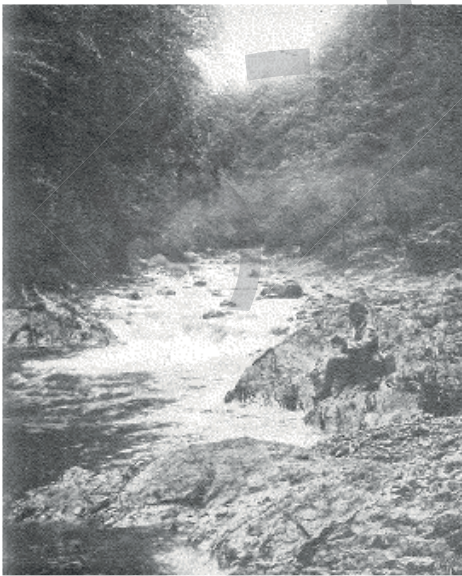


図5 夕張岳十梨別川(日本地理大系 北海道・樺太篇 1930)

てみました。エバナオマントシュベツ川合流地点より下流域でありましたが、十梨別川本流の対岸に原生林的な林分りんぱんがあつたのです(図6)。帯状区を設けて記録するのにふさわしい林分のようにありますが、流れを越えなくてはなりません。秋も深まっている

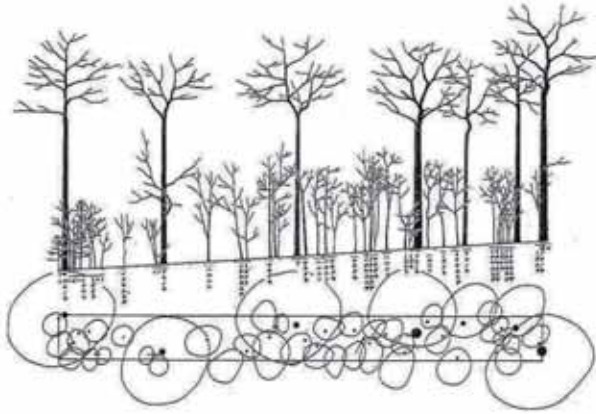


図6 十梨別川のドロノキ

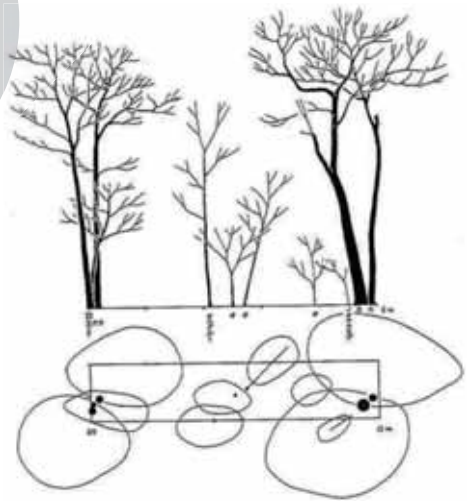


図7 十梨別川上流 老根別川のカツラ林

から水は冷たそうですが構つてはおられません。転ばぬように渡り切つて調査です。

かがんだんきゅうじょう

河岸段丘上に成立する見事なドロノキの林分で

ありました。大径木が並ぶ壮麗な林でありました。

樹高は二〇〜二五メートル、胸高直径五〇〜一〇〇センチはあ

ろうねべつ

つたのです。さらに上流の老根別川沿いの段丘上には

だいきいぼく

は大径木を含むカツラ林にも出会えたのです(図7)。

夕張、芦別山地を歩いてみると規模は小さいのですが有用な落葉広葉樹の林が残されていることが実感できたのです。シナノキ、イタヤカエデ、ミズナラ、ハルニレ、オニグルミ、オオバヤナギ、ヤチダモなど、何か安心いたしました。

針広混交林

この山城全体を見ると、針葉樹と広葉樹が仲良く共同で林をつくっているとか、規模の小さいエゾマツ林やトドマツ林と広葉樹林がモザイク状に配列された針広混交林が見受けられます。ごくありふれた北海道の森林の姿といえましょう。

針葉樹が多い混交林

北海道を代表するとまでいわれたエゾマツ、トドマツ林もめっきり少なくなってきましたが、身近に接することができるのは、夕張岳山頂に向かう冷水コース、馬の背コースなどがいいたころでしょう。

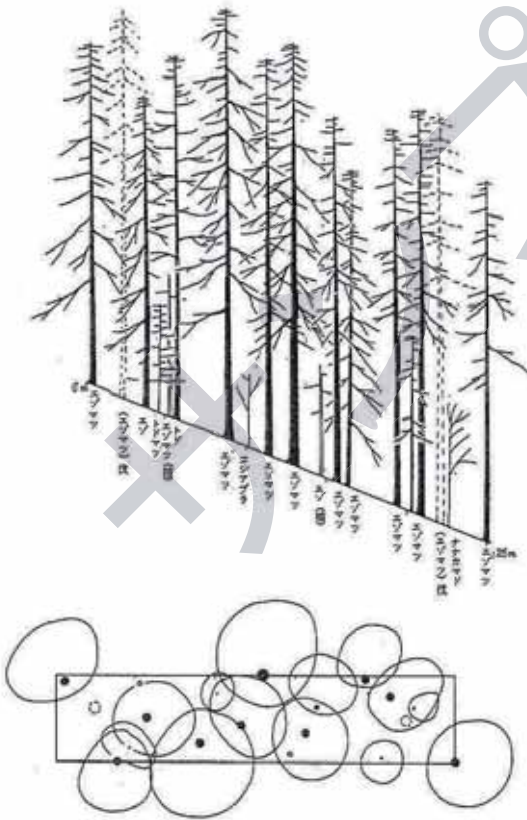


図8 パンケシュウパロ川上流のエゾマツ林

うか。まったく人の手が入っていないというわけではありませんが、かなり自然な針葉樹林の姿を楽しむことができるでしょう。密にエゾマツやトドマツが生育しているところではササは貧相で、オシダやシラネウラボ、ジュウモンシダなどが多くみられるでしょう。歩道に沿ってゴゼンタチバナの愛らしい姿を見付けることもできましょう。

図8はパンケシュウパロ川上流のエゾマツ林です。図9は同じくパンケシュウパロ川日蔭の沢沿いにみられたトドマツ林です。

もうひとつ、針葉樹林で忘れてならないのがアカエゾマツ林です。火山灰地帯や湿原、砂丘、蛇紋岩地帯など厳しい生育条件の地に多く見られるアカエゾ

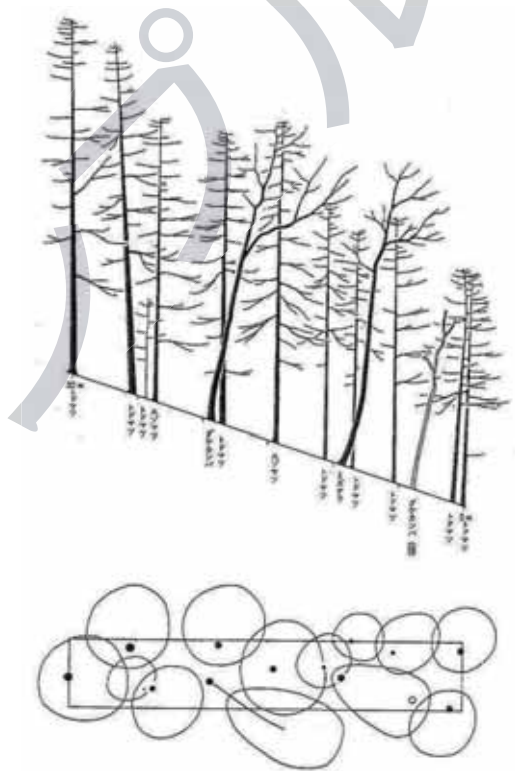


図9 パンケシュウパロ川上流日蔭の沢のトドマツ林

マツの林です。富良野西岳の山稜でハイマツの低木林に接して見事な林を見付けました。

一九八九年頃の夕張前岳近くから北方向を望んだ写真がありました(図10)。まだ黒々と針葉樹林が展開しております。現在もこうした針葉樹が目立つ森林は大丈夫でしょうか。遠い白い山は芦別岳です。



図10 夕張岳近くより北方を見た森林

ダケカンバ林

低山地帯でも見かけることはありますが、標高が高くなるにつれてエゾマツやトドマツに混じってダケカンバを頻繁に見かけるようになります。さらに標高が高くなると次第にダケカンバ林へと移り変わってまいります。

ダケカンバは岳樺というように、荒々しく山岳の樹というイメージがありますが、所によつてはシラカンバと見間違ふような優しい姿を見せる場所もあります。ときどきバスの案内嬢が「・・・ご覧ください、見事な白樺林が車窓に展開しております。あの真っ白な肌は・・・」と聞くことがあります。素直に伸びた白い肌なら間違えても無理がありません。さきほど「日本地理大系」で夕張岳トナシベツ川について述べましたが、ここでは「夕張岳中腹の岳樺帯」の記事をあらためて紹介いたします。

夕張岳中腹の岳樺帯・・・にその源を発するトナシベツ川上流の岳樺帯の盛観である。トナシベツ川の下流の沿岸はトドマツ、エゾマツ、カツラ、シナ等の針濶混淆林で、少し上の方へ行けば、ウダイカンバ、エゾヤマザクラ、ホホ等が混じり、オオレイジンゾウ、ミヤマエンレイソウ、ミミコウモリ等の針葉樹林帯の蔭地植物が繁茂する。岳樺帯を越すとその矮小となったものに混じって、ミヤマハンノキ、タカネナナカマドを生じてくる。特にこの岳樺帯の森林景観は美麗である。

と述べられております(図11)。

それほど魅力的なダケカンバ林が夕張地区には展開しているのです。荒々しく幹を曲げ、風雪にしっかりと耐える姿は何に譬えたらよいのでしょうか。カンバの仲間では一番長い寿命を誇っている樹です。



図11 夕張岳中腹のダケカンバ帯(日本地理大系 北海道・樺太篇 1930)



図12 見事なダケカンバ(夏山ガイド5 北海道新聞社)

大抵の山に登ると壮大なダケカンバに出会います。よくこのような大きな樹が残されているなあとしばしば考えるのですが、幹が曲がっていることや太枝が多いことなどの理由から木材としての価値が低いと考えられているのでしょう。景観としては最高なんでしょうが……。

図13は標高が低い大夕張地区の山地ですが、伐採が進んだあたりに展開した再生林のように見えるところがありました。ポツポツとエゾマツなどが残されておりますが、大部分はダケカンバでありましょう。

夕張・芦別地域の森林

夕張岳や周辺を含めた地域の森林を紹介してきましたが、ダケカンバ林よりさらに高い地帯になると当然あのハイマツやミヤマハンノキなどが生育する

富良野西岳の稜線部一二五〇付近にもダケカンバ林がありました。すくすくと育った林でした。

素敵なダケカンバ林が紹介されている冊子を見付けました。「夏山ガイド5 北海道新聞社」の夕張岳金山コースです。標高二二〇〇付近とありましたが見事です。巨木といたい程のダケカンバです(図12)。



図13 大夕張地区で見たダケカンバたち

ことになります。その合間には華麗な高山植物が生
育することになります。しかしこの地域は一般的山
岳と異なつて特異な地質と地形が植生に影響を与え
ていることは良く知られているとおりです。

夕張・芦別山城の森林をまとめてみると次のよう
に整理されるでしょう（表2）。

森林を全体としてみると針広混交林が卓越し、針
葉樹林と広葉樹林がモザイク状に配列している地域
といえましょう。もちろん、針葉樹の割合が多かつ
たり広葉樹が多かつたりする森林がみられるのは当
然です。ここで示した多くの図を見て頂いた通りで
す。

森林の将来像

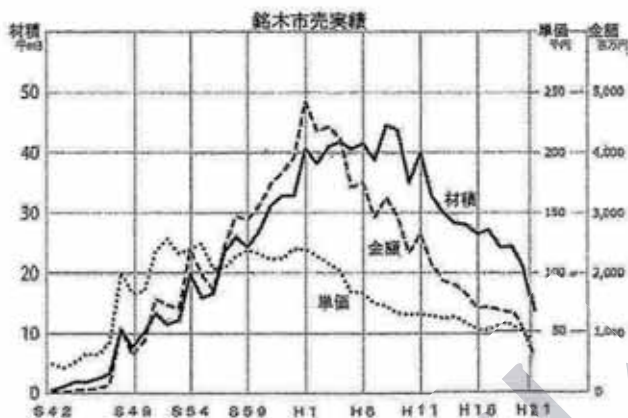
最後になりましたが、これからの夕張の森の将来
を考えてみました。思い浮かんだ課題を順不同に述

高山帯（夕張岳では標高約1300m以上）
ハイマツなどの低木林や、高山植物群落が広がる地帯
亜高山帯（夕張岳では標高900～1300m）
ダケカンバ林：豪壮な姿のダケカンバ林もある 針葉樹林：アカエゾマツ林・エゾマツ林・トドマツ林 （針葉樹を主とした人工林になっている所が増えている）
山地帯（夕張岳では標高約900m以下）
針葉樹林：小規模に見られる 針広混交林：針葉樹と広葉樹が交じり合う林 落葉広葉樹林：川岸などから山麓に多い （平坦な所が多く、人工林も増えている）

表2 夕張・芦別山域の森林のまとめ

べてみます。

優良材の確保… 以前に北方林業誌を見ていたときです。たいへん気になった記事が目にとまりました。「世界の銘木道産広葉樹はどうなるか」という記事でした。図14を見てください、これは旭川で開催された銘木市の実績だそうです、年を経るごとに銘木といわれる優良材（いわゆる銘木です）が少なくなっていることを示しているのではないのでしょうか。記事を書かれた方は、有能な林業技術や技術者の減少ととらえられているようですが、年々山に優良材が少なくなっていることも大きな原因となっているように思えます。このことは旭川地域だけの課題ではなく、他の地域にも共通した課題のようにおもえてなりません。優良材の確保はこれからの北海道の森林資源を考える上で大切な課題となりましょう。将来を見据えた森林の造成が必要となりましょ



このグラフは旭川で開催された銘木市の実績（北方林業 2011.63巻5号より）

材積（—）とあるのは木の大きさ、金額（---）とあるのはその取引価格のこと。年々値を下げて下がって下がり過ぎておられますね、いいかえれば山に原材がなくなっていることをこのグラフは示しているのです。

図14 旭川で開催された銘木市の最近の実績（北方林業 2011）

う。

最近夕張の山でも、奥地まで造林地が増えてその
保育管理が進んでいるということですが、これはト
ドマツ、カラマツ、アカエゾマツなど単純な造林地
が増えていてのではないのでしょうか。気になります。
針葉樹の特性と広葉樹の特性をそれぞれに助け合
う森造りが求められているように思われます。

水源林の確保.. あちらこちらで「予想外の豪雨」

なんて言葉聞きます。気になります。林地の荒廃
（森林作業効率の優先、裸地の増加、土壌の攪乱、
植生の破壊など）、林相の単純化など肝心なこと
が忘れられているのではないのでしょうか。遠因は人
が将来の森林の姿を見据えずに、勝手に環境を変え
てしまったことではないかと思われてなりません。
針広混交林として、それぞれの特性を生かした大地
を守る樹々の生活形が大切だと考えています。

せつかく造ったシュウパロ湖（三弦橋まで水没させて）だって上手に生かさなくてはなりません。

森の生き物達にも配慮を… 森林は人間たちが独占するものではありません。微細な生きものから大型の動物達まで上手にバランスを取りながら生活する空間でありましょう。古くなってやがて大地に帰る樹々も必要な存在ではありません。

空（うろ）になった枯木も、啄木鳥やむささびなどの住家となりましょう。数多の虫たちの餌となり居住区でもあるのです。そのためには高木だけではなく低木、灌木の存在も忘れてはなりません。不恰好な樹も捨てたものではないのです。

近ごろ鹿の被害が森林だけではなく高山植物帯にまで拡がっておりますが、彼らだけの課題でしょうか？人間にだけ都合のよいように森林の環境が変えられておりはしないでしょうか。自然の恵みを人間

だけが独占することは控えなくてはなりません。

石炭の代わりに森… 夕張はかつて石炭で栄えました。自他ともに許す繁栄。しかし黒ダイヤといわれた石炭はただ山の中から見つかった石ではありません。気の遠くなるほど古い時代（数億年も昔）に栄えた^{ろぼく}廬木など大型羊歯が姿、質を変えた贈り物？だったことは周知のとおりです。かつての豊かな森林植物たちだったのです。

今後の夕張を支えてくれるのは、やはり豊かな森林にほかありません。多くの銘木を出せるような、一〇〇年先を見据えた豊かな森造りを望んでやみません。

引用文献

- 札幌市史 宝暦年間 石狩山伐木地図
北海道林業技士会 「写真で見る北海道の森林と
人々の歴史」(二〇〇七)
河野哲也 著 北海道の文化七四 北海道の森林
鉄道 その成立と発展
日本地理大系 北海道・樺太編 一九三〇
梅沢俊・菅原靖彦・長谷川哲 著 夏山ガイド5
道南・夕張の山々 北海道新聞社 二〇一六
北方林業 二〇一一



春の夕張岳ヒュッテ

3月下旬、青空の下、スキーを履いて林道を歩き夕張岳ヒュッテを目指します。自分たちの足元の音だけを聞きながら静かな森の中を歩いていると、“キョーン、キョーン”と、それは切ない鳴き声が近づいてきます。恋の季節真っ最中のクマゲラです。

最後の急なつづらの道をやり過ごし、辿り着いたヒュッテ周辺はまだ雪に覆われたまま。それでもやわらかな春の陽射しを浴びていると屋外にいてもぽかぽかです。

夏は緑に包まれています、葉のない季節には滝ノ沢岳を望むことができます。

夕張岳の植物

堀江 健二

(旭川市北邦野草園園長)



ユウパルクモマグサ

夕張岳の植物

堀江健二

(旭川市北邦野草園 園長)

はじめに

夕張岳一帯の植物は、古くから学術上貴重な地域として注目されてきました。一八九六年、石川貞治博士は夕張岳の地質調査のかたわら、高山植物を採集しています。一九一二年に夕張岳頂上までの植物調査が、柳沢秀雄・濱名有蕢氏らによって行われました。高山植物の研究論文は一九一三年武田久吉博士によるユウパリコザクラの記載発表が最初です。一九一三年には、西田彰三、柳沢秀雄、足立敬次氏らが富良野西岳、芦別岳から鉢盛山を通じて夕張岳までの植物調査を行いました。

その後も夕張岳の高山植物を対象に、多くの植物学者が調査、研究してきましたが、一九六〇年から発表された野坂志朗博士による研究論文で、学術的に体系づけられました。夕張岳では、シダ植物五八分類群、種子植物五七六分類群の計六三四分類群が記録されております。

夕張岳の植物相（フロラ）

（１）山地帯（針広混交林帯）

夕張岳ヒュッテのある標高約六〇〇メートルから約九〇〇メートルまではトドマツ、エゾマツ、アカエゾマツの針葉樹とミズナラ、ハルニレ、オヒョウ、シナノキ、カツラ、ナナカマド、キタコブシなどの広葉樹との針広混交林となっています。これらの高木類にはツルアジサイ、ヤマブドウ、ミヤママタタビなどのつる植物が巻き付いています。低木類

ではオガラバナ、ミネカエデ、ツルシキミ、オオカメノキ、ハイイヌツゲ、ムラサキヤシオツツジ、コヨウラクツツジなどが生育しています。登山道沿いには草本類のエゾミヤマハンショウヅル、サンカヨウ、ミヤマスマレ、ゴゼンタチバナ、エゾイチゲ、コミヤマカタバミ、カムイアザミ、ツルアリドオシ、エゾスズラン、ツバメオモト、ショウジョウバカマ、マイヅルソウ、ホガエリガヤなどが生育し、沢沿いではエゾノリュウキンカ、フキユキノシタ、オオバミゾホオズキ、ミズバショウなどが、シダ類ではオシダ、ホソイノデ、サカゲイノデ、エゾメシダ、オオメシダ、ジュウモンジシダ、ミヤマシケシダなどが見られます。林床は低地でクマイザサ、高地ではチシマザサに広く被われています。

(2) 亜高山帯（針葉樹林帯とダケカンバ帯）

標高約九〇〇メートルから約一三〇〇メートルでは、針葉樹林が冷水の沢付近から前岳の沢までの狭い範囲に見られますが、広葉樹のダケカンバが主体となり、見事な純林を形成している所もあります。針葉樹ではトドマツ、エゾマツ、アカエゾマツが見られますが、上部になるとアカエゾマツが多くなります。低木類ではチシマザクラ、ムラサキツリバナ、クロウスゴ、ウコンウツギなどが生育しています。草本類ではシラネアオイ、ハクセンナズナ、ヒメゴヨウイチゴ、カラフトイチヤクソウ、エゾノヨツバムグラ、ミヤマキヌタソウ、カノコソウ、ミツバオウレン、ヒダカレイジンソウ、エゾミソガワソウ、シュロソウ、キソチドリ、コイチヨウラン、ミヤマドジョウツナギなどが、シダ類ではコスギラン、スギカズラ、マンネンスギ、オオバシヨリマ、ヤマソテツ、シラネワラビなどが見られます。

一三〇〇以上の望岳台付近ではダケカンバもかなり低木化し、ミヤマハンノキ、ウラジロナナカマド、タカネナナカマドと頭を並べるようになり、ほぼこの地点からは高木類が姿を消す森林限界となります。

(3) 高山帯（ハイマツ帯）

標高約一三〇〇以上より上部はハイマツ群落が広がる高山帯で、多様な環境により夕張岳の特徴ある多くの高山植物が生育しています。

夕張岳の高山植物の特徴は、地質や地史の特異性と深くかかわっています。特殊な化学組成の蛇紋岩土壌や緑色片岩の岩峰には、夕張岳にのみ分布する固有植物や氷河期からの遺存植物、隔離分布植物が多く生育しています。これは氷河期に形成された陸橋を通じて北海道へ渡来したシベリヤや北米の北コースと本州から渡来した南コースの

植物の一群が、温暖化に伴って陸橋がないため北方へは移動できず、寒冷な夕張岳の高山帯に移動し生き延びたからです。ある種の植物は、蛇紋岩土壌や緑色片岩の岩峰の特殊な環境に適応し、または生理的な分化によって固有植物として残存し現在に至っていると考えられます。

a 蛇紋岩地の植物

夕張岳の蛇紋岩崩壊地は、日本でも有数の大きな規模となっています。特に白金沢、シューパロ川、エバナ沢の河川源流部や通称「吹き通し」では、蛇紋岩が崩壊し粘土状の土壌となっています。蛇紋岩崩壊地は、固有植物や蛇紋岩植物（超塩基性岩植物）、遺存植物、隔離分布植物などを多産する非常に貴重な地域となっています。ユウバリソウ（写真①）、ユウパリコザクラ（写真②）、シソバキスミレ（写真③）、エゾコウボウ、タカネタ



①ユウバリソウ



③シソバキスミレ



②ユウパリコザクラ



④カトウハコベ



⑤ナンフイヌナズナ

蛇紋岩地の植物



⑥ユキバヒゴタイ

ンポポ、コミヤマキンポウゲ、ユウパリアズマギクは、夕張岳にのみ生育する固有植物です。カトウハコベ（写真④）、ナンブイヌナズナ（写真⑤）は、日本の限られた蛇紋岩やカンラン岩の超塩基性岩地だけに隔離分布している珍しい植物です。

また、ユウパリキンバイ、アポイタチツボスミレ、エゾミヤマクワガタ、ホソバトウキ、エゾタカネニガナ、ユキバヒゴタイ（写真⑥）は、北海道の超塩基性岩地だけに生育する北海道固有植物です。このように蛇紋岩土壤は、植物の生育分布に大きな影響を及ぼしています。これは蛇紋岩土壤がカリウム、カルシウムなどの養分が非常に少ない貧栄養土壤のうえ、生育に有害なマグネシウムやニッケルを多く含み、植物の生理機能が妨げられているためだと考えられています。この他、蛇紋岩土壤と密接に関係して生育する植物としてタカネグンバイ、ヒメナツトウダイ、タカネシバスゲ、

タカネヒメスゲ、シブツアサツキなどの草本類が見られます。これらの中で蛇紋岩土壤だけに生育する蛇紋岩植物は、ユウパリコザクラ、シソバキスミレ、ユウバリソウ、ナンブイヌナズナ、カトウハコベ、ホソバトウキ、エゾコウボウ、ユウバリカニツリ、ユキバヒゴタイ、タカネタンポポ、エゾタカネニガナなどです。これら蛇紋岩植物は、貧栄養土壤で有害物質を含む蛇紋岩土壤でも生育できるように適応した植物です。近年、蛇紋岩地に生育する植物をDNA解析による分子系統学の研究も進んでおります。

蛇紋岩地にはこの他ヒメイワタデ、クモマユキノシタ、タカネスミレ、エゾタカネツメクサ、ホソバツメクサ、チシマキンレイカなどの草本類、ミヤマハンモドキ、ユウパリツガザクラ、ニシキツガザクラなどの低木類、ユケスギラン、ヒメハナワラビなどシダ類の稀産種も生育しています。

二〇一三年に夕張岳の山麓部の蛇紋岩地からユウバリトウヒレンが新種発表されました。

b 岩峰（緑色片岩地）の植物

ガマ岩、前岳、頂上などは、緑色片岩（夕張岳変成岩）で形成されている大きな岩峰です。これらの岩壁や崩壊岩礫地にも、夕張岳を代表する固有植物や氷河期遺存植物、隔離分布植物など極めて貴重な植物が多く生育しています。これは、岩峰という大変厳しい自然環境にうまく適応、分化できた種類が残存していると考えられています。

ガマ岩には、固有植物のユウパリクモマグサ（写真⑦）、ユウパリシャジン（写真⑧）タカネエゾムギ（写真⑨）が生育しています。エゾノクモマグサ（写真⑩）、エゾウラジロキンバイ、ハゴロモグサ、リシリゲンゲ、ミヤマムラサキも特異な隔離分布する珍しい植物です。エゾノクモマグサは夕

張岳の固有植物として取り扱われてきましたが、二〇一五年に同じ夕張山地の芦別岳にも分布していることが明らかとなりました。また、草本類としてはタカネナデシコ、イワオウギ、エゾオトギリ、ミヤマオダマキ、オオイワツメクサ、ミヤマダイコンソウ、イワキンバイ、ホタルサイコ、イワベンケイ、ユキワリソウ、モイワシャジン、イワギキョウ、エゾルリムラサキ、フタマタタンポポ、ミヤマラッキョウが、低木類ではヒロハヘビノボラズ、ミヤマハンモドキ、ウラジロハナヒリノキが、シダ類ではエゾノヒメクラマゴケ、エゾノヒモカズラ、トガクシデンダが生育しています。しかし、ガマ岩周辺は近年特に崩壊崩落が激しく、近づくことは大変危険です。保護・保全の観点からもガマ岩に立ち入ることは厳に慎みましょう。

前岳では、固有植物のユウパリミセバヤ（写真⑪）、ユウパリシャジンが生育し、氷河期の遺存種



⑧ユウパリシャジン



⑦ユウパルクモマグサ



⑨タカネエゾムギ

ガマ岩の植物



⑩エゾノクモマグサ



⑪ユウバリミセバヤ

として名高いチョウノスケソウも分布しています。その他、草本類ではエゾノクモマグサ、サクラソウモドキ、エゾルリムラサキ、レブンサイコ、エゾルリソウ、ミヤマアズマギク、チシマアマナ、小低木類ではエゾツツジ、カオルツガザクラなどが見られます。

夕張岳の頂上には固有植物などの稀産植物は分布せず、草本類のホソバイワベンケイ、シラネニンジン、イワブクロ、イワギキョウ、小低木類のコケモモ、イワウメ、ミネズオウ、ウラシマツツジ、コメバツガザクラ、マルバヤナギなどが生育しています。夕張岳南西にある独立峰のローソク岩は、砂岩で形成されています。ここには、固有植物のユウバリミセバヤのほか、草本類のチャボカラマツ、シコタンソウ、イワオウギ、エゾオトギリ、ユキワリソウ、エゾノクサタバナ、エゾルリムラサキ、低木類のコメツツジ、ミヤマホ

ツツジ、ウラジロハナヒリノキ、シダ類のエゾノヒメクラマゴケ、エゾノヒモカズラ、リシリシノブなどが生育しています。

c 湿原と湿潤な雪田（持続的湿性の雪田）の植物

前岳から釣鐘岩にかけての平坦地には大小の湿原が点在し、一部はミズゴケを主体とする高層湿原となっています。ここに生育するシロウマチドリ、チシマミクリ、ホソバウキミクリは、分布が限定される珍しい隔離分布植物です。

憩沢からガマ岩にかけての前岳湿原では、湿原にヤチスゲが多く、モウセンゴケ、チシマワレモコウ、テングクワガタ、ムシトリスミレ、ワタスゲ、タチギボウシ、ヒオウギアヤメなど、周辺の雪田にイワイチョウが多く見られ、タカネクロスゲ、ミヤマリンドウ、ミヤマキンポウゲ、シナノ

キンバイ、エゾノハクサンイチゲなどの草本類が混生しています。

ガマ岩から釣鐘岩にかけての雪田では、イワイチョウ、タカネクロスゲ、シロウマアサツキ、ミヤマアケボノソウ、固有植物のユウバリカニツリなどが草丈の低い雪田群落をつくり、その周辺で草丈が高い草本であるエゾノシモツケソウ、シオガマギク、イブキトラノオ、エゾオヤマノリンドウ、トウゲブキ、ゼンテイカが混生し、小沼の周りなどの小規模な高層湿原にミネハリイ、ヒメシヤクナゲ、ツルコケモモ、チシマツガザクラ、リシリリンドウ、ユウバリリンドウ、ミズゴケ類などが生育しています。

夕張岳と芦別岳の間にある天狗岳近くには七つの池塘を含む高層湿原があります。池塘にはエゾノヒルムシロ、ミツガシワ、ヤチスゲなどが生育しています。高層湿原群落にはモウセンゴケ、ホ

ロムイソウ、タチギボウシ、ホソバノキシソチドリ、ミネハリイ、ワタスゲ、ヒメカワズスゲ、ヤチスゲ、ミタケスゲなど、雪田にはムシトリスミレ、イワイチヨウ、ミヤマリンドウ、タカネクロスゲ、ヒメイワシヨウブ、コバイケイソウなどの草本類が見られます。

d 乾燥した雪田草原（季節的湿性の雪田）の植物

湿潤な環境となる平坦地の湿原や雪田とハイマツ群落の間には、比較的乾燥した雪田が小規模に見られます。ここでは、低木のミネヤナギ、マルバシモツケなど、小低木のチングルマ、キバナシヤクナゲ、シラタマノキ、アオノツガザクラなど、草本類のアラシグサ、タカネトウウチソウ、ハイオトギリ、キバナノコマノツメ、ハクサンボウフウ、シラネニンジン、ヨツバシオガマ、エゾヒメ

クワガタ、ミヤマリンドウ、エゾウサギギク、ヒメイワシヨウブ、タカネトンボなどが生育しています。沢沿いの斜面には、エゾノハクサンイチゲ、エゾホソバトリカブト、チシマフウロ、エゾミソガワソウ、ナガバキタアザミなど草丈の高い草本が小群落をつくっています。

前岳から頂上までの登山道沿いには、次のような植物が咲いています。草本類のフギレキスミレ、ミヤマウツボグサ、リンネソウ、イワブクロ、コガネギク、ヤマハハコ、ミヤマオグルマ、カンチコウゾリナ、ヒメタケシマラン、低木のオオタカネバラ、カラフトイソツツジ、チシマヒヨウタンボク、小低木のマルバヤナギ、イワヒゲ、イワウメ、コケモモ、イワハゼ、ウラシマツツジなどが生育しています。

夕張岳の蛇紋岩植物

蛇紋岩植物は、「生育地の本拠が、明確に蛇紋岩地やカンラン岩地にある植物」の総称で、超塩基性岩植物ともいわれます。

蛇紋岩残存植物

古い時代の植物が蛇紋岩地に隔離・遺存し、近縁種が近くにない植物

ユウバリコザクラ、カトウハコベ、ナンブイヌナズナ、ユキバヒゴタイ、エゾタカネニガナ、タカネタンポポ、エゾコウボウ

蛇紋岩変形植物

一般植物が蛇紋岩地で適応・分化し、近縁種が比較的近くにある植物。

() 内が近縁種。

ユウバリソウ(ウルツプソウ)、シソバキスミレ(オオバキスミレ)、ホソバトウキ(ミヤマトウキ)、ユウバリカニツリ(ヒロハノコメススキ)、ユウバリトウヒレン(ヒダカトウヒレン)、コミヤマキンポウゲ(ミヤマキンポウゲ)、ユウバリキンバイ(ミヤマキンバイ)、アポイタチツボスミレ(アイヌタチツボスミレ)、エゾミヤマクワガタ(キクバクワガタ)、ユウバリアズマギク(ミヤマアズマギク)、ユウバリキタアザミ(ナガバキタアザミ)

夕張岳固有植物の発表

夕張岳固有植物について発表した植物学者、記載論文誌、発表年を以下に列記します。

ユウパリコザクラ（サクラソウ科）

武田久吉博士（高山植物の権威）が英国エジンバラ王室植物園研究報告（一九一三年）。

エゾコウボウ（イネ科）

小泉源一博士（京大）が植物学雑誌（一九一七年）。

シンバキスミレ（スミレ科）

中井猛之進博士（東大）が植物学雑誌（一九二二年）。

ユウバリソウ（ゴマノハグサ科）

宮部金吾・舘脇操（北大）両博士が札幌博物学会会報（一九三三年）。

タカネタンポポ（キク科）

小泉秀夫氏（タンポポ属の権威）が植物研究雑誌（一九三三年）。

タカネエゾムギ（イネ科）

大井次三郎博士（国立科学博物館）が植物分類・

地理（一九三七年）。

ユウバリキタアザミ（キク科）

北村四郎博士（京大）が京都帝国大学紀要（一九三七年）。

ユウバリカニツリ（イネ科）

大井次三郎博士が植物研究雑誌（一九四一年）。

ユウバリアズマギク（キク科）

豊国秀夫博士（北大）が植物研究雑誌（一九五三年）。

コミヤマキンポウゲ（キンポウゲ科）

豊国秀夫博士が北陸の植物（一九五六年）。

ユウパリシヤジン（キキョウ科）

豊国秀夫・野坂志朗（北大）両博士が植物分類・地理（一九六〇年）。

ユウパリミセバヤ（ベンケイソウ科）

野坂志朗博士が植物研究雑誌（一九七一年）。

ユウパリクモマグサ（ユキノシタ科）

野坂志朗博士が北海道大学理学部研究紀要

(一九七四年)。

夕張岳が基準標本産地の植物

固有植物のほかに、夕張岳産の植物標本に基づいて名前(学名)がつけられた植物は、以下の通りです。

マルバヤナギ(ヤナギ科)、エゾホソバトリカブト(キンポウゲ科)、アオノイワベンケイソウ(ベンケイソウ科)、エゾノクモマグサ(ユキノシタ科)、クモマユキノシタ(ユキノシタ科)、ハゴロモグサ(バラ科)、エゾウラジロキンバイ(バラ科)、ユウバリチングルマ(バラ科)、ミヤマハンモドキ(クロウメモドキ科)、ユウバリツガザクラ(ツツジ科)、カオルツガザクラ(ツツジ科)、シロバナイワブク

ロ(ゴマノハグサ科)、エゾミヤマクワガタ(ゴマノハグサ科)、ユウバリリンドウ(リンドウ科)、エゾオヤマリンドウ(リンドウ科)、ホソバトウキ(セリ科)、エゾタカネニガナ(キク科)、カンチコウゾリナ(キク科)、ユキバヒゴタイ(キク科)、ユウバリトウヒレン(キク科)

夕張の名を冠する高山植物

夕張の名を冠した植物は以下の通りです。標準和名が別にある場合は()内に標準和名を付記します。

ユウバリウズ(エゾホソバトリカブト)、ユウバリナズナ(ナンブイヌナズナ)、ユウパリミセバヤ、ユウパリクモマグサ、ユウパリキンバイ、ユウバリチングルマ、ユウバリノキ(ミヤマハンモドキ)、

ユウパリコザクラ、ユウパリツガザクラ、ユウバリンドウ、ユウバリソウ、ユウパリシャジン、ユウパリアズマギク、ユウバリトウヒレン、ユウバリキタアザミ、ユウバリタンポポ（タカネタンポポ）、ユウバリチドリ（シロウマチドリ）、ユウバリカニツリ

おわりに

氷河期から長い時間を生き延びてきた夕張岳の高山植物は、単に美しい、珍しいというだけではなく、植物分類・地理、分子系統、生態、進化さらに地史を研究する上で極めて貴重な種類が多く、アポイ岳と共に世界的な植物の名山として知られております。

自然保護の価値判断の基準は自然性、稀少性、多様性の三点からなりますが、夕張岳の高山植物

はいずれの点でも最高の水準にあります。このようなかげがえのない夕張岳の自然を、国指定の天然記念物として今後も大切に保全し、次世代に継承していかなければなりません。



ダケカンバの新緑

6月中旬、林道ゲートが開くと、待ち望んだタ張岳の夏山シーズンが始まります。それに先立ちロープの設置作業を兼ねた第1回目のパトロールのためタ張岳に登ります。

長い樹林帯の登りを終え望岳台でほっとひと息。ここから先は視界が開け景色を楽しみながらの歩きです。

前岳のトラバース区間から眺める日蔭ノ沢の源頭部ではダケカンバが芽吹き、新緑と残雪が清々しい初夏の景観を作り出しています。

遠景にはまだ雪が残る十勝連峰が望めます。

夕張岳の高山植生とその保護について

佐藤 謙

(北海学園大学名誉教授)



ユウパオリユザクラ

夕張岳の高山植生

佐藤 謙

(北海学園大学名誉教授)

高山帯のはじまり

すでに鮫島さんと堀江さんが述べているように、夕張岳では標高一三〇〇^{メートル}付近の森林限界(高山林限界)を超えた範囲が高山帯になり、そこに様々な高山植物群落が見られます。望岳台(標高一三二〇^{メートル})を過ぎると、低いダケカンバとミヤマハンノキ・ウラジロナナカマド・ウコンウツギなどが混生した低木林が大半を占めるようになります。この低木林は、憩い沢(一三六〇^{メートル})、前岳湿原(一三八〇〜一三九〇^{メートル})を経てガマ岩北側の瓢箪池(二四〇〇^{メートル})付近まで、そしてアサツキ湿原から釣鐘岩に登る斜面の下部(一四六〇

^{メートル})付近にも小規模に見られます。他方、ハイマツは、憩い沢直前の尾根でチシマザサ群落に混じる単木として現れ始めますが、ハイマツ低木林としては前岳湿原付近から山頂まで^{とつちけいじょう}凸地形上に拡がっています。

高山植物群落は、普通「お花畑」と呼ばれますが、以上の低木林に囲まれ、当初は小面積に見られます。望岳台から憩い沢までの小沢沿いにシナノキンバイソウ・ミヤマキンポウゲ・アラシグサなどの高山植物が現れてきます。明らかなお花畑は、低木林に囲まれた憩い沢で最初に見ることができます。ここは、小さなお花畑ですが、一休みしながらシナノキンバイソウ・イワイチョウなど多数の高山植物を間近に見ることができます。前岳湿原ではお花畑の中を木道で通過します。ここでは、過湿な中央部にヤチスゲ・カワズスゲなどからなる湿原の植物群落、周縁部にイワイチョウ



前岳湿原・ガマ岩間のダケカンバー・ミヤマハンノキ低木林（手前）とハイマツ低木林（奥）

が優占しイトキンスゲなどが混生する雪田せつでんの植物群落、さらに周辺にハイマツ低木林が見られ、この辺りから高山植物群落が多様になってきます。

高山植物群落

（１）湿原と雪田、そして雪崩地

前岳湿原（一三八〇～一三九〇メートル）・瓢箪池（一四〇〇メートル）・アサツキ湿原（一四五〇メートル）では、池沼やその周りなど過湿な場所にヤチスゲ・ハクサンスゲ・エゾホソイ・オオヌマハリイ・ミズゴケ類などからなる湿原の植物群落が小規模に認められます。登山道沿いでは、その一部を垣間見ることができます。登原と名づけられています。前岳湿原とアサツキ湿原は、湿原の植物群落ではなく、次に説明する雪田の植物群落によって占められています。

憩い沢（一三六〇^メ）や前岳湿原（一三八〇^メ・一三九〇^メ）に見られるイワイチョウ・イトキンスゲ群落は、その後、瓢箪池・一四〇〇^メ台地・アサツキ湿原（一四五〇^メ）などに発達しています。ガマ岩を過ぎて一四〇〇^メ台地に至る間で、登山路から沢の源頭部を見下ろすと、凹形斜面全体にイワイチョウ・イトキンスゲ群落が、その中央最低部で最も過湿と思われる場所にタカネクロスゲイ・ミネハリイ群落が見られます。水場があつて一休みできる一四〇〇^メ台地でも、緩やかな凹形斜面の中で、全体をイワイチョウ・イトキンスゲ群落が占め、過湿な流水沿いにタカネクロスゲイ・ミネハリイ群落が見られます。

これらの場所は、遅くまで積雪が残り植物の生育期間が短くなる、高山帯のうち「雪田（せつでん）」と言われる環境です。雪田は、融雪後も湿润環境が継続する場合は「持続的湿性の雪田」と



イワイチョウ・イトキンスゲ群落（周辺の黄褐色）とタカネクロスゲイ・ミネハリイ群落（中央の緑色）

細分されますが、上記二群落は、その環境に結びついて夕張岳に限らず大雪山や知床半島においても認められます。イワイチヨウ・イトキン・スゲ群落とタカネクロスゲ・ミネハリイ群落の間では、後者の方がより過湿な環境に成立し、湿原の植物群落に隣接します。

他方、融雪後、乾燥する雪田は「季節的湿性の雪田」と言い、北海道ではアオノツガザクラ・エゾノツガザクラ・ユウバリツガザクラ・チングルマ・ミヤマエゾクロウスゴ・ヒメイワシヨウブ・タカネトンボ・タカネヒカゲノカズラなどからなる矮低木群落わいていぼくせんが成立します。このツガザクラ類が優勢な矮低木群落は、夕張岳登山道沿いではその拡がりを観察できませんが、吹き通し直前にある比較的急傾斜の斜面は小規模な「季節的湿性の雪田」となっています。また、ハイマツ低木林に接した登山道沿いにハイオトギリ・ミヤマウツボグ

サ・エゾウサギギク・コガネギク・カンチコウゾリナなどが見られますが、これらは道内他地域と比較しますと「季節的湿性の雪田」の出現種と言えます。

ところで、憩い

沢や一四〇㊦台地などで持続的湿性の雪田がダケカンバやハイマツの低木林と接する雪田の辺縁へんえんに、シナノキンバイソウが狭い帯状の群落こうよう（広葉草原）を形成する場合があります。この群落は、北海道他地域の高山では広い雪崩斜面に成立しますので、雪崩地の植物群落になります。



イワイチヨウ



1,400 m 台地

(2) 蛇紋岩地の高山植物群落

前項で述べた憩沢・前岳湿原・一四〇〇^台台地・アサツキ湿原は、実は、蛇紋岩が形成した平坦な緩傾斜地です。夕張岳のイワイチヨウイトキンスダ群落やタカネクロスゲーミネハリイ群落では、隔離分布する高山植物のシロウマアサツキ・ムシトリスミレ、あるいは夕張岳蛇紋岩地に固有なユウバリカニツリ・ユウパリコザクラがしばしば混生しますが、これらは大雪山や知床半島の両群落に認められませんので、蛇紋岩の影響と考えられます。前三種は登山路から容易に観察できますが、ユウパリコザクラは花期であれば運良く見つけることができるかもしれません。なお、これらの湿原や雪田では、蛇紋岩の上に泥炭^{でいたん}または高山未熟土壤が発達しているため、青粘土^{あおねんど}状に見える蛇紋岩は場所によってわずかに確認できる程度です。

蛇紋岩は、非常に崩れやすいため、しばしば崩



第一崩壊地 エゾコウボウ

壊地を形成します。ガマ岩を過ぎた直後の第一崩壊地（一四〇〇㍎）と山頂に近づいた吹き通し（五一〇㍎）では、そのような崩壊地を見ることができます。これらの場所では、頻繁に生じる崩壊によって、青みを帯びた蛇紋岩の岩礫・砂礫・粘土が露出しております。

第一崩壊地（一四〇〇㍎）は、南東に向けて冬季季節風の風下側に当たりますので、全体が雪田となります。斜面下部の緩傾斜地では、前項で述べたイワイチョウイトキンスゲ群落やシナノキンバイソウ群落が見られますが、相対的に急峻な斜面の上部から中部にかけては、夕張岳蛇紋岩地特有の高山植物群落が成立しています。ここでもず観察して頂きたいのは、斜面方向にいくつもの弧を描いて細い帯状に密生するイネ科植物です。これは、夕張岳蛇紋岩地に固有なエゾコウボウであり、崩れやすい蛇紋岩の崩壊を止めているよう

に見えます。その間の崩壊砂礫地には夕張岳蛇紋岩地固有のシソバキスミレをはじめとして、北海道の超塩基性岩地（蛇紋岩地とかんらん岩地）に限られたホソバトウキ・エゾミヤマトラノオ、日本の超塩基性岩地に限られたカトウハコベ、隔離分布する高山植物ホソバツメクサ、ムシトリスミレなどが見られます。以上の植物群落は、蛇紋岩雪田草原のエゾコウボウ群落と蛇紋岩雪田草原のシソバキスミレ群落にまとめられます。

吹き通し（一五一〇㍎）は、登山路を山頂に向かう際に通る過ぎる吹き抜け鞍部であり、登山中に見られる最後の蛇紋岩地となります。ここでは、山頂に向かう登山路の右手が南西に向き冬季季節風の風上側に当たりますので、冬季には積雪が極端に少ない「風衝地（ふうしょうち）」となります。他方、左手は、北東に向き冬季の風下側に当たりますので、遅くまで雪が残る「雪田」となり

ます。ただし登山路から観察できるのは前者の風衝地の植物群落です。そのうち、夕張岳蛇紋岩地固有のユウバリソウ、北海道超塩基性岩地に限られたユキバヒゴタイ、日本の超塩基性岩地に限られたナンブイヌナズナ、隔離分布する高山植物エゾタカネツメクサ・ホソバツメクサ・クモマユキノシタなどが疎らに生えている群落が夕張岳固有の風衝荒原・ユウバリソウ群落

です。その周りでハイマツ低木林と接するようにタカネヒメスゲ・タカネシバが密生しユウバリキンバイ・チシマキンレ



エゾコウボウ

イカ（タカネオミナエシ）・ヒメイワタデ・コケスギラン・ヒメハナワラビなどが混生しますが、これも夕張岳固有の風衝草原・タカネヒメスゲ群落にまとめられます。なお、吹き通しの北東斜面は、登山路から離れて直接観察できませんが、基本的には第一崩壊地と同じ群落が認められます。

第一崩壊地と吹き通しに認められるエゾコウボウ群落・シソバキスミレ群落・ユウバリソウ群落・タカネヒメスゲ群落は、超塩基性岩植物（蛇紋岩植物）と隔離分布する高山植物に特徴づけられる、夕張岳蛇紋岩地に限られた固有群落になります。

蛇紋岩は、かんらん岩とともに超塩基性岩（ちようえんきせいがん）と呼ばれますが、マグネシウムを多量に含みクロム、ニッケルなどの重金属を含むこと、そして栄養が非常に少ないことによって、それらの化学的特徴に耐えることができる植物だけが生育します。また、超塩基性岩の中で

蛇紋岩は非常に崩れやすいため、不安定な環境が形成され、比較的急傾斜の雪田では、頻繁な崩れに対抗して根を伸ばすことができる植物だけが生育できます。以上の超塩基性岩が形成する環境の厳しさに対して、それに耐えることができる植物だけが生育できることになります。超塩基性岩地で特殊な進化・分化をした超塩基性岩植物（蛇紋岩植物）と、ここまで述べてきた高山植物が夕張岳蛇紋岩地に限られた植物群落を構成しているのです。

（3）りよしやくへんがん緑色片岩地の高山植物群落

夕張岳の地形は、蛇紋岩と緑色片岩という地質の違いに応じて極端に異なります。すでに述べたように、蛇紋岩地は全体的には平坦く緩傾斜地となり、一部で崩壊斜面を形成しています。それに対して、固い緑色片岩は、夕張前岳（一五〇一メートル）・



夕張前岳（奥）・ガマ岩（中左）・第一崩壊地（その右）・アサツキ湿原（中右）・吹き通し（手前右）

男岩（約一四〇〇メートル）・ガマ岩（一四三九メートル）・釣鐘岩（約一五二〇メートル）・夕張岳本峰（一六六八メートル）など突出した岩峰（がんぼう）を呈し、植物群落の立地としては崖地（がけち）と岩礫・岩塊（がんかい）堆積地を形成します。崖地と岩峰の頂きは、冬季に積雪が少なくなるため風衝地となり、岩礫・岩塊堆積地は不安定な岩礫地か雪崩地になります。

登山路沿いで緑色片岩地を直接観察できるのは、夕張岳本峰です。ここでは、ハイマツ低木林のほか、道内に普通な風衝地矮低木群落であるウラシマツツジ・クロマメノキ群落が成立しています。この風衝地矮低木群落では、群落名に挙げた二種のほかコメバツガザクラ・イワウメ・エゾタカネヤナギ（マルバヤナギ）・ミヤマオグルマ・ミヤマダイコンソウ・ミヤマコウボウ・ミヤマノガリヤスなどが見られます。山頂は、登山者による踏みつけに強いナンブソモソモやムカゴトラノ

才が優勢な代償群落に被われていますが、はるか昔は風衝地矮低木群落であったに違いありません。山頂から東斜面の雪崩地を見下ろすと、ウコンウツギ・ミヤマハンノキなどの低木林とシナノキンバイソウ群落を眺めることができます。

緑色片岩地に限られた高山植物群落は、残念ながら、登山路から離れているため直接には観察できません。崖地では夕張山系固有種のエゾノクモマグサや隔離分布する高山植物のリシリゲンゲ・エゾリムラサキ・ウラジロキンバイなどからなる風衝草原が成立し、岩礫・岩塊堆積地には夕張岳固有のタカネエゾムギ・ユウパリクモマグサや北海道固有のフタマタタンポポなどが見られます。

(4) 夕張岳の高山植物群落

北海道の高山帯では、一般に、地形と冬季季節

風の方角によって積雪量が極端に違う立地（植物群落の成立する環境）に応じて、様々な植物群落が成立します。冬季季節風の風上側となり極端に積雪が少なくなる「風衝地」では積雪の保温効果が少ないので、土壌は冬季に凍結し春季から夏季に融解します。こうした風衝地では風衝荒原・風衝草原・風衝地矮低木群落が成立します。それに対して、冬季の風下側となつて極端に積雪が多くなり、土壌が冬季でも凍結しないが植物の生育期間が短くなる場所を「雪田」と言います。雪田は、植物の生育期間を通して湿润環境が保たれる「持続的湿性の雪田」と、融雪後乾燥する「季節的湿性の雪田」に分けられますが、それぞれにイワイチョウなど丈の低い草本からなる雪田草原とツガザクラ類が主体となる矮低木群落が成立します。また、風下側が急峻な地形の場合は「雪崩地」となり、シナノキンバイソウやエゾホソバトリカブ

表1 タ張岳における地質と地形の違いに応じた高山植物群落の配列

(地質) (地形)	蛇紋岩地	緑色片岩地
風衝地		
荒原	ユウバリソウ群落	—
草原	タカネヒメスゲ群落	エゾノクモマグサ群落
矮低木群落	—	ウラシマツツジ・クロマメノキ群落
代償植生	—	ムカゴトラノオ・ナンプソモツモ群落
雪田		
荒原	シソバキスミレ群落	—
草原	エゾコウボウ群落	—
	イワイチョウ・イトキンスゲ群落	—
	ミネハリイ・タカネクロスゲ群落	—
矮低木群落	エゾノツガザクラ群落	—
高山湿原	オオヌマハリイ群落など	—
雪崩地		
岩礫・岩塊堆積地	—	ユウバリクモマグサ群落
広葉草原	—	フタマタタンポポ・イワオウギ群落
	シナノキンバイソウ群落	シナノキンバイソウ群落
低木群落	ウコンウツギ低木林	ウコンウツギ低木林
	ミヤマハンノキ低木林	ミヤマハンノキ低木林
中間的な積雪地	ハイマツ低木林	ハイマツ低木林

トなど丈の高い草本が広葉草原を形成します。さらに、風衝地から雪田または雪崩地へ移り変わる「中間的な積雪地」ではハイマツ低木林が、やや弱い雪崩地ではウコンウツギ・ウラジロナナカマドなどの低木林が成立します。

夕張岳では、上記のように、北海道高山帯に普通な地形による立地・高山植物群落の関係に加えて、蛇紋岩と緑色片岩という特殊な地質にそれぞれ応じた夕張岳固有の植物群落が認められます（表1）。夕張岳の高山植物群落は、北海道の高山植生と比較すると、とりわけ多様な植物群落が認められますが、それは通常の地形による立地質地による立地が加わって、多様な立地が備えられているからです。ちなみに、夕張岳高山帯の植物数は、一つの山岳であるにもかかわらず、広大な日高山脈や大雪山の高山帯にそれぞれ見られる植物数と匹敵しています。それは、植物種にとつ

ては他地域より生育地が多様になっているからと言い替えることができます。

高山植生に対するエゾシカの影響

二〇一〇～二〇一四年、北海道希少野生動植物保護対策検討委員会植物専門部会がエゾシカネットワークと連携し、酪農大学・北海学園大学の協力の下、夕張岳高山帯の数ヶ所に防鹿柵を設置し柵の内外における植生調査を実施しました。その結果、高山植生に対するエゾシカの影響・食害が明らかになっております。

夕張岳高山帯におけるエゾシカの嗜好植物として、食痕の多さから、シナノキンバイソウ・ナガバキタアザミ・イブキトラノオ・タカネスイバ・エゾホソバトリカブト・ゼンテイカ・エゾノシモツケソウ・オニシモツケ・チシマアザミ・イブキ

ゼリモドキ・アキカラマツ・タカネエゾムギ・ホタルサイコなど主に雪崩地に出現する広葉草本と、イワイチヨウ・タカネクロスゲなど雪田の丈の低い草本が挙げられます。それに対して、夕張岳における不嗜好植物として広葉草本のトウゲブキ・ハンゴンソウと、雪田のシロウマアサツキが挙げられます。

エゾシカの嗜好性により、夕張岳では、シナノキンバイソウ群落（広葉草原）とイワイチヨウ・イトキンスゲ群落（雪田草原）への影響が顕著に認められます。登山路沿いに、シナノキンバイソウやチシマアザミの茎頂や花に多くの食痕を観察することができま。また、イワイチヨウ・イトキンスゲ群落が発達する一四〇〇坪台地やアサツキ湿原では、群落優占種であるイワイチヨウ（花茎と葉）に顕著な食害が認められます。

この雪田では、優占種イワイチヨウの激減と反

比例的に、かつて被度（地面を被う割合）が低かったシロウマアサツキが優占種に交代し、イワイチヨウを欠きシロウマアサツキ群落に変化した場所が増加中です。また、一四〇〇坪台地やアサツキ湿原では、かつてイワイチヨウ群落がハイマツ低木林に接する付近に比較的狭い幅でイブキトラ

ノオ、エゾノシモツケソウなどからなる広葉草原が認められましたが、現在ではそれらの嗜好植物が激減または消滅し、代わりに不嗜好植物のトウゲブキやハンゴンソウが目立つようになっていま



シナノキンバイソウ減少とタカネノガリヤス増加



イワイチヨウ減少とユウバリカニツリ増加

す。

エゾシカは、登山路から離れた雪田や雪崩地において食害がさらに顕著に認められますので、そうした場所

など嗜好植物を欠く代わりに、イネ科草本のタカネノガリヤスが優占する群落に激変しておりま
す。ユウバリカニツリとタカネノガリヤスは、い
ずれも成長点が地際にあるイネ科草本であり、草
地のイネ科牧草と同様に、草食動物の食害に耐え
て成長できるため、新たな優占種になったと考え
られます。

所で落ち着いて採食していると考えられます。一般の

シカ食害によってイネ科草本が増加し、元来の
高山植物群落が激減・消失する事態は、大雪山高
山帯や知床半島など道内他地域でも認められます

ら観察できない北側斜面では、登山路近辺よりも
明らかに、イワイチヨウ・イトキンスゲ群落とシナ
ノキンバイソウ群落への食害が顕著に認められま
す。前者ではイワイチヨウが減少する代わりに、
被食に強いイネ科草本のユウバリカニツリが優占
する群落に激変し、後者ではシナノキンバイソウ

。夕張岳の高山植生に対するエゾシカの影響に関
して、他地域と比較しながら考えますと、イワイ
チヨウやシナノキンバイソウが夕張岳からまった
くなくなり、それらの優占群落が消失する危険性
があります。

他方、夕張岳蛇紋岩地に固有な群落、そして緑
色片岩地に固有な群落に対するエゾシカ食害は、

大きな餌資源にならないことが理由かもしれないが、目下、雪田や雪崩地ほど顕著ではないように思われます。しかしながら、エゾシカ食痕は、ユウバリソウの葉、ユキバヒゴタイの花茎、タカネヒメスゲやエゾコウボウ、タカネエゾムギなどの葉にも認められますので、累積的な影響が懸念されます。また、崩れやすい蛇紋岩崩壊地に生育するシソバキスミレにとっては、シカの踏みつけによる攪乱かくらんが顕著であり、根茎が地上にむき出しになって萎れ枯れてしまう事例も認められます。こうした夕張岳を特徴づける希少な植物と植物群落に対するエゾシカの影響について、モニタリングを継続し、さらに大きな変化が生じた場合すぐに対応できる体制を用意しておかねばならないと考えます。

夕張岳の高山植生に対するエゾシカの影響については、いずれにしても、科学的なモニタリング



イワイチョウーイトキンスゲ群落からシロウマアサツキ群落への交代



増加した下食草トウゲブキ

調査の継続が必要です。エゾシカ食痕は、年ごとに多少を繰り返していますので、研究者だけではなく、夕張岳を楽しむ登山者の皆さんにも、植物種ごとに食痕数を数える、写真を撮影するなど、簡単な方法で結構ですので、登山者みずから可能な記録・確認を願っている次第です。

二〇一一年～二〇一四年のモニタリングでは、エゾシカ食痕が年ごとに少なくカウントされるようになり、それが山麓部でのエゾシカ駆除の推進と対応したと考えられました。

しかし、費用とマンパワーが必要なエゾシカの駆除は、今後どの程度の力強さで継続できるか不確実であるため、私たちの貴重な財産である高山植物と高山植物群落への影響は、注視し続けなければなりません。

なお、山地帯ではオシダ・エゾアジサイなど、亜高山帯ではオニシモツケ・チシマアザミ・ヤマ



シカ道とヌタ場

ブキシヨウマ・エゾミソガワソウ・クロツリバナ・ミネカエデ・オガラバナ・ムラサキヤシオなど嗜好性が高い高茎草本種や低木種に多くのエゾシカ食痕が確認されています。亜高山帯の石原平（約一二五〇㍎）では、ダケカンバ林の林床にシラネアオイの花が咲き乱れ、私たちを楽しませていますが、この植物は、日光や白老など他地域ではシカの格好のターゲットとされて激減しています。このことを考え合わせると、夕張岳の亜高山帯以下でも、エゾシカの影響を把握し続ける必要があります。

まとめ

夕張岳の高山帯では、蛇紋岩や緑色片岩などの地質と地形による異なる環境の下で、多くの固有植物を含み多様な高山植物が生育しています。夕

張岳の高山植物群落は、特殊な地質と地形の組み合わせによって世界に無二のものであり、国の宝、

（北海学園大学名誉教授・北海道大学総合博物館資料部研究員）

国の天然記念物に指定されていますが、必ず守り続けなければなりません。

他方で、自然は変化しています。エゾシカの影響など、変化の内容について皆さんと一緒に把握し、保全策を検討しなければなりません。また、登山道における木道設置や登山路周辺の植生回復策についても、検討課題であると感じております。そのためには、地元のユウパリコザクラの会はもちろん、北海道庁（道立自然公園、道条例指定の希少植物）や森林管理局（高山植物保護林）、文化庁（国指定天然記念物）などの関係行政機関、そして研究者グループなど、民・官・学からなる横断的な組織を設置し、科学的根拠を得ながら熟慮した保全策を構築していかなければならないと考えます。

夕張岳の鳥類

富川 徹

(野生生物総合研究所)



夕張岳の鳥類

富川 徹

(野生生物総合研究所)

はじめに

山が好きで学生時代や若い頃は道内の山々に登った。ただ夕張岳には、昭和六〇年七月に夕張岳固有の可憐な花々を楽しませてもらうために、友人と旧ヒュッテ泊りの高山植物観察の一回だけの登山である。その頃は山を目的に同じ富良野芦別道立自然公園内にある芦別岳や富良野西岳にも足を運んでいるが、道内の山々の中でも夕張岳と芦別岳は格別印象がある。その後は登山というよりは野鳥観察や写真撮影、山菜採り、仕事での鳥類調査などでシュウパ口湖やかなやま湖、滝里湖などに訪れており、夕張岳の鳥類についてはいつも気になっていた。そんな

者が本稿を担当することをまずはお許しいただいた。い。

夕張岳の鳥類ということではいろいろと関連資料などを調べたところ、これまでに当該地の鳥類について書かれた資料の少ないことに気づいた。特に山岳域の鳥類記録では、北海道の昭和五九年にまとめた自然公園総合調査報告書の中で踏査ルートは示されてはいるものの、その詳細な結果が見当たらないというのがあるのみで、当該地の記録についてはほとんどないことに驚いた。また周辺地域を含めた自然に関する資料や図書も、わずかに自然関連の資料がある他では、大夕張ダム の環境アセス書などが見られるくらいである。

したがって、本稿では夕張岳の鳥類を少しでも把握したいことから、基本的には記録の収集を第一に現地調査を行い、夕張岳及びその周辺地域における鳥類生息状況として現状の整理と報告を行うことで

記述する。

夕張岳及びその周辺の鳥類

夕張岳の登山には、大夕張コースと金山コースがあり、一般的には前者の石狩川水系夕張川上流部の大夕張ダムのあるシュウパロ湖から鹿島・鹿島支線林道を通る大夕張コースから登る。昔に私が登ったコースも同じである。過去にシュウパロ湖に架かっていた三弦橋のある景色は有名でよく知られてはいるが、現在はダムの底になる。新たな道路も夕張国道（国道四五二号）から白銀橋を渡り、旧鹿島地区へと続くが景色として構造物はなくなったがそれほど変わらないようにも思える。登山ポストのある森林管理署のゲートまでは、草地も見られる比較的明るい環境となっており徐々に山林の中へと続いている。

調査は、夕張岳及びその周辺の鳥類の把握ということで、平成二九年五月から七月の鳥類の繁殖期で鳥類の鳴き声（囀り）が聞ける時期に、夜間調査を含む確認調査と生息密度などを記録するラインセンサス（あらかじめ定められたコースに沿って歩き、目視や鳴き声によって野生生物の種類や数を調査する方法）により行った。

調査の対象コースは、国道側のシュウパロ湖の白銀橋から鹿島林道を通って夕張岳ヒュッテまでの約十四・五㌔と、冷水沢コース登山口から夕張岳山頂までの約六・八㌔合計二二㌔強のコースでの調査になる。コースは便宜的にⅠ区、Ⅲ区の三つに分けて行った。区間ごとの距離、標高、調査方法、調査日については以下に示す。

なお、Ⅲ区については高山帯に至る区間であるので夕張岳の鳥類（山岳地）の主要な調査地として扱い、標高別に三ルートを設けて調査を行った。夕張

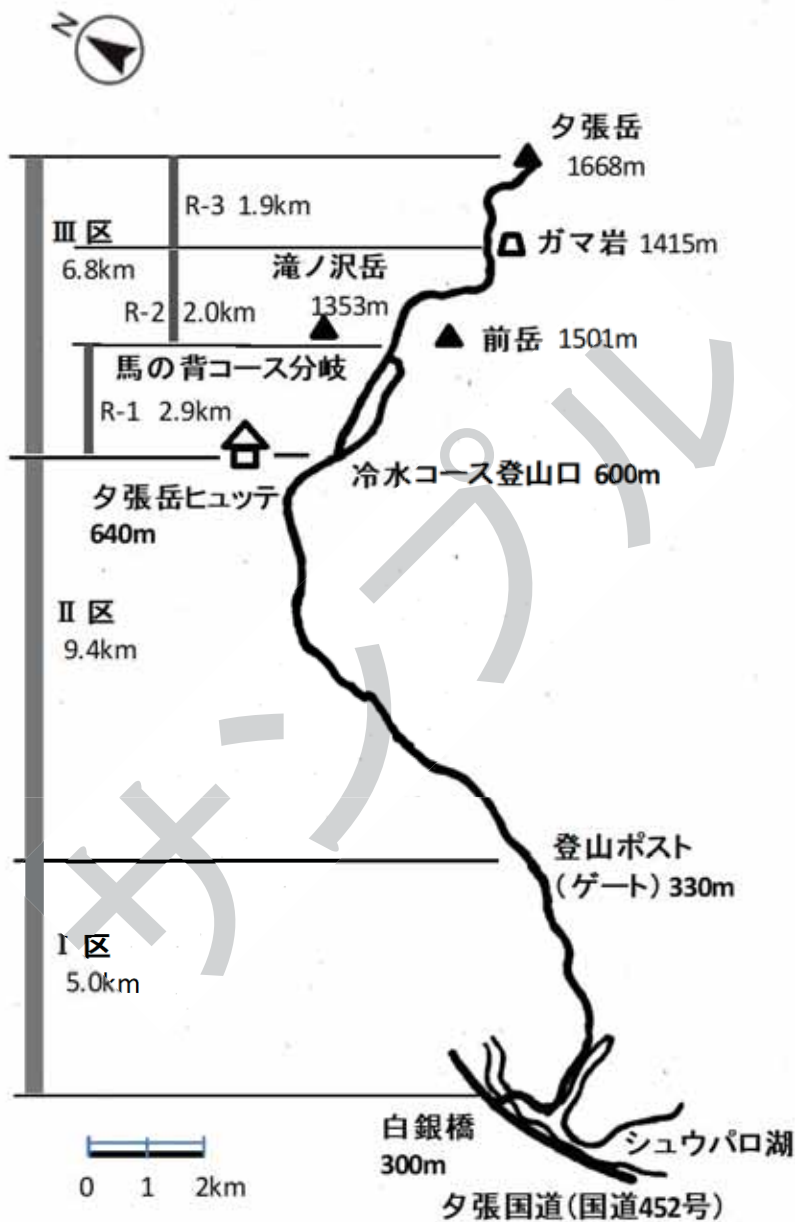


図1 鳥類調査概念図

岳における鳥類調査概念図を図1に示す。

I 区…シウパロ湖から登山ポスト(ゲート)まで

の区間(約五^ノ、標高三〇〇〜三三〇^ノ、確認調査、二〇一七年五月八日、六月三日、七月二二日)

II 区…登山ポストから夕張岳ヒュッテまでの区間(約

九・四^ノ、標高三三〇〜六四〇^ノ、ラインセンサス、二〇一七年六月三日、七月七日、八月二日)

III 区…冷水コース登山口から夕張岳山頂までの区間

(約六・八^ノ、標高六〇〇〜一六六八^ノ、ラインセンサス、二〇一七年七月八日)

調査の方法については、I 区のシウパロ湖から登山ポストまででは出現する全ての鳥類を記録する確認調査を行い、II 区の登山ポストから夕張岳ヒュ

ッテまでとIII 区の冷水コース登山口から夕張岳山頂までは、原則ルート上を時速〇・五〜二^ノ程で歩き、両側の各二五^ノ内外に出現する鳥類の姿や鳴き声により生息密度を記録するラインセンサスとした。調査の結果、全鳥類は五四種を確認し、これら区間別の確認種を夕張岳鳥類調査結果として示す(表1)。鳥類の生息状況としては、渡り区分では、夏鳥(六六・七%)、留鳥(三三・三%)で夏鳥が多かった。また生息区分では、森林の鳥類(六六・七%)が最も多く、次いで農耕地・都市の鳥類(一八・五%)、川・湖沼の鳥類(一一・一%)、灌木・草原の鳥類(三・七%)の順であった(図2、図3)。

以下、それぞれの区間についてみると、I 区のシウパロ湖から登山ポストまでは三一種が記録された。当区は水辺に加え灌木・草地環境、及びモザイク状にあるトドマツ人工林とハルニレ、ケヤマハンノキなどの広葉樹二次林が混在し分布するが、全体

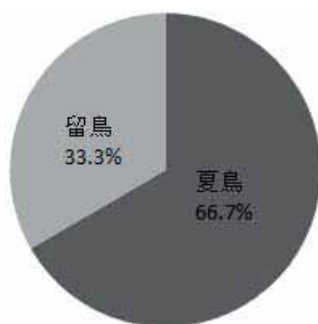


図2 渡り区分

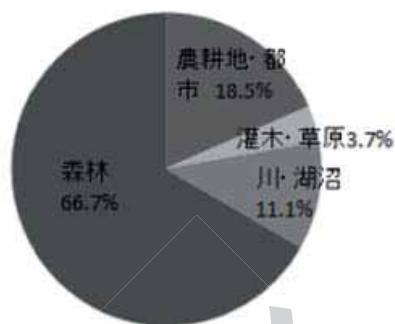


図3 生息区分

的にはやや開けた明るい環境にある。確認種は、希少種のおしどりをはじめ、カイツブリ、カワアイサ、アオサギなどのカモ類やサギ類など、種数は少ないがダム湖の環境を反映しての水鳥類が確認された。

また、希少種ではヨタカとオオジシギ、その他でカッコウ、コノハズク、モズ、ハシボソガラス、イワツバメ、ゴジュウカラ、ニュナイスズメ、ハクセキレイ、ホオジロなど合計一五種が確認された。ここは夕張岳の山麓部でもあり、水辺、草原、森林といった多様な環境を有しており、夜行性鳥類のヨタカとコノハズクを含む森林性鳥類が確認された。

次にⅡ区の登山ポストから夕張岳ヒュッテまでは、調査区の中では三五種と最も種数が多かった。当区はペンケモユーパロ川の河畔環境がある他、トドマツ及びアカエゾマツの人工林、ハルニレ、エゾイタヤ、ケヤマハンノキなどの広葉樹林の混交する森林で、林床は主にササ類に覆われている。希少種

No	種 / 調査区間	I区: シュウバ湖 ～登山ポスト	II区: 登山ポ スト～ヒュッテ	III区: 冷水コ ス登山口～夕 張岳山頂	渡り 区分	生息 区分
	調査月日	5/8,6/3,7/22	6/3,7/7,7/9	7/8		
33	ゴジュウカラ	○			留	森
34	ミソサザイ		○	○	留	森
35	マミジロ		○	○	夏	森
36	トラツグミ	○	○		夏	森
37	クロツグミ	○	○		夏	森
38	アカハラ		○		夏	森
39	コマドリ		○	○	夏	森
40	ノゴマ			○	夏	農
41	コルリ		○	○	夏	森
42	ルリビタキ			○	夏	森
43	キビタキ	○	○	○	夏	森
44	オオルリ	○	○	○	夏	森
45	ニューナイスズメ	○			夏	森
46	キセキレイ	○	○		夏	川
47	ハクセキレイ	○			夏	川
48	ビンズイ			○	夏	森
49	ウソ		○	○	夏	森
50	シメ		○		留	森
51	イカル		○	○	夏	森
52	ホオジロ	○			夏	農
53	アオジ		○		夏	森
54	クロジ		○	○	夏	森
計	54種	31種	35種	22種	-	-

注) 1. 太字は希少種、○は確認を表す。

類目録 改訂4版(藤巻裕蔵 2012)に従った。

①: 渡り区分

夏: 「夏鳥」

冬: 「冬鳥」

迷: 「迷鳥」

留: 「留鳥」

旅: 「旅鳥」

②: 生息区分

農: 「農耕地・都市の鳥類」

草: 「灌木・草原の鳥類」

川: 「川・湖沼の鳥類」

森: 「森林の鳥類」

高: 「高山帯の鳥類」

海: 「海岸・島の鳥類」

表1 夕張岳鳥類調査結果 2017.5.8～7.22

No	種 / 調査区間	I 区: シュウバノ 湖～登山ポ スト	II 区: 登山ポ スト～ヒュッテ	III 区: 冷水コ ス登山口～夕 張岳山頂	遡り 区分	生息 区分
	調査月日	5/8,6/3,7/22	6/3,7/7,7/9	7/8		
1	エゾライチョウ		○		留	森
2	オシドリ	○			夏	川
4	カワアイサ	○			留	川
3	カイツブリ	○			夏	川
5	キジバト	○	○	○	夏	農
6	アオバト	○	○	○	夏	森
7	アオサギ	○			夏	川
8	ジュウイチ		○	○	夏	森
9	ツツドリ	○	○	○	夏	森
10	カッコウ	○			夏	農
11	ヨタカ	○			夏	草
12	オオジシギ	○			夏	草
13	ハチクマ		○		夏	森
14	トビ	○	○		留	農
15	コノハズク	○			夏	森
16	コゲラ	○	○	○	留	森
17	アカゲラ	○	○		留	森
18	クマゲラ		○		留	森
19	ヤマゲラ		○		留	森
20	モズ	○			夏	農
21	ハシボソガラス	○			留	農
22	ハシブトガラス	○	○	○	留	農
23	ハシブトガラ	○	○		留	森
24	コガラ			○	留	森
25	ヒガラ	○	○	○	留	森
26	シジュウカラ		○		留	森
27	イワツバメ	○			夏	農
28	ヒヨドリ	○	○		留	農
29	ウグイス	○	○	○	夏	森
30	ヤブサメ		○		夏	森
31	エゾムシクイ		○	○	夏	森
32	センダイムシクイ		○		夏	森

のエゾライチョウ、ハチクマ、クマゲラが確認された他、ヤマゲラ、シジュウカラ、ヤブサメ、エゾムシクイ、マミジロ、アカハラ、シメ、アオジの一種が当区間だけで記録された。山

麓から山腹に移行する部分として、全体的にはここも森林性鳥類が多く、ウグイス、センダイムシクイ、コルリ、エゾムシクイが優占種で且つ代表種であった。なお、下山途中に林道上でシメの巣立ちしたばかりの幼鳥が立ちすくんでいた。この珍しい可愛い



写真1 林道で出会ったシメの幼鳥

姿光景は初めてだったので見入ってしまったが、「天敵にやられてはしまわないか」と心配になり、写真を撮らせてもらって「早く行け、大きくなれよ」と、道端に追いやりその場を後にした(写真1)。

Ⅲ区の冷水コース登山口から夕張岳山頂までは、Ⅱ区の森林環境から森林限界にかけての調査区で、夕張岳の核心部といえる山岳地であるので詳細は後述する。ここでの確認種は二二種と他の区間よりは少なかったが、コガラ、ノゴマ、ビンズイが確認されている。

夕張岳の鳥類(山岳地)

Ⅲ区の冷水コース登山口から夕張岳山頂までは、低山帯から亜高山帯、そして高山帯に至る標高六〇〇〜一六八㍎の高度差のある山腹から山頂までの山岳地で、ここ主要な調査地に出現する鳥類が最も

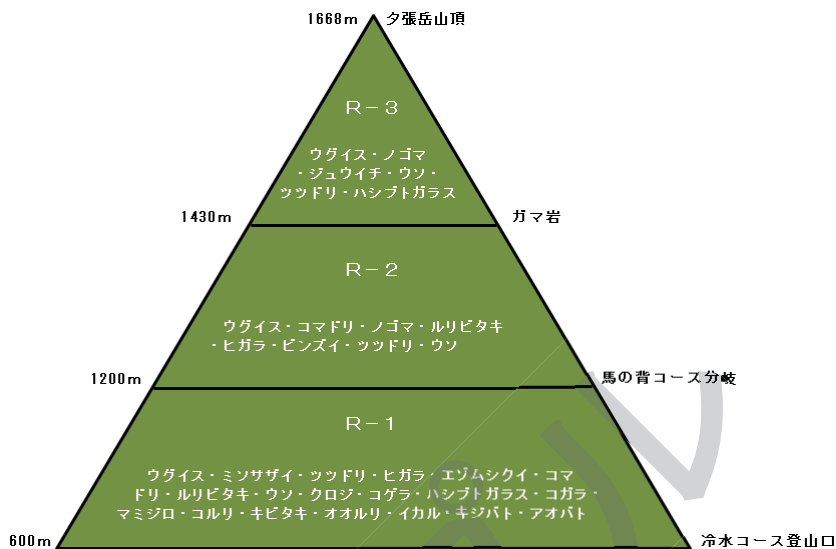


図4 標高別の鳥類出現状況

夕張岳にふさわしい種類ともいえよう。

この区間は、山岳地の調査ということで、コース上を都合 R-1、R-2、R-3 の三ルートに分けてラインセンサスを行い、それぞれの標高別の鳥類出現状況と種構成について整理した(図4、図5、表2)。

R-1 .. 冷水コース登山口～馬の背コース分岐(約2・九
葎、標高六〇〇～一〇〇葎)

R-2 .. 馬の背コース分岐～ガマ岩(約2・〇葎、標高
一一〇〇～一四一五葎)

R-3 .. ガマ岩～夕張岳山頂(約一・九葎、標高一四一
五～一六六八葎)

R-1 .. 冷水コース登山口～馬の背コース分岐

冷水コース登山口には入山調査中のカウンターがあ
ってそれを押すと九九番目だった。何となく縁起の
悪さを感じながら歩き始めると、足元におやじ(ヒ

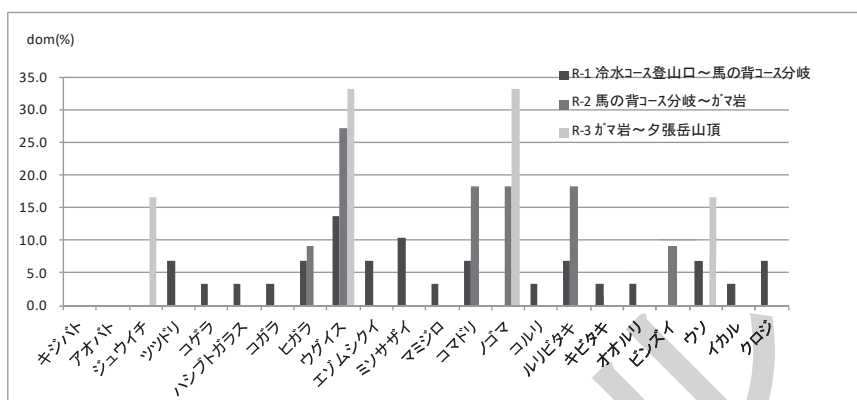


図5 山岳地の鳥類出現状況

グマ)の糞が二つ三つと落ちていた。何はともあれ、今日の安全を祈らずにはいられないスタートとなった。でも、天気が良いこともあって久々にみる樹冠からこぼれ落ちる朝陽の情景と澄みきった空気が、神秘性と静寂性を感じさせてくれて、今日の元氣をもらい山頂を目指した。

R-1は標高差が約五〇〇m、Ⅱ区間の低山帯の環境との連続性も見られるが、この辺りはアカエゾマツ、トドマツ、ダケカンバの大径木が多く、針葉樹と広葉樹が混交する樹冠の広がりは見事である。また、林床はクマイザサやチシマザサがやや密に生育するが、ウコンウツギ、ゴゼンタチバナ、オオバミズボウズキ、ミヤマハンショウヅルなどの美しい花々にも出会える。ルートの後半はやや傾斜のある山道ではあるが、恵まれた大径木と花々に加えて、途中には水場もあって鳥類には良好な環境となっている。

ここでは一九種が確認された。樹林内ではササ類

種 / 調査区	R-1冷水コース登山口～馬の背コース分岐 約2.9km、標高600～1100m			R-2馬の背コース分岐～カマ岩 約2.0km、標高1100～1415m			R-3カマ岩～タ張岳山頂 約1.9km、標高1415～1686m		
	N	N/Km	dom(%)	N	N/Km	dom(%)	N	N/Km	dom(%)
キジバト	+								
アオバト	+								
ジュウイチ	2	0.7	6.9	+			1	0.5	16.7
ツツドリ							+		
コゲラ	1	0.3	3.4						
ハシロガラス	1	0.3	3.4				+		
コガラ	1	0.3	3.4						
ヒカラ	2	0.7	6.9	1	0.5	9.1			
ウゲイヌ	4	1.4	13.8	3	1.5	27.3	2	1.1	33.3
エゾムシクイ	2	0.7	6.9						
ミサザイ	3	1.0	10.3						
マミジロ	1	0.3	3.4						
コサドリ	2	0.7	6.9	2	1.0	18.2			
ノコヤ				2	1.0	18.2	2	1.1	33.3
コルリ	1	0.3	3.4						
ルリビタキ	2	0.7	6.9	2	1.0	18.2			
キビタキ	1	0.3	3.4						
オオルリ	1	0.3	3.4						
ペンタイ				1	0.5	9.1			
ウソ	2	0.7	6.9	+			1	0.5	16.7
イカル	1	0.3	3.4						
クロジ	2	0.7	6.9						
合 計	29	10.0	100.0	11	5.5	100.0	6+	3.2	100.0
		19種			8種			6種	

(注)

1 N: 個体数(羽)

2 N/Km: 1km当たりの生息数(羽/km)

3 dom: 相対優占度

4 +: 調査帯外の確認

表 2 山岳地の鳥類出現状況

が多いこともありウグイスが最も優占し、次いでミソサザイ、ツツドリ、ヒガラ、エゾムシクイ、コマドリ、ルリビタキ、ウソなどが出現していた。これらのうち、ミソサザイは餌をくわえ道脇の土くれに隠れた後、すぐに飛び出るという一連の餌運び行動がみられ、この場所で確実に繁殖している。

鳥類の確認は大半が囀りによるものがほとんどであったが、ツツドリについては二羽が上空を鳴きながら移動飛翔する姿を目撃した。

全体的に針広混交林でも標高差があることから、エゾムシクイ、マミジロ、コマドリ、キビタキなどの比較的低い標高に生息する鳥類から、ウソ、クロジ、イカルなどといった高い標高に生息する鳥類が出現し、低山帯から亜高山に至る森林性鳥類を確認できた。

R-2 .. 馬の背コース分岐くガマ岩

馬の背コース分岐からのルートで、心地よい風が迎えてくれて癒されるも、頂上まで四・五歳と刻まれた案内版を目にするため息が漏れる。この分岐からは傾斜も緩く尾根部でもダケカンバやアカ

エゾマツの大径木の生育する明るい林相と、視界の良さがあつて軽やかな歩行となる。しばらくは東に進むが開けてくると北方向に滝ノ沢岳が迫りくる景色に変わり、山登りが楽しい一時の醍醐味である。同時に道脇のウラジロナナカマドやカラマツソウ、石原平から望岳台にかけてのシラネアオイの大群落など、ここに来て良かったと思わせる。少し進むと



写真2 確認したルリビタキの幼鳥



写真3 岩上の休むツツドリ

ダケカンバ帯からハイマツ帯の環境に移行するが、低木のトンネルをくぐりぬけると前岳湿原で、遅咲きのエゾノリュウキンカやサンカヨウが目にとまり、振り返るとガマ岩が見えた。

このルートでは八種が確認され、ウグイスが優占し、コマドリ、ノゴマ、ルリビタキなどが確認された。これらのうち、ダケカンバの低木林でルリビタ

キの幼鳥一羽がすぐ近くで確認され、本種がここで繁殖して巣だった幼鳥の個体であると確信した(写真2)。また唯一ビンズイ一羽も確認され、当ルートではおおむね亜高山帯に生息する鳥類が確

認された。

R-3 .. ガマ岩く 夕張岳山頂

最後の夕張岳山頂までのルートである。前岳湿原の木道付近では多数のエゾアカガエルのおたまじやくしとエゾトガリネズミの死体が観察でき鳥以外の生きものも意識した。ハイマツも少なくなり陽ざしがまぶしい青天井の下では、シナノキンバイ、チングルマ、ミヤマオダマキ、ミヤマアズマギク、蛇紋岩の露出地での少し遅いユウバリソウなどを観察する。そしてその広がりから山頂がうかがえた。

当ルートでは六種が確認され、ウグイスの他、高山性のノゴマがやや優占して確認できた。また、姿は見えないが比較的近いウソの鳴き声、ここだけの記録となったジュウイチの鳴きながらの移動飛翔、大きな岩上にとまり休息するツツドリを確認した(写真3)。

大雪山の旭岳頂上などでもハシブトガラスがよく

出現するが、ここ夕張岳でも確認する。高山帯では森林に比べて植生が単純になり、気象条件も厳しいため生息できる種が少ないと言われるが、今回お花畑などで数は少なかったが鳥類を確認できたことは良かった。

ここは馬の背コース分岐ノガマ岩（R-2）の亜高山から高山に至るルートであるので、ホシガラスやカヤクグリなどの高山性確認の期待もあったが残念ながら確認できず、今度の機会にとっておくことになる。

山岳地の冷水コース登山口から夕張岳山頂にかけては二二種が確認された。ウグイス、ツツドリ、ウソについては全ルートで確認され、ノゴマは山頂部の手前で、またウグイスやヒガラも各ルートにおいてはよく出現していた。

希少種の鳥たち

希少種は、存続基盤が脆弱^{ぜいじやく}な種類で、個体数が少なく観察頻度の小さい種（亜種）などを言い、一般的には国の天然記念物や環境省が指定する絶滅危惧種や危急種などがあげられる。調査ではエゾライチョウ、オシドリ、ヨタカ、オオジシギ、ハチクマ、クマゲラの六種を記録した。これら希少な鳥類の概要を表3に示し確認状況などを述べておく。

エゾライチョウは、北海道では留鳥で平地から山林にかけての森林に生息する。七月九日に夕張岳調査を終えて下山途中において、ペンケモユーパロ川右岸の林道でメス親一羽と幼鳥三羽の家族群を確認した。当該地の森林で繁殖したと考えられた。

オシドリは、北海道では夏鳥で河川や山間の湖沼やダム湖などに生息する。五月八日にシュウパロダム湖でオスとメスのつがい個体を確認した。周辺の

種和名	①天然記念物	②環境省レッドリスト 2017	③北海道レッドリスト 2017
エゾライチョウ	-	DD	Nt
オシドリ	-	DD	Nt
ヨタカ	-	NT	Nt
オオジシギ	-	NT	Nt
ハチクマ	-	NT	Nt
クマガラ	天然	VU	Vu

注) カテゴリー区分

①:「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)

特天: 特別天然記念物, **天然**: 天然記念物

②:「レッドリスト2017-絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」(環境省, 2017)

EX: 絶滅, **EW**: 野生絶滅, **CR**: 絶滅危惧ⅠA類, **EN**: 絶滅危惧ⅠB類, **VU**: 絶滅危惧Ⅱ類, **NT**: 準絶滅危惧, **DD**: 情報不足, **LP**: 絶滅のおそれのある地域個体群

③:「北海道レッドリスト(改訂版)2017」(北海道, 2017)

Ex: 絶滅, **Cr**: 絶滅危惧ⅠA類, **En**: 絶滅危惧ⅠB類, **Vu**: 絶滅危惧Ⅱ類, **Nt**: 準絶滅危惧, **Dd**: 情報不足, **N**: 留意, **Lp**: 絶滅のおそれのある地域個体群

表3 確認された希少種

北海道では夏鳥で一大繁殖地であるが、近年生息数が減少しているともいわれる。六月三日にペンケモユーパロ川下流左岸の灌木草地にある棒



写真4 棒杭にとまるオオジシギ

森林の大径木の樹洞などで繁殖している可能性がある。
ヨタカは、北海道では夏鳥で平地林など比較的開けた環境に生息する。夜行性鳥類を目的に行われた七月二二日の調査の夜にペンケモユーパロ川の合流するシユウパロダム湖付近から鳴き声を確認した。昔は人里近くでよく鳴き声を聞いたが極めて少なくなった。



写真5 ヒュッテの上空を旋回飛翔するハチグマ

杭に止まり鳴いている個体を確認した（写真4）。

ハチクマは、北海道では夏鳥で森林に生息するが、主に大雪山系、日高山脈以西に生息し北海道東部ではまれである（藤巻二〇一二）。七月七日、調査中の終点となる夕張ヒュッテの上空をゆっくりと旋回飛翔するオス成鳥一羽を確認した。この日の調査終

点に到着するや否や、頭上の旋回飛翔はヒュッテに無事着いた歓迎の挨拶であったのだろう……（写真5）。

クマゲラは留鳥で、北海道の山地の森林に生息するが個体数は多くはない。六月三日に

ペンケモユーパロ川右岸の山林で「コロコロ、コロコロ」という飛び鳴きの声を数回確認した。

夕張のクマゲラについて

夕張地域は比較的クマゲラがよく見られるところであると思っている。若い頃のスキーや義父との山菜採りに訪れた時などに、夕張市内や周辺で本種の鳴き姿や鳴き声を確認している。なかでも市街地周辺の鳩ノ巣山や冷水山辺り、三角山周辺から栗沢町万字に至る山道などで確認することが多かった。最近の記録では、平成二九年五月に夕張市役所に用事があり訪れた際の駐車場で、すぐ西側の山斜面から「コロコロ、コロコロ」の飛び鳴きが聞かれた。この時、「やつぱり夕張だ」と、クマゲラの生息できる環境がまだ残っていると確信して喜びを感じる中で、「ひょっとしたらクマゲラは夕張市に似合いの



写真6 ヒュッテにあったクマガラ営巢木の丸太木

の花はそれぞれサクラとツツジに決まっているが、鳥についてはないのでクマガラを推奨したい。

今回の調査では夕張岳ヒュッテにお世話になった丸太材が置かれてあった（写真6）。

早速、気になってヒュッテ管理人でユウパニコザクラの会代表の藤井純一さんに伺うと、平成二〇年

鳥なのかもしれない」と頭をよぎった。市町村の象徴としてこの鳥をあがてているところは、知る限り道内では富良野市、それに青森県の西目屋村があげられる。夕張市の市の木と市

頃に夕張市沼の沢の叔母の家の玄関前に枯れたマツがあつてそこにクマガラが営巢していたという。その後しばらくは使われなくなり枯れ木で障害もあるので伐つて夕張岳ヒュッテのデコレーションにしたと話された。この木はマツ類であると思われるが本種は天敵のヘビなどの登りにくい垂直ですべすべした樹皮のトドマツやダケカンバなどの大径木を営巢木に選ぶ。その昔は人家の庭木にも営巢するくらい個体数が多かったのかもしれない。同様に二五年前にも鶴川町の民家の庭木のトドマツに営巢していたことで追跡調査をしたことがある。それにしても、庭で天然記念物が営巢するっていうことが北海道は何とも凄いところである。

高山の鳥たち

調査のⅢ区間で、目前に迫る滝の沢岳（一二五三メートル）



写真7 クマゲラのオス

クマゲラ

クマゲラは我が国には北海道と北東北に生息する最大のキツツキである。生息数減少等の危惧から保全管理上において昭和 40 年に国の天然記念物に指定され、その後は環境省や北海道が定めるレッドリストの絶滅危惧種などの希少種に位置付けられている。全身が黒くオスは頭頂部から後頭部にかけて赤く、メスでは後頭部だけが赤い。鳴き声は、樹にとまっている時には、普通「キョーン、キョーン」と鳴くことが多く、飛翔時には「コロコロ、コロコロ」と甲高い声を発し、遠くからの姿が見えなくても鳴き声だけでその存在がわかる。森林環境に生息するが北海道では主に針広混交林、北東北ではブナ林を好む。営巣木は垂直の直径 40cm 以上のすべすべした樹木に縦 15cm、横 10cm 程度のほぼ楕円形の巣穴を掘ってそこで営巣繁殖する。また、ねぐら木といって夜間に休んだり身を隠したりする中空の樹木で巣穴と同程度の複数穴の開いた木を持ち備える。そうした営巣木やねぐら木のある場所は、クマゲラの生息において重要な生息環境であるので守らなければならない。クマゲラが掘った営巣木などは、フクロウ類を含む多くの鳥類や、エゾモモンガなどの哺乳類の巣などに利用されており、本種は多くの動物たちにとって重要な存在になっている。すなわち、森の生物多様性を保持する生態系の「要（かなめ）」といえ、クマゲラはキーストーン種である。一方、保護保全上における課題もある中で、本種の詳しい生態等の研究報告は決して多くはない。

とその先の芦別岳（一七二六^ミ）を望みながら、前岳の裾野の望岳台に至りガマ岩のやや開けた辺りからハイマツが出現するが、やはり夕張岳に登るからには高山性の鳥類が見たい願望に駆られる。今回確認した鳥類のうちそれらに該当する種では、コマドリ、ルリビタキ、ビンズイ、ノゴマ、ウソなどがあげられる。この中でコマドリ、ルリビタキは標高六〇〇〜一四三〇^ミの範囲でもさらに上層部に出現し、ノゴマは一二〇〇^ミ以上の区間で数は少ないが優占していたようにうかがえる。灌木草原性のノゴマは北海道の平地に繁殖するが、大雪山の森林限界一八〇〇^ミ以上の草原でも繁殖する。これは温度適応よりも環境選択が優占している（黒田一九八二）とされている。本種は標高の低いところと高いところに生息していて、その中間帯にはほとんどいないという不思議な生息分布をもつ傾向は、道内における鳥類調査の記録でも特に平地では海岸部に多いという

他ではおおむね同じであると思われる。ウソについては、標高六〇〇〜一六六八^ミの全区間の高度差内で出現し、比較的遠いが鳴き声も確認されたことから個体数は多いものと考えられる。

すでに述べているように、今回確認できなかったが高山性鳥類といえば、ハイマツの実（マツボックリ）を好んで食するホシガラスの他、カヤクグリ、ギンザンマシコなどがあげられる。大雪山の標高一五〇〇^ミ以上の高山帯は、ここ夕張岳でも同様の環境条件を有しているので確認できる可能性があると思われるが、残念ながら今回は出会えなかった。

鳥類の垂直分布調査については、富士山（三七七六^ミ）や大雪山旭岳（二二九一^ミ）などで行われており、これらは高山性鳥類を語る上ではそれら関連資料は欠かせない。今回の調査区間ではハシブトガラスが山頂付近で確認されているが、本種が富士山の高山帯にも出現することや、個人的に登っている

ミヤマカケス

一般に鳥類や哺乳類などが、餌を見つけた時にその場で食べずに持ち運んで、その餌を樹木の穴や隙間に隠したり、地面に埋めたりなどの行動がいわゆる貯食行動である。後でお腹が空いた時にその餌を探し当て捕食するのだが、越冬期に備えては数日から数ヶ月の期間に及ぶ準備行動も行われる。北海道の哺乳類ではドングリや木の実を餌にエゾリス、シマリス、アカネズミ類などのリス類やネズミ類、エゾナキウサギなどで見受けられる。状況は違うがヒグマが捕らえたエゾシカなどの餌（死体）を数日かけて捕食するのも類似行動なのだろう。鳥類では、ヤマガラやゴジュウカラなどのカラ類やハシブトガラス、カケスなどのカラス類などで顕著に貯食行動のあることが知られている。特にカラ類では野外観察でも見られるが身近なところで冬季の餌台（バードテーブル）でもそれら採食と同時に貯食行動が観察できる。カラスの仲間では高山帯に生息するホシガラスでは、主にハイマツの種子や賢果物を採取する行動が見られるが、厳しい自然環境に生きる術としてこの貯食は欠かせないものとなっている。カラス類では隠した場所はほぼ確実に覚えているというからその賢さには頭が下がるが、せっかく隠した種子がそのまま忘れ去られ翌年以降に芽が出てしまうというケースもある。そうした貯食行動が、植物側からは種子分散といって鳥や動物によって種や果実などが餌として運ばれ、食べられて遠くに運んでもらうということで、種の維持や分散において有利に働いていることは確かである。



写真8 ドングリの実をくわえるカケス

大雪山旭岳の山頂部でも登るたびに確認したりする。普段の街中や海岸にいるハシブトカラスが、こんな大自然の山頂まで出現することに不快感を覚える人もいるだろう。野鳥は生態的条件さえ許せばかなりの高度まで生理的制約なく生息できる（一九八八由井）が、人間の関わりが大きいところと考える。いずれにせよ、北海道では高山性鳥類の分布等調査の記録が少ないので、それら生息状況を調べる必要がある。

夜の鳥たち

調査で希少種のヨタカが確認された。姿は地味な色で目立たないが、夜鳴くことでその存在が分かり、その鳴き声は「キヨキヨキヨキヨ、キヨキヨキヨキヨ」と単調でも意外に大きな声で鳴く。本種の嘴は見た目に小さいが飛びながら蛾などを捕らえる時に

は口が裂けるほどに大きく開く。比較的明るい林に棲むが近年では急速に減少しており、今回のシユウパロダム湖付近での鳴き声を聞いた時にはなぜか嬉しさが込みあげた。

希少種ではないがコノハズクもダム湖の南側山林で鳴き声により確認した。コノハズクは、鳴き声が「ブツ・ポー・ソー（仏法僧）」と鳴くことから、長年この鳴き声の主（ぬし）はブツポウソウであると考えられていた。本種は「声の仏法僧（ブツポウソウ）」の別名をもっているが、実際のブツポウソウは主に本州以南に生息する青緑色の美しい鳥で、飛翔時には「ゲツ・ゲツ・ゲツ」などと鳴く。

コノハズクなどのフクロウ類は夜行性鳥類の代表種ではあるが出会える機会が少ない。個体数も多くはないが道内で繁殖するフクロウ類は意外にたくさんいて、本種の他にオオコノハズク、ワシミミズク、シマフクロウ、エゾフクロウ、キンメフクロウ、ア

オバズク、トラフズクなどがある。越冬のためにシベリアなどの北方から飛来するシロフクロウやコミミズクを含めると10種になる。北海道はこれらフクロウ類の生息できる豊かな自然環境がまだ残されているのだろう。

若い頃の山行きでテントや小屋泊りの際、天気の良い夜では何かが寂しそうに鳴くような声がどこともなく聞こえ、その不気味な声でなかなか寝付けないう夜を経験したことがある。今思えば、芦別岳のユーフレ小屋でも、日中のアオバトの「オーアーオー、オーアーオー」の鳴き声が終わって日が暮れると、今度はトラツグミの「ヒーン、キーン」という金属製の規則正しい声が一晩中山に響き渡っていた。今回の調査ではこの両種がともに普通に出現していたが、鳥の知識がないと独特で不気味な声がとても怖く思えるに違いない。トラツグミは通称「ヌエ（妖怪）ドリ」などとも呼ばれ、その鳴き声は古くから

恐がられていたという伝説があるのだと、鳥のことを教えてくれた恩師の井上元則先生からよく聞かされたことを思い出す。

おわりに

夕張岳の鳥類に関わる文献資料等は少ない。そうしたことを今ここで明らかにしておくことは重要なことであると気持ちを改め、思いきって本稿の担当を引き受けた。

古い調査資料などとしては、前述したとおりで「自然公園総合調査（一九八三 北海道）」や「すぐれた自然地域自然環境調査（一九九五 北海道環境科学研究所センター）」の他、「シユーパロダム建設に伴う環境アセスメント調査報告書（一九九五 農林水産省、北海道開発局）」などがある。これらの資料から鳥類の種数を整理すればおそらく一〇〇種以上の記録

になるだろうが、夕張岳の鳥類として特定できる記録にはならない。

調査結果としては、夕張岳及び周辺における繁殖期の鳥類は、森林性鳥類を主体に54種を確認した。記録に不足もあるものの、試みとして行った標高別の鳥類分布では多少なりにもその傾向がみられたこと、ヨタカ、ハチクマ、クマガラなどの希少種の生息情報を得られたことなど、一時期の調査ではあったが、全体としては相対的にも鳥類相把握の第一歩にはなったと考える。

本項を書きあげて原稿を提出したあとに藤巻裕蔵先生にお会いする機会があった。夕張岳の鳥類記録についてそれとなく伺うと、「平成元年に調査したデータがある」とのこと、その後に入手することができた。山岳域の記録はないと思っていただけにその存在に驚くと同時に感動した。本稿ではデータの存在のみに留めたが、今回調査で確認していない

キクイタダキ、エナガ、キバシリがあげられている。

夕張岳での鳥類現地調査を行い、その記録から現状における鳥類の生息状況についての報告と個人的主観の記述に努めた。本来なら関連資料等による生息情報も参考にまとめたかったのだが情報が少なくそれが叶わなかった。また、夕張岳へのアプローチで平成二八年八月の台風により鹿島林道が決壊して車両通行できず、調査頻度においての制約のあったことが悔やまれる。

三二年ぶりの夕張岳登山が鳥類調査登山となったが、年齢を重ねての山行きは正直なところ体力的にも堪えたという感はない。でも無事に下山できたことが何よりであった。

本稿が今後の調査活動、ひいては夕張岳の自然や鳥類の保全に繋がることを願うものである。最後に、未発表データを快く提供してくださった藤巻先生に心より感謝の意を表する。

文献資料

黒田長久 1982. 鳥類生態学. 614pp. 藤巻未発表資料

藤巻裕蔵 2012. 北海道鳥類目録 改訂 4 版 78pp.

極東鳥類研究会・美瑛

北海道 1984. 自然公園総合調査(富良野芦別道立自然公園) 報告書 動物 鳥類. 143-155pp.

北海道環境科学研究所 センター 1955. すべれた自然地域 自然環境調査報告書 (大雪山・日勝圏域) 180-184pp.

由井正敏 1988. 森に棲む野鳥の生態学. 237pp.



花の咲く季節に

7月最後の週末は、毎年子供たちと夕張岳に登ります。大きい子供たちも小さい子供たちもそして大人たちもそれぞれの山頂を目指し、汗だくになって頑張ります。最初は賑やかだった子供たちですが、長い山歩きに疲れてきたのか、だんだん口数が少なくなってきました。

シーズン真っ盛りの夕張岳の湿原や草原では、花々が咲き競い、山岳の短い夏を謳歌しています。木道脇ではシロウマアサツキやシラネニンジンの花々がやさしく風に揺れ、声援を送ってくれているかのようです。

夕張岳高山帯の昆虫

福本 昭男

(夕張自然科学研究会)



夕張岳高山帯の昆虫

福本 昭男

(夕張自然科学研究会)

標題の「高山帯」の定義は緯度、高度、植生の変化などによるもので、その標高は山岳により変わり、一般的には森林限界を超えて低木や草本の生える場所（ハイマツ帯）を言い、昆虫類の場合も、植物の例に習っている。夕張岳では標高九〇〇メートルを超え、一、三〇〇メートルまでを亜高山帯、これを超えて頂上までを高山帯としている佐藤（二〇〇七）に従った。

夕張岳で最初に昆虫を採集したのは、一九三一年に北海道帝国大学（現北海道大学）大学院の学生であった渡辺千尚博士で、夕張岳でベニヒカゲ一♀を採集した記録がのこっている（採集地点の標高は不明）。この標本は現在、層雲峡ビジターセンター（旧

層雲峡博物館）に保存されている。

その後札幌市に本拠地を置き、北海道大学の学生が中心となって一九六三年に発足した昆虫研究団体の SAPPORO HORNET CLUB が目覚ましい活動をみせ、夕張岳における多くの研究成果を残している。この中には前述の高山帯における蛾類採集の成果が残されており、その大要は後述する。

高山帯には多くの蝶などの昆虫が飛び交っているが、それらのすべてがいわゆる高山昆虫（高山蝶、高山蛾等）という訳ではない。高山性の昆虫は一般的には、その生活の全てが高山帯で行なわれていて亜高山帯や低山地へ降りない種と定義づけられる。

夕張岳には高山蝶は生息していない

北海道の山岳における高山蝶は、大雪山系に生息し国指定の天然記念物とされているウスバキチョ

ウに代表される。幼虫がケシ科のコマクサのみを食草とするため、同種がコマクサの無い夕張岳には分布しない理由の一つと理解できる。

しかし、同じ天然記念物のアサヒヒヨウモン（ヒヨウモン）の幼虫は、ツツジ科のキバナシヤクナゲ、コケモモ、クロマメノキ、ガンコウラン（かつてはガンコウラン科）を食し、ダイセツタカネヒカゲは、カヤツリグサ科のダイセツイワスゲやミヤマクロスゲを、カラフトルリシジミは、ツツジ科のガンコウラン、コケモモ、クロマメノキ、ツルコケモモ、エゾイソツツジを食す。これらの植物はいずれも夕張岳にも普通に生育しているが、それらを食す高山蝶が生息していないのは複雑な地史（ちし）（地球の発達の歴史）によるものと考えられる。ここではその詳細は省略するが、千島列島やサハリン經由で北海道に侵入した説が有力であり、夕張岳には達しなかったものと考えられている。

このように氷期と間氷期が繰り返される過酷な環境の中で生き延びてきた動植物を氷河期の遺存種（いぜんしゅ）（レリック）という。これらの理由から夕張岳には高山蝶は現時点では生息が確認されず、生息しないと思われる。

一方、お花畑をにぎわしている蝶をはじめとする高山で見られる昆虫の多くはいわゆる高山昆虫（高山蝶、高山蛾等）というわけではなく、言わば好高山種（こうさんしゅ）とでも言うべきものである。これらの蝶は夕張岳の山麓などの低標高地で育ち上昇気流などで吹き上げられてきたもので、一生を高山帯で過ごす高山蝶とは生態が異なる。好高山種には、コヒオドシ、クジヤクチョウ、シータテハ、ミドリヒヨウモンなどがあげられる。

夕張岳には高山蛾が生息している

ところが、高山蛾は夕張岳でも確認されている。

前述した SAPPORO HORNET CLUB や、高山蛾研究者の特筆すべき活動成果は大雪山系と共通する高山蛾を夕張岳で発見していることである。以下にその概要を記してみよう。一九六五年以降に夕張岳で記録されている三科五亜科九属九種の高山蛾を列挙する。（別表参照）

このうち、ミヤマヒロバハマキは夕張山系以外では大雪山系北東部のニセイカウシュツペ山に産するのみで、国外ではイランに産するが、日本産との関係は今後検討を要するとされている。また、ダイセツチビハマキとハイマツコヒメハマキは、北海道レッドデータブックで希少種とされている。

この他に、同じ夕張山地の芦別岳からのみフタテ
ンホンハマキ *Phtheochroa inopiana* (Haworth)

が発見されている。以上夕張岳に産する九種の高山蛾は、ハマキガ類が開張かいちよう（羽を開いた大きさ）一三〜二五ミリメートルで、ヤガ・シヤクガ類は二八〜四〇ミリメートルと小型である。

また、幼虫の食樹はツツジ類の植物が多く、ユケモモ、クロマメノキ、エゾノツガザクラ等が知られる。これらの植

物は一般に貧栄養の土壌に生育し、ハイマツを含み常緑樹が多い。そのため越冬後の幼虫が摂食を始めるのに都合がよく、常緑植物と高山蛾は密接な関係に



アルプスギンウワバ

別表 夕張岳で記録されている高山蛾

(1) アルプスギンウワバ

Syngrapha ottolenguii nyiwonis Matsumura

(山根正気・星川和夫、HORNET 五号一二頁、一九六六年)

(2) ミヤマヒロバハマキ

Aphelia christophi Obratzov

(山根正気・星川和夫・石塚博久、HORNET 六号、八～二九頁、一九六八年)

(3) ソウウンクロオビナミシヤク

Heterothera taigana sounkeana (Matsumura)

(4) アルプスヤガ

Xestia speciosa ussurica Kononenko

(5) タカネハマキ

Lozotaenia kumatai Oku

(6) ダイセツチビハマキ

Clepsis insignata Oku

(7) セシロヒメハマキ

Rhopobota ustomaculana (Curtis)

(3) ～ (7) の出典 (山根正気・高橋誠一、HORNET 一〇号 三七～五五頁、一九七一年)

(8) オオウンモンホソハマキ

Phtheochroa vulneratana (Zetterstedt)

(川辺 湛、蛾類通信 六五号、七五～七六頁、一九七一年)

(9) ハイマツコヒメハマキ

Epinotia pinicola Kuznetzov

(神保一義・柳田慶浩、Coenonympha 三六号 七〇三～七〇七頁 一九七八年)

あることをうかがわせている。これらの植物は周北極性の植物で、周北極種の蛾類の食餌植物となっている。

これらのことから夕張岳に生息する高山蛾が、蛇紋岩による超塩基性岩土壤に生育するユウパリコ

ザクラのような

超塩基性岩植物

を食餌植物とし

ている例は現状

では知られてい

ない。

北海道（二〇

〇一）によれば

、北海道全体で

約一三、〇〇〇

種の昆虫が生息

しており、植物



ソウウンクロオビナミシャク

種の約六倍の多さである。その

点から夕張市内

の昆虫相の分布

や生態の調査研

究も容易には進

まない。夕張岳

に限ってみても

、実際の調査に

許認可申請と長

距離の登山が伴

い、大変な作業

となるが、さらに高山性昆虫が発見される可能性は

高いので、アマ・プロを問わず若い研究者の輩出を

心から願って本文を終わりとしたい。



アルプスガヤ

表. 北海道高山蝶及び高山蛾の分布表（保田 2014 を一部改変）

科名・種名	華 跡 山 系	夕 張 山 系	日 高 山 系	大 雪 山 系	天 塩 岳	利 尻 山 系	阿 寒 山 系	知 床 山 系	道 東 部	科名・種名	華 跡 山 系	夕 張 山 系	日 高 山 系	大 雪 山 系	天 塩 岳	利 尻 山 系	阿 寒 山 系	知 床 山 系	道 東 部
アデハチウ科										ハマキ科									
ウスバチウ				●						リシリハマキ						●			●
シジミチウ科										ミヤマヒロバハマキ		●		●					
カラフトリシジミ			●	●	●			●	●	タカネハマキ	●	●	●	●				●	
タテハチウ科										コスギハマキ				●			●		●
アサヒウモン				●						ダイセツツビハマキ		●	●	●					
クモバニヒカゲ				●		●				ミヤマキハマキ				●	●				
ダイセツタカネヒカゲ			●	●						ムツウラハマキ				●					
総類（5種中）：小計			2	5	1	1		1	1	カワベタカネヒメハマキ				●	●			●	
シャクガ科										コシロフリヒメハマキ				●					
クロモンミヤマナミシャク				●						イソツツシメムシガ							●	●	●
タカネナミシャク			●	●						タカネナミハマキ	●		●	●				●	
シロテンサザナミナミシャク				●						シロアゲラヒメハマキ				●	●		●	●	●
ソウランタロウビナミシャク	●	●	●	●	●	●	●	●	●	ギンコウランヒメハマキ				●	●		●	●	●
アルプスカバナミシャク				●						ニシベツヒメハマキ				●			●		
ダイセツタカネエダシャク				●						ハイマツコヒメハマキ		●	●	●	●	●		●	
コウノエダシャク				●						アカムラサキヒメハマキ				●					
ドウガ科										ダイセツヒメハマキ				●				●	●
ダイセツドウガ				●						セシロヒメハマキ	●	●	●	●	●		●	●	●
ヒトリガ科										ホソハマキガ科									
ダイセツヒトリ				●						オオウンモンホソハマキ		●	●	●					
サガ科										フタテンホソハマキ	●	●	●						
ホッキョクウンヤガ				●		●		●	●	ダイセツホソハマキ				●					
アルプスヤガ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	小総類（21種中）：小計	3	7	10	20	7	2	6	8	7
ダイセツヤガ				●						山系別合計種数（43種中）	6	10	18	42	11	7	9	13	11
コイズミヨトウ				●						※夕張山系からは青別岳のみ									
ダイセツキシタヨトウ				●															
オーロラヨトウ				●															
クロダケタカネヨトウ				●															
アルプスギンウバ	●	●	●	●	●	●	●	●	●										
大総類（17種中）：小計	3	3	6	17	3	4	3	4	3										

右上に続く

引用文献（文中で示した文献を除く）

佐藤 謙、二〇〇七、北海道高山植生誌、北海道大学出版会

北海道環境生活部環境室自然環境課、二〇〇一、北海道の希少野生生物、北海道レッドデータブック

2001

神保一義、一九八四、高山蛾、築地書館、東京

田泰則 編、二〇一一、日本産蛾類標準図鑑、I、

352pp. 学研教育出版、東京

岸田泰則 編、二〇一一、日本産蛾類標準図鑑、II、

416pp. 学研教育出版、東京

楠 祐一・保田信紀、一九九七、北海道産高山蛾の

生活史について、誘蛾燈、一四九号、八九〜九三

永盛俊行ほか、二〇一六、完本 北海道蝶類図鑑、

北海道大学出版会

那須義次・広渡俊哉・岸田泰則 編、二〇一三、日

本産蛾類標準図鑑、IV、552pp. 学研教育出版、

東京

渡辺康之、一九八六、高山蝶、築地書館、東京
保田信紀、一九八一、層雲峡博物館に所蔵される昆
虫類標本目録、第一報、（日本産蝶類標本）層雲
峡博物館研究報告、第一号



秋の夕張岳ヒュッテ

下山はパトロールを兼ねて馬の背コースを下ります。924m標高点を登り返すと、急な尾根の下りが始まり気を抜けません。道がつづらになり、ヒュッテ前を流れる沢の音がかすかに聞こえ始めると、“帰ってきた”という安堵の気持ちが湧き起こりますが、実はここからが最後の頑張りどころ。

下りても下りてもなかなか着かず、思わずため息が漏れる頃、沢が見えてきます！どろんこの道を転ばないように慎重に下りていくと、ぽっかり開いた森の出口の向こうに、メルヘンチックな佇まいのヒュッテがお出迎え。

70年前の鳥瞰図から見た炭都夕張

菊地 宏治

(ユウパリコザクラの会)





②三菱石炭鉱業大夕張鉄道線

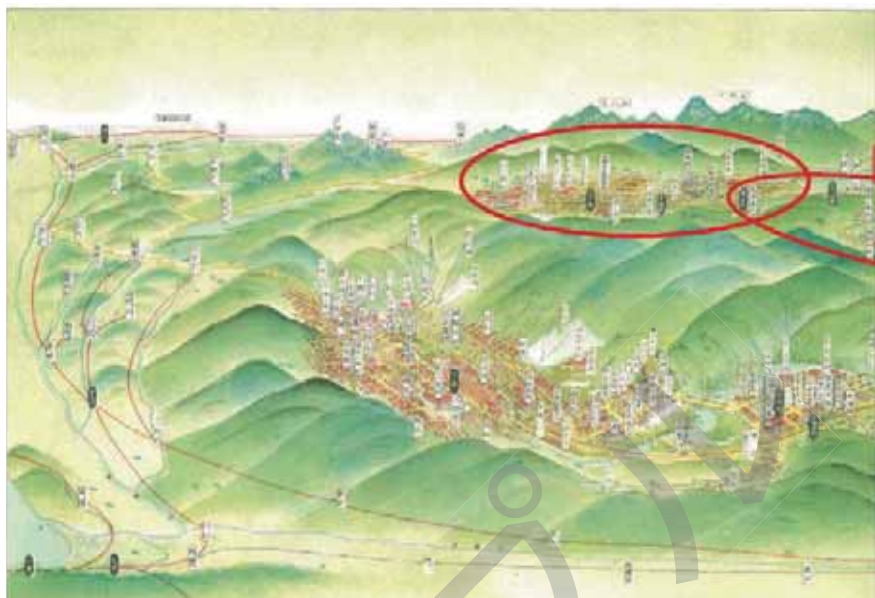
①錦沢園地

七〇年前の鳥瞰図に見る炭都夕張

この鳥瞰図は吉田初三郎(※)が、おそらく昭和二五年前後に書いた鳥瞰図であると思われますが、近年の夕張の歴史を見る上で、興味深い点があります。

一つ目は「錦沢園地」。ここは、夕張市民の憩いの場所でしたが、夕張鉄道の廃止と共に閉鎖されました。約三百本のサクラが植えられ、当時は桜の名所だったようです。錦沢というこの地の名前の由来は、駅として開業した一九二六年に、春には桜が咲き秋には紅葉が美しく色づくことからつけられたようです。

二つ目は、「三菱石炭鉱業大夕張鉄道線」夕張側から夕張岳に向かう際、清水沢から国道四五二号線を



③ダムに沈んだ町「大夕張」

北上しますが、ほぼこの国道沿いに鉄路があり、三菱夕張炭鉱の石炭輸送で活躍していました。今でも駅舎の跡や、保存会によってかつての車両などが保存されています。

三つ目は、「大夕張」の町です。国道四五二号線から、夕張岳の登山道入り口につながる市道がシューパロ湖を横断しますが、今現在は、見渡す限りの自然風景となっています。かつてここには、二万人以上の人たちが暮らしていた大夕張の町がありました。今は、シューパロ湖の湖底に沈んでしまいました。今は、大夕張眺望公園園（夕張東高校跡地）には石碑が建っていて、秀峰夕張岳を望むポイントとして、ドライブ途中の車がよく立ち寄っています。

※吉田 初三郎（よしだ はつさぶろう）は大正から昭和にかけて活躍した鳥瞰図絵師。生涯において三〇〇〇点以上の鳥瞰図を作成し、「大正広重」と呼ばれていたそうです。

【一】 錦沢園地

現在の道道三号線で、札幌方面からトンネルを抜けて夕張市若菜に出ますが、**鳥瞰図**にはこの中間地点に「錦沢遊園地」が確認できます。この地にはかつてスイッチバックで有名な**夕張鉄道**が走り、錦沢駅があつて、夕張を代表する**風光明媚**なポイントでありました。駅の後方が、勾配が連続する**山越え**区間に位置した本格的三段式スイッチバックで、更に二段目の途中に駅施設があり、スイッチバック式停車場としても珍しい構造でした。桜や紅葉の名所、憩いの場所として賑わっていたようです。

最盛期には、飛行塔、木馬一六頭、豆電車、豆自動車、つり堀、ボート一二艇、小動物園、桜約三百本、四国新八十八ヶ所、錦沢教会三十三ヶ所、錦沢寺などがあり、夕張鉄道錦沢駅は一日当たり乗降客数六千人もあったほど盛況の地でした。

昭和八年五月に開園し、昭和四五年に閉園しました。



ボートなどで賑わう錦沢遊園地

た。鉄道は錦沢駅からはトンネルを抜けて現在の運動公園がある平和地区から若菜地区にかけて大き



豆汽車（1966 年頃）

道は錦沢園地
からいくつかの
トンネルを抜い
て平和地区まで
つながっていた
ようですが、今で
はトンネルも閉
鎖されて訪れる
人はいません。

いました。

なカーブを描いて夕張市中心部方向に向かってい
きました。
ここにはかつて、夕張市が整備したサイクリンググ
ロードがあり、夕張の石炭歴史村サイクリングター
ミナルからふもとの富野休憩所まで全長一八km
の道がありました。錦沢園地にはその看板が残って



夕張市サイクリングロードの看板

鳥瞰図から伺える南大夕張（現在の南郡町）の
先には、シューパロ湖がありますが、現在の規模
には到底及ばなく小さく描かれています。その先
には鹿島地区の街並みが大きく存在し、かつての
三菱大夕張炭鉱が最盛期であった頃は、この地区

[illegible]

だけで2万5千余人が居住していたという記録があります。

この大夕張地区までは清水沢駅から鉄道（三菱石炭鉱業大夕張鉄道線）が走っていました。夕張岳の懐奥の奥鹿島地区にも人家が発達し、小学校も存在しました。

一九一一年（明治四四年）開業の大夕張炭鉱専用鉄道（清水沢―南大夕張）の経営主体が三菱合資・三菱鉱業として代わったのち、炭鉱



さよなら列車

の北部開発により延長され一九三九年（昭和十四年）に三菱鉱業株式会社線（清水沢―大夕張炭山）として地方鉄道に改組・開業しました。一九五〇年（昭和二十五年）には美唄鉄道株式会社の吸収により「三菱鉱業大夕張鉄道」となり、一九五

六年（昭和二十一年）六月国鉄との連絡運輸の精算を美唄鉄道との併合精算に変更、「三菱鉱業大夕張鉄道線」となりまし

た。沿線炭鉱の石炭輸

送や、夕張岳山麓から森林鉄道により運び出された林産品の輸送に活躍する一方、道路が未整備だった昭和三〇年代後半まで沿線住民にとっては貴重な足でありました。その後炭鉱の経営主体の変遷により一九六九年（昭和四十四年）一〇月には三菱大夕張炭礦株式会社、一九七三年（昭和四十八年）一二月には三菱石炭鉱業株式会社に譲渡され、相次ぐ閉山・合理化により一九八七年（昭和六十二年）七月に廃止されました。

（路線データ）

路線距離（営業キロ）

清水沢―大夕張炭山間一七・二 km

軌間…一〇六七 mm

駅数…八駅（起終点駅含む）

複線区間…なし（全線単線）

電化区間…なし（全線非電化）

閉塞方式…タブレット閉塞式

（運行形態）

鉄道院運輸管理下の専用鉄道時代の詳しい運行状況は不明ですが、夕張機関庫に所属する機関車が入線し、残された写真から七二〇〇形や九〇三〇形、九〇五〇形等が入線し石炭輸送に当たっていたことがわかっていきます。

自営運転開始、地方鉄道化後は九二〇〇形、九六〇〇形、C一一形が混合列車や貨物列車の牽引に活躍したが一九七三年（昭和四八年）には国鉄DD一三形と同等の杜形DL五五形が導入されました。保存目的を別にとすると、日本の私鉄で旅客営業に蒸気機関車を用いた路線はここが最後でありました。



だるまストーブ

気動車を
導入したこ
とは無く、
廃線まで機
関車が客

車・貨車を牽引する方式でした。混合列車は一九六七年時点では一日七往復（内一往復は区間列車）、一九八七年（昭和六二年）の廃止直前時点では一日三往復運転されていました。冬季、客車暖房にはダルマストーブが使用され人気を集めました。他に数本の貨物列車がありました。



旭沢橋梁と明石橋（昭和40年）

全線廃止直
前時点での運
賃は初乗り四
〇円、清水沢
南大夕張間が
六〇円で、北
阪急行電鉄と
並ぶ日本一の
低運賃であり
ました。



夕張炭山駅



シューパロ駅



大夕張駅



南大夕張駅



千年町駅



遠幌駅



明石町駅



清水沢駅

三菱大夕張鉄道保存会について

三菱大夕張鉄道保存会は平成十一（一九九八）年七月の発足以来、月にほぼ1回のペースで保存車両の補修作業を展開する一方、保存車両を地域



南大夕張駅跡地に保存されている車両

住民の交流の場とすべく「汽車フェスタ」、「シユーパロ展」などを通じ活動を継続して来ました。

この間、国道四五二号線に面する保存車両には多くの観光客が訪れています。これらは二〇〇一年に「空知の炭鉱関連施設と生活文化」として北海道遺産として指定されたのに加え、二〇〇七年一月三〇日には経済産業省より近代化産業遺産として認定されました。



三菱バス

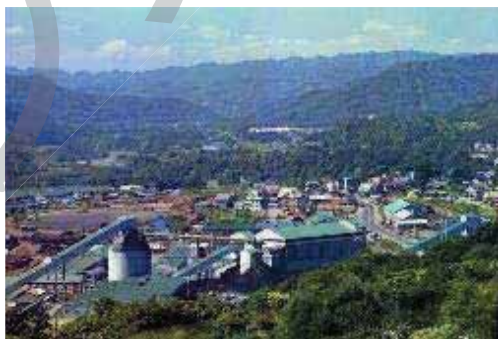
【三】ダムに沈んだ大夕張の町

鳥瞰図では冷水山を挟んで、夕張市の本町地区の向こうに大きな「別の町」が存在するのが一目瞭然で分かります。前述した三菱石炭鉱業大夕張鉄道線で清水沢と結ばれていた大夕張の町は、現在シューパロ湖に沈んでしまいました。



シューパロダム

清水沢から国道四五二号線を経由して車走らせて、張岳登山口に向ける。全長二三〇〇mのシューパロトンネルを抜けると景色は一変します。右手には人造湖として日本で第二位の面積を誇るシュー



南大夕張炭鉱

が暮らしていた町があったとは、想像もできません。大夕張の町は一九二九年の三菱鉱業による大夕張炭鉱開発により建設された街区で、山間部に位置しましたが、最盛期の一九五五年には二万五千人近く（鹿島二〇〇〇人・南部五〇〇〇人）の人口を数えました。

パロ湖が見え、晴れていればその向こうに、夕張岳が望めます。現在の白銀橋が架かる場所は、大夕張地区の「明石町」という町でした。現在のこの景色から、かつてこの地域に二万人以上の人々

幼稚園から高等学校までの教育機関、警察、消防、郵便局などの行政機関、一般商店、購買会、生協、旅館、銀行、炭鉱病院、映画館、寺社など通りの都市機能を有していました。開発当初は三菱石炭鉱業大夕張鉄道線以外の公共交通機関はなく、言わば「陸の孤島」でありましたが、一九六二年に清水沢地区からの道路が開通し、夕張鉄道や三菱美唄鉄道バスのバス路線も敷かれました。

鹿島地区は大半が炭鉱町でしたが、夕張川を隔てた鹿島白金（奥鹿島）は樺太からの引揚者が入植した開拓地で、唯一の農村部でありました。鹿島白金は炭鉱最盛期に開拓農家の離農が進み早くから過疎化していましたが、一九六六年に夕張市南部（南大夕張）地区に三菱南大夕張炭鉱の開発が始まり、一九七〇年には同炭鉱の出炭が開始されたことに伴い鹿島地区から南部地区に住民が移り始め、一九七三年の大夕張炭鉱閉山により鹿島



大夕張の町（現在はすべてシューパロ湖に沈んでいる）

地区全体の過疎化が急速に進みました。

閉山前の一九七二年に一一〇〇〇人ほどいた住民のうち半分以上が閉山後直ちに転出し、一九七四年には四〇〇〇人ほどに減少。その後も過疎化は一気に進み、一九九八年には夕張ニューパロダム建設に伴い



夕張東高校

全住民約三五〇〇人が移転、全域が無人居区となりました。二〇一四年には夕張ニューパロダムの湛水が始まったことにより、かつて街であった地域の大部分が水

没しています。「大夕張」の呼称は狭義には鹿島地区のみを指しますが、広義には明治・大正期に大夕張炭鉱が操業し、元々「大夕張」と呼ばれていた南部地区を含めます。南部の人口は最盛期の一九七四年には一〇〇〇〇人近くに上りましたが、一九八〇年代には三菱南大夕張炭鉱合理化に



全国有数のマンモス校だった鹿島小学校

より人口が七〇〇〇人台に減少、一九九〇年の三菱南大夕張炭鉱閉山後は急速に過疎化が進み人口が一五〇〇人程度となったあとも人口減少が止まらず、一九九七年までに一〇〇〇

人を割り込みました。

二〇一七年現在、鹿島地区はすべて公有地とな
っており、夕張ニューパロダム工事に際して行わ
れていた林道の付け替え**工事**も概ね終了しまし
た。鹿島弥生町・鹿島春日町・**鹿島常盤町・鹿島**



昭和 30 年頃の大夕張（代々木アパート）

北米町・南部北
夕町は住居表示
廃止。鹿島地区
は鹿島白金の夕
張岳登山口方面
や山岳地帯を除
く大部分が二〇
一四年の夕張シ
ューパロダム湛
水開始により水
没しました。
最後まで鹿島地



1970 年頃の大夕張全景 最盛期の神社山から見た大夕張。

右手に常盤町、千年町、明石町と続く

区に残っていた住民
は南部地区や清水沢
地区に移住したほ
か、夕張市外にも転
出。鹿島明石町に産
業廃棄物処理施設
「鹿島じん芥埋立
地」がありました。が
ダム貯水区域に当た
っており埋設物を貯
水区域の外に搬出す
ることが必要となっ
たため、鹿島白金の
水没しない場所に夕
張シューパロダム埋
設物処理施設が設置
されました。湛水後
も高台は水没してお



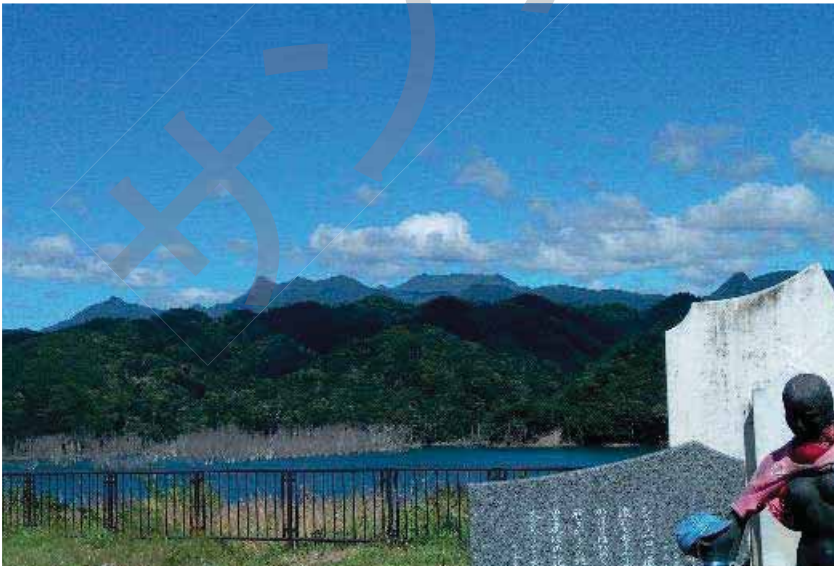
鹿島の町名のかつての国道

らず、わずかに
建物跡などが残
っています。

鹿島明石町に
あつた北海道立
夕張東高等学校
跡地は水没しな
いため、同地に

鹿島地区各地に残されていた閉校記念碑・道路開
通記念碑・戦没者慰霊碑・馬頭観音などが集めら
れ、「大夕張眺望公園」となっています。同公園
隣を新たに付け替えられた国道四五二号（夕張国
道）が通っています。シューパロ湖にかかる国道
四五二号の橋梁にはそれぞれ鹿島地区の町名・字
名が付けられています。

鹿島富士見町の夕張市立鹿島中学校跡地も水
没しないものの、閉校記念碑・母子像等は「大夕
張眺望公園」に移設されています。鹿島白金の記



大夕張眺望公園から夕張岳を望む

念碑については水没しないため同地にそのまま残

されており、付け替えられた夕張市道奥鹿島線沿いにあります。旧大夕張ダム工事関係の記念碑・

慰霊碑は南部青葉町の夕張川ダム総合管理事務所前に移設。南部地区の人口は約四〇〇人。うち南

部菊水町・旧南部北夕町は人口〇人となっている

ほか、南部青葉町は人口二〇人を割っています。

夕張鉄道バス「南部」バス停（南部町）までの

路線（南部線）は一日数便運行されていましたが、

二〇一七年（平成二九年）一〇月一日改正で新夕張

駅発着に変更となったため廃止されました。

《参考資料》

出典…フリー百科事典

『ウィキペディア (Wikipedia)』から

- ・ 錦沢遊園地
- ・ 三菱石炭鉱業大夕張鉄道線
- ・ 大夕張

地図から消えた村消える町

（転載許可済 URL公開不要）



秋の夕張岳

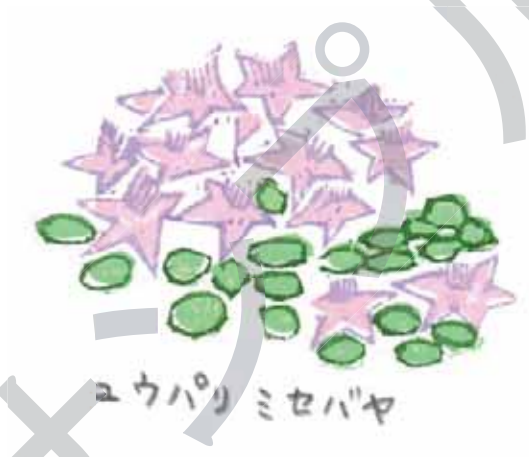
植生ゆえに大雪山のような錦織なす色鮮やかな紅葉にはならないのですが、湿地帯が黄金色に染まり、静かに、控えめに、それなりに風情ある夕張岳の秋の姿が見られます。

9月末はシーズン最後のパトロールと登山道の整備。山への感謝の想いを込めて登ります。空気は冷たく寒いのですが、山道をせっせと歩くにはちょうどいい気温です。

山仕舞いが終わったら次はヒュッテ仕舞い。そして、夕張岳は再び長い冬の眠りに就くのです。

夕張岳登山情報

ユウパリコザクラの会



ユウハリミセバヤ

夕張岳登山情報

夕張岳は花の百名山、日本二百名山としても知られるようになりシーズン中(六～九月)には、約二千人の登山者が訪れています。

夕張山地の南端近くに位置し、主峰の座は芦別岳(一七二六m)に譲るものの、訪れる登山者は圧倒的に多い。それは上部に蛇紋岩の露出地があり、複雑な地形と合わせて多種類の高山植物を見られる事に因るものと思われます。

登山路は東西に各一コースありますが、札幌に近い西側の「大夕張コース」が賑わっています。夕張岳ヒュッテが建っているのも大夕張コース側です。

夕張岳の語源は、夕張川の水源に因る山名と思われれますが、ユー・パロの意味は「鉱水の川口」の説が有力の様です。これ以外の登山道情報につ



シューパーロ湖越しに見る夕張岳

いては、各ガイド本や夕張市教育委員会または南富良野町教育委員会（金山コース）などへお問合せ下さい。

【大夕張コース】ガイド

登山口へのアクセス…国道四五二号線から登山口までの林道は約一五キロあります。「白銀橋」を渡って約五キロ地点にゲートがあり、ヒュッテま



駐車場にあるトイレ

で約九キロの案内板があります。ゲートの開放は六月の中旬から九月末までとなります。登山口には約二〇台ほどの駐車スペースがあります。（週末は混み合いますので注意）国道入り口から登山口まで車でおおよそ三〇分かかります。

トイレ…登山口駐車場入口とヒュッテ裏にあります。ヒュッテ裏トイレは手作りのバイオトイレです。皆さんでご利用するためにも協力金をお願いします。登山道にはトイレはありませんので、登山開始前に済ませるようにしましょう。また、ヒュッテでは携帯トイレ（モンベル製）が置いてあります。携帯トイレは協力金方式で購入可能です。

ストック…登山道の保護のためストックを使用される方は、先端にキャップを付けましょう。コース以外の立入は禁止です。

休憩…休む時は草花の上に腰掛けないで下さい。
高山植物の採取は犯罪です。絶対に止めましょう。

ヒグマ…この山域は熊の生息地でもあります。食べ物やゴミは絶対に捨てないで下さい。出沒情報などは、コザクラの会ホームページに掲載する場合もあります。詳しくはヒュッテ入口にある「熊目撃情報」を参照して下さい。

水場…コース上の水場は、すべて沢水です。「冷水ノ沢」「前岳ノ沢」「憩沢」「一四〇〇m湿原」「ヒュッテ」などで得ることが出来ます。一四〇〇m湿原の水場は、伏流水で大変冷たくお勧めです。ただし、各沢水の飲料についてはその安全性は保障するものではありません。あくまでも自己責任でご使用して下さい。

駐車場の先に小さなゲートの横に登山ポストがあります。必ず記入してから登りましょう。(下山時も記入を忘れずにお願いします)

平成二七年度より試験的に登山者カウンターを冷水コース、馬の背コースの登山口に取り付けています。併せてご協力お願いします。(下山時は押さないで結構です)

■コースタイム(冷水コース) 標高差 一一六八m
登り四時間十分 下り二時間五〇分

(登り) 林道終点↓11:30↓冷水の沢↓0:20↓馬の背コース分岐↓0:30↓望岳台↓0:30↓憩沢↓1:00
↓吹き通し↓0:30↓夕張岳

(下り) 林道終点↑11:00↑冷水の沢↑0:10↑馬の背コース分岐↑0:20↑望岳台↑0:20↑憩沢↑0:40
↑吹き通し↑0:10↑夕張岳



冷水コース登山口看板

■コースタイム(馬の背コース) 登り四時間二〇分

下り三時間(登り) 林道終点↓0:20↑タ張岳ヒュ

ッテ↓1:10↓冷水コース分岐

(下り) 林道終点↑0:20↑タ張岳ヒュッテ↑1:10

↑冷水コース分岐

■コースタイム(馬の背コース) 登り四時間二〇分

下り三時間(登り) 林道終点↓0:20↑タ張岳ヒュ

ッテ↓1:10↓冷水コース分岐

(下り) 林道終点↑0:20↑タ張岳ヒュッテ↑1:10

↑冷水コース分岐

※コースタイムは日帰り装備での標準タイムです。個人差がありますので参考情報として活用してください。

【冷水(ひやみず)コース】

駐車場には登山届けポストがあるので、記入してから出発します。登山ポストから林道を歩きはじめると直ぐに滝があります。ポンケモユーパロ川の支流の滝で暑い日はマイナスイオンを浴びて気分をリフレッシュします。カーブを五回曲がると冷水コースの入り口が見えてきます。

登山者カウンターがあるので、一人一回押してから登山を開始します。しばらく林道跡のような暖傾斜の直線的な道続きますが、道が左に折れると森林の中に導かれます。比較的疎林で林床はシダ類などの植物が多くあります。アカエゾマツの植林地を抜け樹林の斜面へと登って行くと、だん

だんと傾斜も急になってきます。古い切り株に混じって「シナノキ」に看板が付いた平らなポイントがあるので、ここで小休止。ここまで約二〇〜三〇分くらいなので最初の休憩ポイントにはちょうど良いでしょう。

道はほぼ直線的に左手に見える尾根に沿って高度を上げていきます。傾斜が緩々になってコースが右にカーブを切ると目の前には大きな「おぼけ岩」が現れます。いきなりヌユウつと現れるので



おぼけ岩



冷水の沢

を取るパイプが設置されているので給水するのもよいでしょう。ここまでは西斜面を登っているの
で、朝は日が当たらず夏場の暑い時期幸いです。
一〇分ほど先には「前岳ノ沢」もありますが、水量が乏しく水場としては冷水ノ沢での補給が良いでしょう。

お化け岩と呼ばれています。この岩は前岳湿原から先に見られるノッカー地形（P7参照）の一端で出来た地形とみられます。道は平坦になり冷水の沢に到着します。水

正面に空が以前より大きくなると、徐々に尾根が近くなってくるのが感じ取れるようになります。前岳の沢を通過するともうまもなく馬の背コースとの分岐ポイントで、合流すると前岳の西尾根に出ます。周りの樹木は小さな灌木以外はほぼエゾマツ、トドマツ、ダケカンバで占められています。ここまで登山口から約一時間二〇分位です。

尾根上はこれまでの登山路と違い、展望はかなり良くなってきます。まずは北側に岩壁をまとった滝ノ沢岳(通称・姫岳)と東側の目の前には前岳を見上げることができるでしょう。分岐点の標高は約一一〇mあります。

分岐からはしばらく平らな尾根上を行います。左手方向には滝ノ沢岳から延びる稜線上に、地形図上の一二九七m峰が尖った姿を見せてくれます。先にある望岳台では、逆にこの山を見下ろすことになります。



マツ類・ダケカンバの混合林



石原平のシラネアオイ群落



石原平先の岩場

ラネアオイの群落があります。滝ノ沢岳の展望台と休憩地としても利用されていますが、シーズン中コースロープを張っていますので、コース外に立ち入ることは止めましょう。

木杭で整備された急登が出てくると、前岳のちようど中腹の部分に取り付いた状態です。さらに急登を登っていくと道は平らになってきます。大岩の点在する台地に出ると間もなく林相はダケカンバ林に表情を変えて、日本庭園のような雰囲気になってきます。このあたりは山開きから七月上旬までシラネアオイの花のポイントです。

石原平（せきげんだいら）には北海道有数のシ



望岳台から望む芦別岳

南東側に見上げる前岳の岩峰もまた圧巻です。石原平からは、またロープがある急な登りを経て望岳台に到着します。望岳台は前岳と滝ノ沢岳を結ぶ稜線にあり夕張山地の展望台です。望岳台

が全コースの（距離的に）概ね中間地点になります。ここはオーバーハング状に張り出した岩壁上なのであまり端に近寄らないようにして下さい。晴れていれば芦別岳を真北に望み、西の遠望には羊蹄山や石狩湾、小樽方面まで見渡せる休憩の絶好の場ともなっています。反対側を振り向くと、首が痛くなるような角度で前岳が大きくそそり立っています。一四八七m峰の丸い山容の右側が**望岳本峰**ですが、望岳台からはまだ見えません。望岳台からは前岳の中腹をトラバースするようにアップダウンが続きます。今まで森林を構成していたダケカンバやトドマツは姿を消して灌木と笹が多くなってきました。何本か小さな沢を通過しますが、山開き直後は雪渓が残っている事も多く、滑落しないように気をつけましょう。七月中旬くらいまでは軽アイゼンを持つことをお勧めします。（ユウパリコザクラの会のホームページ）

に、山開き時期の登山道の情報がありますので参考にしてください。）

トラバースをやり過ぐすと比較的大きな沢に飛び出しますが、ここが「鰐い沢」になります。シナノキンバイ、ミヤマダイコンソウ、ミヤマキンポウゲなどの群落にも出会えます。



木道の登山道

登山道は
鰐沢手前か
ら一部木道
が敷かれた
緩い登りで
「前岳湿
原」に出て
から木道が
多くなつて
きます。遅
くまで雪渓
が残ります



岩がま



夕張岳本峰（奥）と姫岩

が、解けてしまうと水量は意外と少なくなります。沢の中のような道をひと登りすると木道が出てきてやがて前岳湿原入口に到着します。

前岳湿原は標高約一三五〇mに広がる湿原で雪田地帯にあつて多くの雪がたまる場所にあります。近くには大きな突き出た岩があり、男岩に対抗して「姫岩」ともいわれています。雪田地帯に特有な高山植物も多くあ



ユウパリ コザクラ

ります。標識から少し進むと夕張山地や夕張岳本峰をはじめ十勝連峰まで見渡せる景色の良いポイントがあります。男岩・ガマ岩といったノックア地形を代表する景観の中を登山道は進んでいきます。

登山道は木道が中心となり、濡れているととても滑りやすいので注意しましょう。ガマ岩は年々崩壊が進んでいるようで、以前は貴重な固有種があった場所も上から崩れてきた瓦礫に埋まってしまったこともあります。ガマ岩を過ぎるとすぐにひょうたん沼があり、初夏にはカエルやサンショウウオの卵などが孵化します。

木道は笹原を進み蛇紋岩崩壊地に到着します。

ここは雪解けの早い場所であり、例年山開き後から固有種のユウパリコザクラ、シソバキスミレなどが見られるポイントです。木道の直ぐ下にも株があつたりするので、写真撮影は木道から外れないようにしましょう。蛇紋岩崩壊地は沢の源頭あ



シロウマアサツキ

雪を蓄える山は無いので、なぜここに湧き水がでてくるのか不思議です。ここを過ぎると木道の高さも高くなり、木道の下には水路ができていて雪解けの時期

たり、川は南側のシュウパロ湖に流れていきます。笹も背の低い笹に変わり眺望も開けてきます。ほぼ平坦な木道が続く、快適に歩を進めていくと一四〇〇m湿原に到着します。ここには湧き水が出ていて冷たくてとてもおいしいと評判です。一四八七峰の近くではありますが、周りには



熊が峰と釣鐘岩（左）

ます。釣鐘岩は遠くから見ると円錐の尖った山に見えますが、近くから見ると山容は異なります。この近辺が、毎年ヒグマの目撃例が多い場所でもあります。

は川のように水が流れています。湿原の象徴とも言えるシロウマアサツキの群落は春から夏への風物詩としても絵になる景色です。
道は少しずつ高度を上げて釣鐘岩の下に取り付きます。地形図上の一六三一m熊が峰と釣鐘岩との間を進み、道も木道から普通の登山道に変わります。



ユウバリソウ

ハイマツ交じりの笹原を抜けると吹き通しに到着します。固有種ユウバリソウ、ユキバヒゴタ、ナンブイヌナズナ、いいでしょうなどの群落

が登山道脇にへばりつくように生えています。他にも種類は多く、つい足を踏み出したくなる場所ですが、くれぐれも登山道コー

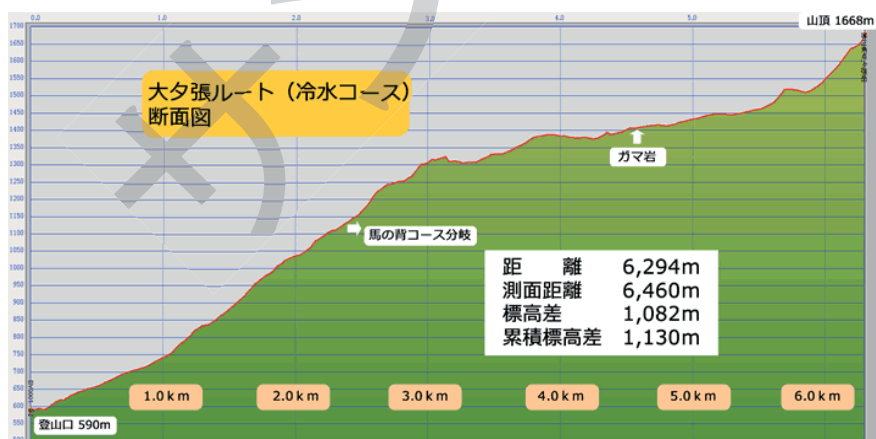
スロープから外れないように注意して下さい。

吹き通しからすぐに金山分岐に到着します。金山コースは大夕張コースよりも2kmほど距離が長いですが、静かな山歩きができます。ここから山頂までは、おおよそ300mですが、急な登りが続きます。道はジグを切り灌木とハイマツの中を進んでいきます。傾斜が緩くなると山頂下神社はもうすぐです。山頂下神社の周りは広く休憩にはちょうど良い場所がありますが、草花の上に腰掛けるのは止めましょう。

山頂は直ぐ目の前、距離にして80mくらいです。山頂に到着すると三六〇度の眺望が広がり、疲れが吹き飛んでしまうことでしょう。夕張山地はもちろん、十勝連峰やヨ高山脈、札幌方面の山々、大雪方面などさえぎるものは無い眺望が楽しめます。前岳方向に目をやるとは今まで歩いてきたルートとポイントがはつきりと確認することができるよう。



夕張岳山頂から前岳・滝ノ沢岳方向



大夕張ルートの断面図

【馬の背コース】

冷水コース登山口から分かれ、夕張岳ヒュッテ前にこのコースの登山口があります。冷水コース同様にカウンターポストがあります。林の中に入り、沢沿いの踏み跡を辿るとすぐに急斜面のつづら折りの道になって尾根に取付いていきます。ほぼ登り一辺倒の辛さがありますが、**尾根の上**に出るところで展望が利いて滝ノ沢岳が望まれます。この尾根には見ごたえのある**冷温帯**針広混交林が残っています。

コース上には二つの顕著なコブがあり、「一ノ越」「二ノ越」と呼ばれた急な登りがあります。一ノ越は登山道脇の笹を掴まえながら登るほど急ですが二ノ越は小さくすぐ先には冷水コースとの合流点となります。

以降は、冷水コースガイドを参照してください。どちらのコースもコースタイムに大きな違いはありませんが、通常お勧めしているのは、登り・

冷水コース、下り・馬の背コースです。急な下りがちよつと苦手という方は冷水コースの往復が良いでしょう。

馬の背コースは、尾根の上に作られたコースになるため、途中には水場はありません。

【金山コース】

このコースのエリアは、南富良野町側になるためコースガイド並びに登山口までのアクセス等については、各登山ガイド本などを参照して下さい。コース全長8.6キロに及ぶ長大な尾根歩きのコースです。途中に水場はありません。

登山道は比較的整備されていますが、近年、小夕張岳（一二三四m）から先のルートが、やや不明瞭になっているという報告もあります。ルートロスなどには十分注意してください。

文化施設の夕張岳ヒュッテ

藤井 純一

(ユウパリコザクラの会代表)



文化施設の夕張岳ヒュッテ

ユウパリコザクラの会 代表 藤井純一

一九八九年夕張岳にスキー場はいらないとユウパリコザクラの会が誕生しました。夕張岳は太古の昔から脈々と続いて生き延びている動植物が、かろうじて生息している山です。特異な地質及び地理的要件で固有植物が多く、全国の登山者を魅了して止まない山です。

自然と人間の営みの調和は必要なことかもしれませんが、この夕張岳にどこにでもある様なスキー場を作るとは断じて許すことは出来ません。

飛行機が新千歳空港の滑走路を後にすると、眼下にはゴルフ場があちこちに見られます。羽田に近づく低空飛行に入るともうそれはゴルフ場の海。こんな狭い日本にどうして自然を破壊してまでゴルフ場を作らなければならないのか。良いゴルフ場の条件は水はけです。保水を保てない自然をこんなに作っていいので

しょうか。水のかん養が成り立たなくなってしまうです。これはもう国土に対する犯罪です。

ユウパリコザクラの会も紆余曲折がありました、開発の計画を断念させ、さらには国の天然記念物の指定までこぎ着けました。



日本の山はゴルフ場だらけ



旧夕張岳ヒュッテ

に無鉄砲き
わまらない
新ヒュッテ
建て替えの
話がわき上
がりました。
様々な行
政的な煩わ
しさを克服
して、再建
工にこぎ着
けました。財

夕張市の財政破綻により維持管理が出来なくなつた市営夕張岳ヒュッテをユウパリコザクラの会が全面的に管理運営を引き受けることになりました。先のことは考えずに、唯々夕張岳を愛し守る思いで引き受ける決断をしました。いざ管理を引き受けて管理人を常駐させることに四苦八苦していた最中、自然発生的



地球温暖化のイメージ

人間が生まれたときから死に向かつていると同じように、地球も誕生以来滅亡に向かって歴史をきざんでいると思います。それが自然のなせる事であれば享受しなければならぬことです。が、産業革命（IR）以来急に

源は一口千円一万人募金キャンペーンです。全国に夕張岳を愛し案じてくれる人がこんなにいるのかと驚き、また感激しました。
さて全国の皆様の御支援で夕張岳ヒュッテが再建されました。ここはもちろん従来からの登山のベースとして、あるいは避難小屋として利用いただくのもとり、青少年の教育の場と考えております。

地球は変化をしています。

一九九八年ノルウエー本土の北、北緯八〇度のノールアウストランネという無人島でボーリングをし、アイスコアを採取しました。三カ国共同研究でノルウエー及びフランスはもっぱらチェノブイリの放射能汚染を調べていました。我が日本隊は深度二百メートル超を掘る事が出来ました。その採取したアイスコアはちようど産業革命くらいの年代からのもので、明らかに化石燃料に起因する汚染が急激に現れてきました。それからたった二百年あまりで地球は恐ろしい程の状態になっています。二酸化炭素だけではないという説はありますが、この急激な変化は人類の欲望の追求の結果であることは間違いないことです。

人間の便利さの追求はだれも止めることは出来ません。それを思うとむなしくなりますが、その便利さの追求が自然を取り返しのつかない状態にしていることは間違いない事だと思えます。科学は格段に進歩をしています、この自然界のほんのひとにぎりの



教育の場としての利用も期待される

生物（全人類の一部）しか享受していません。取り返しのつかない犠牲の上に人間はあくなき欲望を追求していきっているのです。我々だけでこの欲望をほしいままにし、そして食いつぶすことが許されるのでしょうか。この地球を未来の人たちに健全な形でのごすことが、いま生きている人たちの義務です。それには私たち自身そして子供たちの自然教育が重要なことと思います。

夕張岳ヒュッテを子ども達のそして大人の教育の場として、自然に触れ畏怖心を持ち自然の驚異に感動する場、自然を慈しむ人々を育てる場にしたいと思っています。また文化の里として活用したいと思っています。過去に宮沢賢治にまつわる催し物をしたことがあります。宮沢賢治の思いをあらためて深く感じたいと思います。

自然保護と文化は分離できないことです。ノーベル平和賞を受けたマララ・ユスフザイさんが演説してい

ます。*Education is the only solution. Education First* と。小さい時からの自然教育が一番大切だと思います。すぐ成果は現れないと思いますが、それを夕張岳ヒュッテで実現したいと思います。



Ken



阿部 博子 (ユウパリコザクラの会)



エゾノハクサンイチゲ

樹林帯～石原平・望岳台付近

P 153～P 164



稜線・湿原

P 165～P 178



蛇紋岩崩壊地・吹き通し～山頂

P 179～P 191



* 花別の索引 P 192～P 194

樹林帯～石原平・望岳台付近



エゾアジサイ【アジサイ科】

高さ1～1.5mの落葉低木。青色、紫色、ピンク色、色鮮やかな飾り花が薄暗い樹林帯の中で登山者の目を楽しませてくれます。

花期 6月～7月



エゾノヨツバムグラ
【アカネ科】
6月～8月上旬



クルマバソウ
【アカネ科】
6月～7月

樹林帯～石原平・望岳台付近



ツルアリドオシ
【アカネ科】
8月



ミヤマキヌタソウ
【アカネ科】
7月～8月上旬



ミヤマタニタデ
【アカバナ科】
7月～8月



エゾノイワハタザオ
【アブラナ科】
6月



エソワサビ
【アブラナ科】
5月下旬～7月上旬



オオバタネツケバナ
【アブラナ科】
5月～6月

樹林帯～石原平・望岳台付近



コンロンソウ
【アブラナ科】
6月



コミヤマカタバミ
【カタバミ科】
5月下旬～6月



オオカメノキ
【ガズミ科】
5月～6月



ウスバトリカブト
【キンボウゲ科】
8月～9月



エソノレイジンソウ
【キンボウゲ科】
7月～8月



ハクセンナズナ
【キンボウゲ科】
7月中旬～8月中旬

樹林帯～石原平・望岳台付近



ヒメイチゲ
【キンボウゲ科】
5月～6月



エソミヤマハンショウヅル
【キンボウゲ科】
6月



ルイヨウショウマ
【キンボウゲ科】
6月



マイツルソウ
【クサスギカズラ科】
5月～7月



ミヤマエンレイソウ
【シュロソウ科】
5月～6月



カラスシキミ
【ジンチョウゲ科】
5月下旬～6月

樹林帯～石原平・望岳台付近



シラネアオイ【キンポウゲ科】

登山口への林道ゲートが開く頃、石原平（せきげんだいら）の大群落が見頃を迎え、その後、登山道沿いの雪渓がとけた所でも順次咲きだします。
花期 5月中旬～6月



エソヒョウタンボク
【スイカズラ科】
5月～6月



カノコソウ
【スイカズラ科】
6月～7月

樹林帯～石原平・望岳台付近



ケエゾキシミレ
【スミレ科】
6月～7月中旬



フギレキシミレ
【スミレ科】
8月～9月



ミヤマスミレ
【スミレ科】
5月～7月上旬



エゾニュウ
【セリ科】
7月～8月



オオハナウド
【セリ科】
6月～7月



イワツツジ
【ツツジ科】
6月～7月上旬

樹林帯～石原平・望岳台付近



エゾイチヤクソウ
【ツツジ科】
7月中旬～8月



オオバスノキ
【ツツジ科】
5月下旬～7月



ギンリョウソウ
【ツツジ科】
6月中旬～7月中旬



コイチヤクソウ
【ツツジ科】
7月～8月



コバノイチヤクソウ
【ツツジ科】
7月～8月



クロツリバナ
【ニシキギ科】
6月～7月

樹林帯～石原平・望岳台付近



ムラサキヤシオツツジ【ツツジ科】

高さが1～2mの落葉低木。夕張岳登山口への林道が開く頃、樹林帯の中で鮮やかなピンク色の花を咲かせ登山者を魅了します。

花期 6月



オオバミゾホオズキ
【ハエドクソウ科】
6月下旬～8月上旬



オニシモツケ
【バラ科】
7月～8月

樹林帯～石原平・望岳台付近



ヒメゴヨイチゴ
【バラ科】
6月中旬～7月



ヤマブキショウマ
【バラ科】
6月～7月



ギョウジャニンニク
【ヒガンバナ科】
6月～7月



ゴゼンタチバナ
【ミズキ科】
6月～7月中旬



ミネカエデ
【ムクロジ科】
6月～7月



ルイヨウボタン
【メギ科】
6月

樹林帯～石原平・望岳台付近



ズダヤクシュ
【ユキノシタ科】
6月～7月



ダイヤモンドソウ
【ユキノシタ科】
7月～9月



フキユキノシタ
【ユキノシタ科】
7月～8月



クルマユリ
【ユリ科】
7月～8月



ツバメオモト
【ユリ科】
5月中旬～6月



アリドオシラン
【ラン科】
7月下旬～9月

樹林帯～石原平・望岳台付近



エソスズラン
【ラン科】
7月～8月



オオキソチドリ
【ラン科】
7月中旬～8月



クモキリソウ
【ラン科】
6月下旬～7月



ノビネチドリ
【ラン科】
5月下旬～7月



ミヤマチドリ
【ラン科】
7月中旬～8月



ツルリンドウ
【リンドウ科】
7月下旬～9月

Column 笹の花が咲いた？

登山道を歩いていると見慣れない花に出会いました。その茎を辿って葉へと目を向けていくと、なんとそれは笹でした。そうです、笹も花を咲かせるのです。でも、あれだけたくさん茂っているのに笹の花を見かけることが少ないのはどうしてなのでしょう。それは数十年（60年とか70年とかいわれるが、笹の種類によってことなる）に一度しか花を咲かせないからです。

笹はその生涯の終わりに花を咲かせ、風で花粉を飛ばし、実を稔らせ、そして枯れてしまいますが、その種が発芽し、地下茎を伸ばし、また群落が復活します。ところが、繁殖力旺盛に思える笹の成長は実はあまり早くはなく、元の群落に戻るには30年以上の長い月日がかかるようです。

笹を取り巻く環境への影響はどうでしょうか。笹が枯れたあと、これまで遮られていた太陽の光が地表面にまで達し、ほかの植物にとっては発芽、成長し定着できる絶好のチャンスが訪れます。

笹は人間と同じくらい、またはそれ以上に長寿です。データが蓄積されてきているとはいえ、まだわからないことが多いようです。それでも熱心な研究者の皆さんのおかげで、ほかの植物とは違う笹のユニークな生活史の一部をうかがい知ることができます。





ヤマガラシ
【アブラナ科】
6月下旬～8月



ヒオウギアヤメ
【アヤメ科】
6月下旬～8月



テングクワガタ
【オオバコ科】
6月～8月



ハイオトギリ
【オトギリソウ科】
7月～8月



エゾウサギギク
【キク科】
7月～8月



タカネニガナ
【キク科】
7月～8月



タカネタンポポ 【キク科】 別名：ユウバリタンポポ

夕張岳の蛇紋岩地帯、日高山脈で見られます。近年、山頂付近では帰化植物セイヨウタンポポの姿も見られるようになり悩ましい・・・。

花期 6月下旬～7月



カンチコウゾリナ
【キク科】
7月～8月



コモチミミコウモリ
【キク科】
7月下旬～9月



チシマアザミ
【キク科】
6月下旬～8月



トウゲブキ
【キク科】
7月中旬～8月



ナガバキタアザミ
【キク科】
7月中旬～8月



ハンゴンソウ
【キク科】
7月～8月



ミヤマアキノキリンソウ
【キク科】
7月～10月



ヤマハハコ
【キク科】
8月～9月



エゾノホソバトリカブト 【キンポウゲ科】 別名：ユウバリウス

亜高山～高山地帯では、葉が線形、線状披針形をしたこのトリカブトが見られます。樹林帯ではウスバトリカブトが咲いています。

花期 7月下旬～9月



エゾイチゲ
【キンポウゲ科】
5月～7月



エゾノリュウキンカ
【キンポウゲ科】
6月中旬～8月上旬



カラマツソウ
【キンボウゲ科】
6月下旬～8月



シナノキンバイソウ
【キンボウゲ科】
7月～8月中旬



ミツバオウレン
【キンボウゲ科】
6月～7月



ミヤマキンボウゲ
【キンボウゲ科】
6月中旬～8月上旬



ミソガワソウ
【シソ科】
7月～9月上旬



ミヤマウツボグサ
【シソ科】
6月～8月



ショウジョウバカマ
【シュロソウ科】
5月～7月



バイケイソウ
【シュロソウ科】
6月～8月



ウコンウツギ
【スイカズラ科】
6月下旬～7月



ケヨノミ
【スイカズラ科】
6月～7月上旬



チシマヒョウタンボク
【スイカズラ科】
6月下旬～8月上旬



エゾカンソウ
【ススキノキ科】
6月中旬～8月上旬



ウスバスミレ
【スミレ科】
6月



オオバタチツボスミレ
【スミレ科】
6月～7月



キバナノコマノツメ
【スミレ科】
6月～7月



シラネニンジン
【セリ科】
7月～8月



ハクサンボウフウ
【セリ科】
6月中旬～8月



ヒメイワショウブ
【チジマゼキショウ科】
7月～8月



ムシトリスミレ 【タヌキモ科】

花はスミレに似ていますが、タヌキモ科の食虫植物です。内巻きの葉の表面にある腺毛・腺体から粘りのある消化液を出し、小さな虫を捕えます。
花期 7月～8月



エゾイブキトラノオ
【タデ科】
7月～8月



ムカゴトラノオ
【タデ科】
7月～8月



アカモノ
【ツツジ科】
6月下旬～7月



シラタマノキ
【ツツジ科】
6月下旬～7月



ミヤマホツツジ
【ツツジ科】
7月中旬～8月中旬



ウメバチソウ
【ニシキギ科】
8月～9月



シオガマガク
【ハマウツボ科】
7月中旬～8月



エゾノシモツケソウ
【バラ科】
7月中旬～8月



オオタカネバラ
【バラ科】
6月～7月



タカネザクラ
【バラ科】
5月～7月



チシマワレモコウ
【バラ科】
7月～9月



ノウゴウイチゴ
【バラ科】
6月～7月



チシマフウロ
【フウロソウ科】
6月中旬～8月



チシマミクリ
【ミクリ科】
7月下旬～8月中旬



シロウマアサツキ 【ヒガンバナ科】

夕張岳の標高1400m付近のアサツキ湿原で群生しています。北海道では夕張岳の他に日高山脈北部チロロ西峰で見られます。

花期 7月～8月



イワイチョウ
【ミツガシワ科】
7月～8月



サンカヨウ
【メギ科】
5月中旬～7月



モウセンゴケ
【モウセンゴケ科】
7月～8月



アラシグサ
【ユキノシタ科】
7月～8月上旬



エゾクロクモソウ
【ユキノシタ科】
7月～9月



オオバタケシマラン
【ユリ科】
6月～7月



ヒメタケシマラン
【ユリ科】
6月～7月



シロウマチドリ
【ラン科】
7月中旬～8月中旬



ミヤマアケボノソウ 【リンドウ科】

前岳湿原～1,400m湿原までの稜線で多数出会います。北海道では夕張山地及び日高山脈、大雪山などの限られた場所で見られます。

花期 7月下旬～8月



ハクサンチドリ
【ラン科】
6月～7月



エゾオヤマリンドウ
【リンドウ科】
8月～9月

Column 虫を食べる植物？

7月に入ると蛇紋岩崩壊地や湿原にムシトリスミレが咲き始めます。名前の通りスミレに似た花を咲かせますが、実はスミレ科ではなくタヌキモ科の植物です。漢字で書くと「虫取堇」。こんな愛らしい植物にどうしてそのような名前が付けられているのでしょうか。やはりそれは名前の通り、虫を捕まえて栄養分を摂る植物だからなのです。葉の表面に腺毛と腺体が密生していて、そこから分泌される粘液（消化液）で近寄ってきた虫を捕えます。昔、住宅の天井からぶら下げたハエ取り紙方式ですね。そして捕えられた虫はじわじわと消化されてゆくのだそうです。

登山の時、ムシトリスミレに出会ったら、歩みを止めて少し観察してみましょう。内巻きで受け皿のようになった葉に小さな虫がたくさんついています。たまに虫がついていない綺麗な葉の個体があります。もしかして虫が捕れなくてお腹を空かせているしら・・・と思ったことありましたが、心配ご無用。他の植物同様、ちゃんと光合成しています。栄養分の少ない蛇紋岩地などの礫地に咲く植物であることを考えると、ムシトリスミレの「虫取り作戦」は生き残るための独自の戦略なのかもしれません。

タ張岳では湿原や吹き通しなどで惜しげもなくたくさん咲いていますが、北海道では日高山脈の北部とここタ張山地でしか正式には報告されていないようです。





ナンブイヌナズナ【アブラナ科】

高山の蛇紋岩地やかんらん岩地の花。夕張岳では吹き通しで咲いていますが、北海道では日高山脈北部でも見ることができます。

花期 6月中旬～8月上旬



タカネグンバイ
【アブラナ科】
6月～7月



イワブクロ
【オオバコ科】
7月～8月

蛇紋岩崩壊地・吹き通し〜山頂



ユウバリソウ【オオバコ科】 ※夕張岳の固有種

夕張岳登山口への林道ゲートが開く頃、蛇紋岩地の吹き通しで涼しげな花を咲かせています。花は下から咲き始めます。

花期 6月下旬〜7月



エゾヒメクワガタ
【オオバコ科】
7月〜8月



エゾミヤマクワガタ
【オオバコ科】
7月〜8月

蛇紋岩崩壊地・吹き通し～山頂



ユキバヒゴタイ【キク科】

真夏の夕張岳、吹き通しで見ることができます。蛇紋岩地の夕張岳、日高山脈北部のかんらん岩地に咲きます。

花期 7月下旬～8月中旬



サマニヨモギ

【キク科】

7月下旬～8月中旬



ミヤマアズマギク

【キク科】

6月下旬～8月

蛇紋岩崩壊地・吹き通し〜山頂



ミヤマオグルマ
【キク科】
7月～8月上旬



エゾノハクサンイチゲ
【キンボウゲ科】
6月～8月上旬



ミヤマオダマキ
【キンボウゲ科】
6月下旬～8月



オオカサモチ
【セリ科】
7月～8月



ホソバトウキ
【セリ科】
7月～8月



ヒメイワタデ
【タデ科】
7月～8月



シソバキスミレ【スミレ科】 ※夕張岳の固有種

葉の表面に光沢があり、葉脈が赤く、裏面はアカジソのように紅紫色を帯びます。個体数が少なくなっています。

花期 7月～8月上旬



アイヌタチツボスミレ
【スミレ科】
5月～7月上旬



エソタカネスミレ
【スミレ科】
6月中旬～7月中旬



ユウパニコザクラ【サクラソウ科】 ※夕張岳の固有種

蛇紋岩地の雪田に咲きます。雪溪がとけた箇所から順次開花します。花茎と葉の裏面に白い粉状物がつき、花は1〜4個と少ないのが特徴。
花期 6月下旬〜8月



ツマトリソウ
【サクラソウ科】
6月〜7月



イワウメ
【イワウメ科】
6月下旬〜7月

蛇紋岩崩壊地・吹き通し〜山頂



チシマキンレイカ
【スイカズラ科】
7月～8月



ウラシマツツジ
【ツツジ科】
5月下旬～7月中旬



キバナシャクナゲ
【ツツジ科】
6月～8月



コメバツガザクラ
【ツツジ科】
6月～7月



ミネズオウ
【ツツジ科】
6月下旬～7月



ヒメナツトウダイ
【トウダイグサ科】
5月下旬～7月



カトウハコベ 【ナデシコ科】

超塩基性岩地の植物で、夕張岳の他には日高山脈北部で見られます。花期が長く夏の終わりまで咲いています。

花期 6月～8月



エソタカネツメクサ
【ナデシコ科】
6月下旬～8月



ホソバツメクサ
【ナデシコ科】
7月～8月

蛇紋岩崩壊地・吹き通し〜山頂



タカネナデシコ
【ナデシコ科】
7月下旬〜8月



エゾヨツバシオガマ
【ハマウツボ科】
7月〜8月中旬



ウラジロナナカマド
【バラ科】
6月中旬〜7月



タカネナナカマド
【バラ科】
6月中旬〜7月



チングルマ
【バラ科】
6月中旬〜8月上旬



マルバシモツケ
【バラ科】
6月〜7月



ユウパリキンバイ【バラ科】

吹き通しに咲くミヤマキンバイの変種です。鋸葉は主脈までの半ば近くまで深く切れ込んでいるのが特徴です。

花期 7月



ミヤマダイコンソウ
【バラ科】
7月～8月



ホソバイワベンケイ
【ベンケイソウ科】
7月～8月

蛇紋岩崩壊地・吹き通し～山頂



ユウパリリンドウ 【リンドウ科】

夕張岳の蛇紋岩崩壊地、吹き通しの前後で咲いています。日高山脈、大雪山でも見られ、亜種オノエリンドウによく似ています。

花期 8月～9月



ミヤマリンドウ
【リンドウ科】
7月下旬～9月



クモユキノシタ
【ユキノシタ科】
7月～8月



エソノタカネヤナギ
【ヤナギ科】
6月～7月



ミネヤナギ
【ヤナギ科】
5月～6月

Column 美しい花には毒がある？

晩夏から初秋の夕張岳を歩いていると、ふっくらとした豆形の濃い紫色の花に魅了されます。花の形が古来の舞楽の衣装に用いるかぶり物「鳥兜」に似ていることから、トリカブトという和名がつけられたようです。

ところがその花の美しさとは裏腹にトリカブトは日本三大有毒植物のひとつとされています。アコニチンという猛毒が主成分で他に数種類の有毒成分が全草（根が一番多いと言われている）に含まれています。蜜や花粉による中毒例もあるため、養蜂家はトリカブトが自生している場所での採蜜をしない、または開花時期を避けているようです。

アイヌ民族はトリカブトの根で狩りのための毒矢を作りました。トリカブトだけの毒で2時間以内、他の成分も加えて増強すると1時間以内で熊が息絶えたとの記録があります。

夕張岳の亜高山帯、高山帯ではエソノホソバトリカブト (*Aconitum yuparense* var. *yuparense*) という種が咲いています。葉が3～5つに深く裂け、さらに切れ込み葉先が鋭く尖ります。北海道の中央高地以西の山で見られますが、標本が

夕張岳で採取されたとのことで、ユウバリウズ（夕張烏頭）という別名があります。ウズ（烏頭）はトリカブトの母塊根のことです。

やや繊細なイメージを受けるこのエゾノホソバトリカブトは花がほとんど終わって寂しくなった夕張岳の稜線で秋風に揺れ、登山者の目を楽しませてくれます。樹林帯ではウスバトリカブト、林道ではエゾトリカブトの姿を楽しむことができます。

有毒な植物はトリカブトだけではありませんが、毒があってもなくても、美しい野山の花は眺めて楽しむだけにとどめておくことにしましょう。



夕張岳に咲く花々 索引

エソヒョウタンボク	157
エソミヤマクワガタ	180
エソミヤマハンショウツル	156
エソヨツバシオガマ	187
エソワサビ	154
オオカサモチ	182
オオカメノキ	155
オオキシチドリ	163
オオタカネバラ	174
オオバスノキ	159
オオバタケシマラン	176
オオバタチツボスミレ	171
オオバタネツケバナ	154
オオハナウド	158
オオバミゾホオズキ	160
オニシモツケ	160

か〜こ

カトウハコベ	186
カノコソウ	157
カラスシキミ	156
カラマツソウ	169
カンチコウゾリナ	166
キバナシャクナゲ	185
キバナノコマノツメ	171
ギョウジャニンニク	161
ギンリョウソウ	159
クモキリソウ	163
クモマユキノシタ	189
クルマバスウ	153
クルマユリ	162
クロツリバナ	159
ケエソキスミレ	158
ケヨノミ	170
コイチヤクソウ	159
ゴゼンタチバナ	161

あ〜お

アイヌタチツボスミレ	183
アカモノ	173
アラシグサ	176
アリドオシラン	162
イワイチョウ	175
イワウメ	184
イワツツジ	158
イワブクロ	179
ウコンウツギ	170
ウスバスミレ	171
ウスバトリカブト	155
ウメバチソウ	173
ウラシマトツジ	185
ウラジロナナカマド	187
エソアジサイ	153
エソイチゲ	168
エソイチヤクソウ	159
エソイブキトラノオ	172
エソウサギギク	165
エソオヤマリンドウ	177
エソカンソウ	170
エソクロクモソウ	176
エソスズラン	163
エソタカネスミレ	183
エソタカネツメクサ	186
エソニュウ	158
エソノイワハタザオ	154
エソノシモツケソウ	173
エソノタカネヤナギ	190
エソノハクサンイチゲ	182
エソノホソバトリカブト	168
エソノヨツバムグラ	153
エソノリュウキンカ	168
エソノレイジンソウ	155
エソヒメクワガタ	180

夕張岳に咲く花々 索引

ツマトリソウ	184
ツルアリドオシ	154
ツルリンドウ	163
テングクワガタ	165
トウゲブキ	167

な～の

ナガバキタアザミ	167
ナンブイヌナズナ	179
ノウゴウイチゴ	174
ノビネチドリ	163

は～ほ

ハイオトギリ	165
バイケイソウ	170
ハクサンチドリ	177
ハクサンボウフウ	171
ハクセンナズナ	155
ハンゴンソウ	167
ヒオウギアヤメ	165
ヒメイチゲ	156
ヒメイワショウブ	171
ヒメイワタデ	182
ヒメゴヨウイチゴ	161
ヒメタケシマラン	176
ヒメナツトウダイ	185
フキユキノシタ	162
フギレキスミレ	158
ホソバユウベンケイ	188
ホソバツメクサ	186
ホソバトウキ	182

ま～も

マイヅルソウ	156
マルバシモツケ	187
ミソガワソウ	169

コバノイチヤクソウ	159
コミヤマカタバミ	155
コメバツガザクラ	185
コモチミミコウモリ	166
コンロンソウ	155

さ～そ

サマニヨモギ	181
サンカヨウ	175
シオガマギク	173
シソバキスミレ	183
シナノキンバイソウ	169
ショウジョウバカマ	170
シラタマノキ	173
シラネアオイ	157
シラネニンジン	171
シロウマアサツキ	175
シロウマチドリ	176
ズダヤクシュ	162

た～と

ダイヤモンドソウ	162
タカネグンバイ	179
タカネザクラ	174
タカネタンポポ	166
タカネナデシコ	187
タカネナナカマド	187
タカネニガナ	165
チシマアザミ	167
チシマキンレイカ	185
チシマヒョウタンボク	170
チシマフウロ	174
チシマミクリ	174
チシマワレモコウ	174
チングルマ	187
ツバメオモト	162

夕張岳に咲く花々 索引

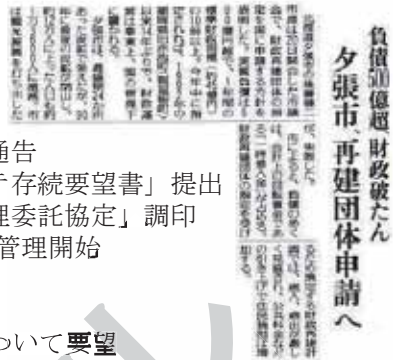
ムカゴトラノオ	172	ミツバオウレン	169
ムシトリスミレ	172	ミネカエデ	161
ムラサキヤシオツツジ	160	ミネズオウ	185
モウセンゴケ	176	ミネヤナギ	190
や〜よ		ミヤマアキノキリンソウ	167
ヤマガラシ	165	ミヤマアケボノソウ	177
ヤマハハコ	167	ミヤマアズマギク	181
ヤマブキショウマ	161	ミヤマウツボグサ	169
ユウバリキンバイ	188	ミヤマエンレイソウ	156
ユウバリコザクラ	184	ミヤマオグルマ	182
ユウバリソウ	180	ミヤマオダマキ	182
ユウバリリンドウ	189	ミヤマキヌタソウ	154
ユキバヒゴタイ	181	ミヤマキンボウゲ	169
ら〜ろ		ミヤマスミレ	158
ルイヨウショウマ	156	ミヤマダイコンソウ	188
ルイヨウボタン	161	ミヤマタニタデ	154
		ミヤマチドリ	163
		ミヤマホツツジ	173
		ミヤマリンドウ	189

《参考資料》

- 梅沢 俊 著 北の花名山ガイド 北海道新聞社 2012
 梅沢 俊 著 北海道山の花図鑑 夕張山地・日高山脈 北海道新聞社 2004
 梅沢 俊 著 新北海道の花 北海道大学出版社 2007
 梅沢 俊 著 新版 北海道の高山植物 北海道新聞社 2009
 梅沢 俊 著 北海道の草花 北海道新聞社 2018
 辻井達一・梅沢 俊・佐藤孝夫 著 新版 北海道の樹 北海道大学出版会 1992
 谷口弘一・三上日出夫 著 北海道の野の花 最新版 北海道新聞社 2005
 鮫島惇一郎・野坂志朗 著 夕張岳の高山植物 大夕張営林署 江沢弘志 1977
 門崎充昭 著 アイヌの矢毒トリカブト 北海道出版企画センター 2003
 一般財団法人 日本森林学会 発行 森林科学 No.69 2013

夕張岳ヒュッテ建て替えの歩み

2007年（H19） 4月 夕張市財政破綻



2008年（H20） 1月 市営ヒュッテ解体の通告
2月 藤倉市長へ「ヒュッテ存続要望書」提出
6月 「ヒュッテ保守・管理委託協定」調印
当会による管理開始

2009年（H21） 10月 林野庁訪問
ヒュッテ建替改築について要望

2010年（H22） 4月 当会によるヒュッテ建替え計画浮上
5月 第27回林野庁長官賞受賞
ヒュッテ建替え許可等を要請
ヒュッテ建替え実行委員会設立
10月 藤倉市長へ旧清陵小学校解体材の払い下げ要望



旧夕張岳ヒュッテ



旧清陵小学校

2011年（H23） 1月 旧清陵小学校解体材搬出
4月 旧清陵小学校解体材釘抜き他整理作業
7月 基礎工事竣工（施工：石川組）
8月 解体材搬送・整理・加工作業



仮組作業（沼ノ沢）



基礎工事（外注）

2012年（H24） 4月 土台部・壁部施工、屋根部施工
 8月 壁部材類他搬送（沼の沢→ヒュッテ）
 10月 屋根トタン張り竣工 外観完成



土台材工事



根太材工事



壁材工事



梁工事



屋根工事



内装工事



新旧ヒュッテ2013.07

ここまでの募金応募 1,210件 （約730万円、支出760万円）
 無償ボランティア就労延べ 1,750余名

- 2013年 (H25) 5月 新ヒュッテ完成祝賀会
 8月 内装部施工
 夕張市へ「夕張岳ヒュッテ建替工事竣工届」提出
 9月 新ヒュッテ宿泊運用開始
 新ヒュッテ完成記念こけら落とし
 10月 旧ヒュッテ解体撤去
 12月 鈴木直道市長他及び関係役所
 建替事業終了報告書提出



新ヒュッテ完成祝賀会（ホテルシュエパロ）

- 2014年 (H26) 4月 内装部追加施工/テラス施工
 6月 新炊事棟基礎工事開始
 2015年 (H27) 4月 新炊事棟床～柱～トタン屋根完成
 2016年 (H28) 6月 新炊事棟内部断熱工事



旧ヒュッテ解体工事



ヒュッテと建築中の炊事棟 2016.5

- 2017年 (H29) 6月 トイレリニューアル・炊事棟電内装内装工事等
 2018年 (H30) 9月 ヒュッテ維持修繕管理・炊事棟内装工事進行中



ヒュッテの囲炉裏



炊事棟内五右衛門風呂



2018年初回のパトロール

編集後記

ユウパリコザクラの会30周年記念誌『夕張岳大いなる自然 その魅力を訪ねて』の編集を終え、皆様にお届けできることになりました。

この30周年記念誌の編集に当たっては、平成28年のオフシーズンに話が始まりました。そこに集まった誰しもが、「平成29年が創立30周年であるのだ」と疑いを持たないままに編集委員会が発足し、途中まで納期に追われて皆焦っていました。冷静に考えてみると、平成元年発足の当会の30周年は平成31年に迎えることが判明したのでした。これには皆が、結構な脱力感を感じましたが、発起人の水尾前事務局長の「したたかな作戦」ではなかったのでしょうか。前2回（20周年・25周年）の記念誌発行に携わった感覚から、1年前に始めてもきつと終わらないので、早めに前倒して尻を叩けば、何とかなるという目算があったのかもしれない。

すっかり冷静になった編集委員は、スケジュールを引き直して月1回の編集会議をこなしながら、無事に編集作業を終えました。

最後に、コンテンツ制作にご協力しました執筆者の先生の皆様はじめ、アドバイスをいただきましたすべての皆様ならびに、助成を頂きました前田一步園財団様に、厚く御礼を申し上げます。

ユウパリコザクラの会30周年記念誌編集委員会一同



早朝の夕張山地のシルエット（南幌町より 左：芦別岳 中：1415峰 右：夕張岳）



山頂から夕張山地の最高峰芦別岳（右側）方面を望む
 （山頂標識右の山：手前から 1415m 峰 シューパロ岳 夕張中岳）

「夕張岳 大いなる自然 その魅力を訪ねて」

初版：2019 年 3 月

編者：ユウパリコザクラの会30周年記念誌編集委員会

デザインDTP等：菊地宏治 阿部博子

版画：河村健（元広報・ヒュッテ管理事務局長 2018年5月没）

発行者：ユウパリコザクラの会（事務局）

〒069-0835 北海道江別市文京台南町53-13 菊地方

TEL 080-6090-1839 FAX 011-387-1385

ISBN 978-4-9910593-0-8 C3040 ¥1500E

本体 ¥1,500 + 税

この本は前田一步園財団自然環境保全活動助成金で製作しました

史跡名勝天然記念物

夕張岳の高山植物群落および蛇紋岩メランジュ帯

ゆうばりだけのこうざんしょくぶつぐんらくおよびじゃもんがんめらんじゅたい

種別 1：天然記念物

指定年月日：1996.6.19(平成 8.6.19)

指定基準：(二) 代表的原始林、稀有の森林植物相

(三) 地層の褶曲及び衝上

所在都道府県：北海道

所在地（市区町村）：夕張市 空知郡南富良野町

現在の北海道の形の基本は、中生代白亜紀から新生代第三紀（約一億年前から約一千万年前）にかけてプレートの沈み込みにより東北海道が接近し、ついには衝突することにより形成されたものである。夕張岳は、この衝突により生じた北海道中央部を南北に走る脊梁山脈のうち夕張山系の南端近くに位置する。

夕張岳の高山植物群落は、蛇紋岩の成分である超塩基性の成分と結びついたきわめて希少な蛇紋岩変形植物、氷河期の遺存種など夕張岳固有あるいは特異的な分布を示す高山植物で特徴づけられる。夕張岳固有種としては、ユウバリコザクラ、エゾノクモマグサ、シソバキスミレなど、また特異な分布を示す植物としては、カトウハコベ、ナンブイヌナズナ、ミヤマハンモドキ、シロウマチドリ等があげられる。

夕張岳の高山植物の組成はわずかな距離で変化し、北海道の山岳でみられる高山植物のほぼ全てがみられる。さらに夕張岳固有の植物が加わることで、他ではみられないほどの豊富で多様な様相を呈している。

接近し、ついには衝突した東北海道の境界地帯である夕張岳を含む一帯は、この過程で地下数十キロメートルの深さにあったカンラン岩に水が付け加わり上昇して形成された蛇紋岩のわが国最大の分布地域となっている。さらに、プレートの沈み込みを示す特徴的岩石として注目され、世界的にも稀な蛇紋岩メランジュが広く分布している。そのなかでも夕張岳周辺は、その中核をなすものであり、地球科学的研究が進展している高緯度地域に存在する蛇紋岩メランジュとしては、世界でも有数のものである。

蛇紋岩は上昇の途中で、様々な時代の変成岩や堆積岩を礫として取り込んでいき、やがて蛇紋岩メランジュとして地表に到達する。夕張岳周辺は、硬質の火成岩や堆積岩に周辺を取り囲まれており、これらが浸食に対する抵抗力の弱い蛇紋岩メランジュが高度の高い山岳地域に露出することを可能にした。また、夕張岳周辺では、蛇紋岩メランジュに取り込まれた礫が地表に突出した典型的なノッカー地形が発達する。夕張岳やガマ岩などは、取り込まれた礫自体であり、ノッカーの典型である。

このように、植物、植生のみならず地形や地質構造においても非常に貴重で学術上卓越した価値を有するものである。よってこれらを天然記念物に指定し、保護を図ろうとするものである。

一等三角点の記

基準点コード		TR16442521001	
ふりがな 点 名	ゆうばりだけ 夕張岳	1/20万国名 夕張岳	1/5万国名 石狩金山 一次 第 117 部
冠字遺点番号	左 第 5号	設置区分	地上(保護石 一 個) 上面舗装
標識番号	標石第 一 号	柱石長	0.82 m
所 在 地	北海道夕張市大字大夕張無番地空知森林管理署1239林班ハ小班		
管 理 者	林野庁 管理:空知森林管理署		
測 点	明治 35 年 7 月 29 日	遺 点 者	空知森林管理署
設 置	明治 35 年 8 月 8 日	設 置 者	空知森林管理署
観 測	平成 19 年 10 月 11 日	観 測 者	空知森林管理署
自動車到達地点	鹿島支線林道終点		
歩 道 状 況	登山道(幅約1.0m)		
徒歩時間(距離)	約 240 分 (約 7000m)		
三角点周囲の状況	岩場、道松、富良野芦別道立自然公園		
履 歴 (1)			
履 歴 (2)			
備 考	平成 19 年 10 月 11 日 更 新 GPS測量		アンテナ高 山 本 点 1.349
高度地域基準点測量 第6023部 高度基準点測量第5047部 自 上 方 盤 石 至 下 方 盤 石 0.22m 立入の際、文書が必要			
要 図 縮尺：1/50,000		空 鹿島支線林道終点	

平成 19 年 11 月 21 日調製 国土地理院

夕張岳の一等三角点の記

点の記：三角点の戸籍又は、案内図。

内容は、点名、所在地、土地の所有者、測量年月日、三角点までの道順、交通、案内図などで構成される。